

学科到達目標

人文・社会・自然科学の基礎知識を修得し、人間力・規範意識および広い視野・素養を身につけて地域や国際社会で活躍できる人を目指す。
 (1) 保健・体育、芸術や社会科学の科目を学び、豊かな心・規範意識や人間力を養い、他者や社会の多様な状況を理解できる知識を身につける。
 (2) 国語や英語の科目を学び、地域や国際社会で活躍するための理解力やコミュニケーション基礎力を身につける。
 (3) 数学、物理や化学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける。

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
一般	必修	現代文 I	1911001	履修単位	2	2																		朝倉 和		
一般	必修	古典 I	1911002	履修単位	1		2																	朝倉 和 後藤 田 和		
一般	必修	地理	1911003	履修単位	2	2																		澤田 大吾		
一般	必修	歴史	1911004	履修単位	2	2																		小河 浩		
一般	必修	政治経済	1911005	履修単位	2	2																		澤田 大吾		
一般	必修	数学 I A	1911006	履修単位	2	2																		川崎 雄貴		
一般	必修	数学 I B	1911007	履修単位	2	2																		菅田 慶		
一般	必修	数学 I C	1911008	履修単位	2	2																		川崎 雄貴		
一般	必修	物理	1911009	履修単位	1		2																	藤原 滋泰		
一般	必修	理科総合	1911010	履修単位	2	2																		大沼 みお		
一般	必修	芸術	1911011	履修単位	1	2																		澤田 大吾		
一般	必修	総合英語 I	1911012	履修単位	4	4																		池田 幸恵		
一般	必修	英語表現 I	1911013	履修単位	2	2																		下田 旭美		
一般	必修	保健体育 I	1911014	履修単位	2	2																		橋本 真		
一般	必修	基礎実習	1911015	履修単位	2	2																		川崎 雄貴, 平井 剛和, 小林 豪, 原 和範, 加藤 博明		
一般	必修	現代文 II	1921001	履修単位	2			2	2															後藤 田 和		
一般	必修	古典 II	1921002	履修単位	1		2																	朝倉 和 後藤 田 和		
一般	必修	歴史	1921003	履修単位	2		2	2																小河 浩		
一般	必修	数学 II A	1921004	履修単位	2		2	2																川崎 雄貴, 平井 剛和, 菅田 慶, 大山 博史		
一般	必修	数学 II B	1921005	履修単位	2		2	2																菅田 慶		
一般	必修	数学 II C	1921006	履修単位	2		2	2																川崎 雄貴, 菅田 慶, 平井 剛和, 大山 博史		
一般	必修	物理	1921007	履修単位	2		2	2																藤原 滋泰		
一般	必修	理科総合	1921008	履修単位	2		2	2																大沼 みお		
一般	必修	総合英語 II	1921009	履修単位	4		4	4																藤沢 徹也		

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	現代文 I
科目基礎情報					
科目番号	1911001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『探求 現代の国語』(桐原書店)、『常用漢字 ダブルクリア 四訂版』(尚文出版)。その他、必要に応じて配布する。				
担当教員	朝倉 和				
到達目標					
<p>(1)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>(2)実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すことができる。</p> <p>(3)文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。</p> <p>(4)文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。</p> <p>(5)読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やもの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができない。
評価項目2	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句や自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増すことができる。		実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すことができる。		実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すことができない。
評価項目3	幅広く文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。		代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。		代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わったり、その効果について説明できない。
評価項目4	難解な文章でも客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。		基本的な文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。		文章を客観的に理解することや、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができない。
評価項目5	自ら進んで、読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やもの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。		読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やもの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。		読書習慣の形成をとおして感受性を培ったり、新たな言葉やもの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代文(評論、小説、詩等)や表現単元を通して、内容を文章に即して理解し、相手に自己を表現できるようになることを、目標とする。われわれ人間と「ことば」とは、決して切り離せないものである。事実、相手との意思疎通、知識・技術の獲得と提供、自身の思考、いわゆる「コミュニケーション」と言われる活動のいずれも、「ことば」を用いないものはない。そして、これら「コミュニケーション」活動はすべて、「理解」と「表現」とを土台としている。評論や小説、詩、俳句、随想といったさまざまな「表現」に触れ、その内容を適切に「理解」すること。また、相手に「理解」されやすい「表現」を心がけていくこと。授業を通じて「コミュニケーションスキル」基礎力を養い、よき「理解」者・よき「表現」者となることができるよう、意識的かつ意欲的な取り組みを期待したい。				
授業の進め方・方法	(1) 随時、読書タイムをとったり、漢字小テストを行う。 (2) 読書感想文などの文章表現、読書メモ等の課題を出すことがある。 (3) ノートの取り方や予復習、授業の進め方、試験対策等についてはガイダンスにおいて説明する。				
注意点	(1) 板書記録用のノートまたはルーズリーフの他に、プリント保管用のファイルや国語事典、漢和辞典を持参することが望ましい。 (2) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1 随想 最果タチ「わからないぐらいがちょうどいい」	1-(1) 「随想」が「評論」的性格と「小説」的性格とを有していることが理解できる。 1-(2) 作者の物の見方・考え方・感じ方を理解できる。 1-(3) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	2 随想 河合隼雄「ふしぎと人生」	同上	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	前期中間試験 答案返却・解説		

後期	2ndQ	9週	3 小説 浅田次郎「鉄道員」	3-(1) 登場人物の心情の変化を追いつつ、作品のテーマを押さえることができる。 3-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	4 評論 船木亨「AIの判断」	4-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 4-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。 4-(3) 具体例の働きをつかむ。見解の根拠をつかむ。
		15週	同上	同上
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
	3rdQ	1週	5 評論 鷺田清一「わかつうとする姿勢」	5-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 5-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	6 評論 「食の履歴書」	同上
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
4thQ	9週	7 随想 星野道夫「アリュージョン、老兵の夢と闇」	7-(1) 語句に注目して情景を捉える。 7-(2) 様々な表現技法について理解する。 7-(3) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。	
	10週	同上	同上	
	11週	同上	同上	
	12週	同上	同上	
	13週	8 評論 「マヨネーズの穴」、「環境世界」等	8-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 8-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。 8-(3) 接続表現。指示表現。効果的な表現。キーフレーズ。	
	14週	同上	同上	
	15週	同上	同上	
	16週	学年末試験 答案返却・解説		

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	古典 I
科目基礎情報					
科目番号	1911002	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科	対象学年	1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	『探求 言語文化』(桐原書店)、『古典文法クリアノート』(尚文出版)。				
担当教員	朝倉 和, 後藤田 和				
到達目標					
<p>(1) 代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。</p> <p>(2) 古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。</p> <p>(3) 代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。また、それらに親しもうとすることができる。</p> <p>(4) 教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	幅広く古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	基礎的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができない。		
評価項目2	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができ、それを踏まえた音読・朗読ができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができない。		
評価項目3	幅広い古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。また、それらに親しもうとすることができる。	代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。また、それらに親しもうとすることができる。	基礎的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べるすることができない。また、それらに親しもうとすることができない。		
評価項目4	教材として取り上げた作品以外についても、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	古文・漢文の基礎知識を押さえることからスタートする。その後、短めの古文と漢文を読解することにより、日本文化や中国文化の源流を探り、現在の国際社会に対応できる広い視野と素養を養成する。また、我が国や中国の古人独特の物の見方、考え方、感じ方の理解に努めることによって、コミュニケーション基礎力を養成する。				
授業の進め方・方法	「授業計画」を参照のこと。				
注意点	<p>(1) 随時、古典文法や、漢文の訓読に関する小テストを行う。</p> <p>(2) ノートの取り方は事前に指導するので、毎回、授業範囲分の教科書の本文を写してこよう。</p> <p>(3) 電子辞書や古語辞典、漢和辞典を持参することが望ましい。</p> <p>(4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1. 古文の基礎	(1) 五十音図というは歌を理解できる。 (2) 歴史的仮名遣いと発音が理解できる。 (3) ことばの単位と品詞、品詞分解・自立語・付属語が理解できる。 (4) 活用と活用形のはたらき、動詞の活用の種類の見分け方が理解できる。 (5) 変格活用(力変・サ変・ナ変・ラ変)・上一段活用・下一段活用を理解できる。 (6) 四段活用・上二段活用・下二段活用を理解できる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	2. 「児のそら寝」(宇治拾遺物語) 「奥山に猫またといふもの」(徒然草)	(1) 歴史的仮名遣いに注意しながら発音する。 (2) 古文の特徴に注意しながら読解する。重要単語・文法事項を注意する。 (3) 場面に応じた登場人物の心情を把握する。 (4) 口語訳を通じて、我が国の古人の物の見方、考え方、感じ方を知る。	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	

4thQ	8週	前期中間試験 試験返却・解説	
	9週	3. 漢文の基礎	(1) 訓読に親しむⅠ—送り仮名と句読点、返り点、訓点と書き下し文を理解できる。 (2) 訓読に親しむⅡ—再読文字と助字を理解できる。
	10週	同上	同上
	11週	同上	同上
	12週	4. 「推敲」(唐詩紀事)、「朝三暮四」(列子)等	(1) 書き下し文を正しく書くことによって、漢文に慣れることができる。 (2) 口語訳を通じて、中国の古人の物の見方、考え方、感じ方を知ることができる。 (3) 故事成語の由来を理解することができる。 (4) ビデオ鑑賞(故事成語)
	13週	同上	同上
	14週	同上	同上
	15週	同上	同上
	16週	前期期末試験 試験返却・解説	

評価割合

	試験	ノート・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	地理
科目基礎情報					
科目番号	1911003	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『地理A』(東京書籍)、『新高等地図』(東京書籍)				
担当教員	澤田 大吾				
到達目標					
(1)世界の地形とその特徴について理解できる。 (2)各気候の特徴と人々の生活の関係について理解できる。 (3)人間と文化の関係について理解できる。 (4)世界各地の生活や文化を理解することができる。 (5)国内外で起こる多様な事象を学習内容に基づいて理解することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	世界の地形とその特徴についての発展的な知識を理解することができる。	世界の地形とその特徴についての基本的な知識を理解することができる。	世界の地形とその特徴についての基本的な知識を理解することができない。		
評価項目2	各気候の特徴と人々の生活の関係を理解し、比較することができる。	各気候の特徴と人々の生活の関係を理解することができる。	各気候の特徴と人々の生活の関係を理解することができない。		
評価項目3	人間と文化の関係についての発展的な知識を理解することができる。	人間と文化の関係についての基本的な知識を理解することができる。	人間と文化の関係についての基本的な知識を理解することができない。		
評価項目4	世界各地の様々な生活や文化を理解し、比較することができる。	世界各地の様々な生活や文化を個々に理解することができる。	世界各地の様々な生活や文化を個々に理解することができない。		
評価項目5	国内外や地域で起こる多様な事象を学習内容に基づいて理解し、主体的に考えることができる。	国内外や地域で起こる多様な事象を学習内容に基づいて理解することができる。	国内外や地域で起こる多様な事象と学習内容を結び付けることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)地理の科目を学ぶことで、その視点から人間、社会、文化、地域について理解できる授業を行う。 (2)地理に関する基本的な知識及び考え方を学ぶ。 (3)世界各地の生活や文化を学ぶ。 (4)国内外で起こる多様な事象について学ぶ。 (5)2～5年次の発展的な社会系科目の学習に対応できるようにする。				
授業の進め方・方法	講義は対面授業と遠隔授業の両方で対応。レポート課題提出。				
注意点	(1)シラバスの項目・内容を確認して、教科書等で予習をしておくこと。 (2)世界情勢の動きに対応して、若干の授業内容の変更があり得る。新聞やニュースなどの報道について留意することが望ましい。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1週	ガイダンス ウクライナ問題について	ガイダンス ウクライナ問題を理解する。
	2週	第1章 現代世界の特徴と動向 1. 地球儀や地図からとらえる世界	1-(1) 地球儀と地図について理解する。 1-(2) 時差について理解し、時差計算ができる。
	3週	1.地球儀や地図からとらえる世界 2.結びつく現代社会 (1)	1-(3) 国家の三要素と国境について理解する。 2-(1) 3つの世界と三極世界へ
	4週	2.結びつく現代社会 (2) 3.貿易で結びつく世界	2-(2) 経済的結びつき ASEAN OPECとOAPECを 考える 3. 産業構造の変化を理解する
	5週	4.交通・通信の発達と世界の一体化 5.観光を軸とした国際的依な人々の移動	ケネディー大統領の時代を理解する。
	6週	中間試験	
	7週	返却と解答 第2編 第1章 世界の生活・文化の多 様性 1 世界的視野から見た自然環境と文化(1)	1.生活の舞台としての地形 2.
	8週	2. 世界的視野から見た自然環境と文化(2)	1 熱帯の特徴と人々の生活について理解する。 2 乾燥帯の特徴と人々の生活について理解する。
	9週	3. 世界的視野から見た自然環境と文化(3)	3 温帯帯の特徴と人々の生活について理解する。 4 冷帯の特徴と人々の生活について理解する。
	10週	4. 世界的視野から見た自然環境と文化(4)	5. 鉱山機構の特徴と人々の生活を理解する。
	11週	5. 世界的視野から見た自然環境と文化(5)	生活基盤としての産業
	12週	第2章 1.諸地域の生活・文化と環境	1.東アジアの生活・文化・環境を理解する。
	13週	2.諸地域の生活・文化と環境	2. 東アジアの生活・文化・環境を理解する。
	14週	3.諸地域の生活・文化と環境	3. 南アジアの生活・文化・環境を理解する。
	15週	前期末試験	
	16週	答案返却と解説	夏休みの宿題・課題の説明
後期	1週	4. 諸地域の生活・文化と環境	4. 西アジアの生活・文化・環境を理解する。
	2週	5. 諸地域の生活・文化と環境	5. 北アフリカの生活・文化・環境を理解する。
	3週	6. 諸地域の生活・文化と環境	6. サハラ砂漠以南のアフリカの生活・文化・環境を 理解する。
	4週	7. 諸地域の生活・文化と環境	7. ヨーロッパの生活・文化・環境を理解する。(1)
	5週	8. 諸地域の生活・文化と環境	8. ヨーロッパの生活・文化・環境を理解する。(2)
	6週	9. 諸地域の生活・文化と環境	9. ロシアの生活・文化・環境を理解する。
	7週	10.諸地域の生活・文化と環境	10. 北アメリカの生活・文化・環境を理解する。
	8週	中間試験	
	9週	11 諸地域の生活・文化と環境	11. 北・南アメリカの生活・文化・環境を理解する。
	10週	12. 諸地域の生活・文化と環境	12.オセアニアの生活・文化・環境を理解する。
	11週	第3編 深刻化する地域的課題とその解決策 1. 地図で読み解く地球的課題	1.世界の資源・エネルギー問題について理解できる。
	12週	2. 地図で読み解く地球的課題	2. 世界の人口問題を理解する。 3. 世界の食料問題を理解する。
	13週	3. 地図で読み解く地球的課題	4. 世界の都市問題について理解する。
	14週	4. 地図で読み解く地球的課題	5. 世界の環境問題を理解する。
	15週	学年末試験	
	16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	レポート・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	歴史
科目基礎情報					
科目番号	1911004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	現代の歴史総合 (山川出版社、2021年)				
担当教員	小河 浩				
到達目標					
(1)主に近現代史について、歴史総合で高等学校履修程度の内容が理解できる。詳細な内容は以下の通りである。 (2)近代化と我々について高等学校履修程度の内容を理解して、社会活動に応用できる。 (3)国際秩序の変化や大衆化について高等学校履修程度の内容を理解して、社会活動に応用できる。 (4)上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な内容を理解して、社会活動に応用できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	近代における世界と日本の開国などについて、基礎的な用語を理解できて、内容を社会活動に応用できる。		近代における世界と日本の開国などについて、基礎的な用語を理解できて、社会活動に関心を向けられる。		近代における世界と日本の開国などについて、基礎的な用語を理解できず、社会活動にも応用できない。
評価項目2	国民国家の成立と明治維新について、基礎的な用語を理解できて、内容を社会活動に応用できる。		国民国家の成立と明治維新について、基礎的な用語を理解できて、社会活動に関心を向けられる。		国民国家の成立と明治維新について、基礎的な用語を理解できず、社会活動にも応用できない。
評価項目3	第一次世界大戦頃の総力戦と社会運動について、基礎的な用語を理解できて、内容を社会活動に応用できる。		第一次世界大戦頃の総力戦と社会運動について、基礎的な用語を理解できて、社会活動に関心を向けられる。		第一次世界大戦頃の総力戦と社会運動について、基礎的な用語を理解できず、社会活動にも応用できない。
評価項目4	経済危機と第二次世界大戦について、基礎的な用語を理解できて、内容を社会活動に応用できる。		経済危機と第二次世界大戦について、基礎的な用語を理解できて、社会活動に関心を向けられる。		経済危機と第二次世界大戦について、基礎的な用語を理解できず、社会活動にも応用できない。
評価項目5	上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な事柄を理解できて、内容を社会活動に応用できる。		上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な事柄を理解できて、社会活動に関心を向けられる。		上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な事柄を理解できず、社会活動にも応用できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)主に近現代史について、歴史総合で高等学校履修程度の内容が理解できる。詳細な内容は以下の通りである。 (2)近代化と我々について高等学校履修程度の内容を理解できて、内容を社会活動に応用できる。 (3)国際秩序の変化や大衆化について高等学校履修程度の内容を理解できて、内容を社会活動に応用できる。 (4)上記の時代にあたる日本および地域史について理解できて、内容を社会活動に応用できる。				
授業の進め方・方法	1年の歴史では、近現代史について、18世紀あたりの世界情勢と日本の開国、第一次世界大戦から第二次世界大戦ころの歴史について学習する。グローバル化した世界の展開を理解するのは、語学ばかりでなく、世界の歴史や文化についての幅広い知識が必要である。本学年では、近代以降の歴史・文化的基盤となるより古い段階の日本を含む歴史も必要に応じて取り入れながら、世界史を主に講義形式で総合的に学ぶ。				
注意点	(1)シラバス内容に照らし合わせて予習をしてくること。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1.18世紀東アジアにおける社会と経済	ガイダンス 1. 18世紀の日本を含む東アジア経済と社会について理解できて、内容を社会活動に応用できる。	
		2週	2. 貿易とつながる世界と日本	2. 18世紀のアジア圏でのヨーロッパなどとの貿易関係について理解できて、内容を社会活動に応用できる。	
		3週	3. 産業革命1	3. イギリスを中心とする第一次産業革命について理解できて、内容を社会活動に応用できる。	
		4週	3. 産業革命2	3. 第二次産業革命や各種の技術革新について理解できて、内容を社会活動に応用できる。	
		5週	4. 中国の開港と日本の開国1	4. アヘン戦争や幕末の日本について理解できて、内容を社会活動に応用できる。	
		6週	5. 市民革命1	5. アメリカの独立革命について理解できて、内容を社会活動に応用できる。	
		7週	前期中間試験	中間試験	
		8週	5. 市民革命2	答案返却・解説 5. フランス革命について理解できて、内容を社会活動に応用できる。	
	2ndQ	9週	6. 国民国家とナショナリズム	6. フランス革命の影響、アメリカの発展、末期オスマン帝国について理解できて、内容を社会活動に応用できる。	

後期	3rdQ	10週	7. 明治維新1	7. 幕末の日本と明治維新について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		11週	7. 明治維新2	7. 立憲国家成立や文明開化について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		12週	8. 日本の産業革命	8. 明治期日本の殖産興業などについて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		13週	9. 帝国主義1	9. 欧米列強による西アジア方面での帝国主義的進出について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		14週	9. 帝国主義2	9. 欧米列強による東南アジア方面での帝国主義的進出について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		15週	10. 変容する東アジアの国際秩序1	10. アジアでの国境や領土の変遷などについて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		16週	前期末試験	前期末試験
	4thQ	1週	10. 変容する東アジアの国際秩序2	答案返却と解説 10. 朝鮮の開国や近代化、日清戦争などについて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		2週	11. 日露戦争と東アジアの変動1	11. 末期清朝についての混乱や日露戦争などについて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		3週	11. 日露戦争と東アジアの変動2	11. 辛亥革命について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		4週	12. 近代化と現代的な諸課題	12. 近代化に伴う様々な諸問題について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		5週	13. 第一次世界大戦の展開1	13. 第一次世界大戦の展開について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		6週	13. 第一次世界大戦の展開2	13. 第一次世界大戦の展開について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		7週	14. ソ連成立とアメリカの台頭1	14. ロシア帝国の終焉とソヴィエト政権の成立について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		8週	14. ソ連成立とアメリカの台頭2	15. アメリカ合衆国の台頭について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		9週	15. ヴェルサイユ体制とワシントン体制	15. ヴェルサイユ条約やワシントン体制での軍縮について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
10週	16. 世界経済の変容と日本	16. 第一次世界大戦頃の世界経済と日本について理解できて、内容を社会活動に応用できる。		
11週	後期中間試験	後期中間試験		
12週	17. アジアのナショナリズム	答案返却と解説 17. アジア世界でのナショナリズムの勃興について理解できて、内容を社会活動に応用できる。		
13週	18. 大衆の政治参加	18. 欧米や日本での大衆の政治参加について理解できて、内容を社会活動に応用できる。		
14週	19. 消費社会と大衆文化	19. 大衆と消費社会や文化などについて理解できて、内容を社会活動に応用できる。		
15週	20. 世界恐慌の時代から第二次世界大戦	20. 世界恐慌の仕組みから第二次世界大戦の展開について理解できて、内容を社会活動に応用できる。		
16週	学年末試験	学年末試験、答案返却と解説		

評価割合

	試験	グループ発表	相互評価	授業態度	ポートフォリオ		合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	政治経済
科目基礎情報					
科目番号	1911005		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	政治・経済 (東京書籍)				
担当教員	澤田 大吾				
到達目標					
(1)日本の政治経済の基本事項を理解する。 (2)日本国憲法を理解し、民主政治の諸問題を主体的に解決できるようにする。 (3)日々起こる出来事を主体的に理解し分析する力を得る。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	政治経済の諸問題を理解し主体的な行動がとれる	政治経済の諸問題を理解できる	政治経済の諸問題を理解できない		
評価項目2	憲法を理解して民主社会の一員として主体的な行動ができる	憲法が理解できる	憲法が理解できない		
評価項目3	日々のニュースが理解できる (ニュース検定準2級以上がとれる)	日々のニュースがわかる (ニュース検定3級以上がとれる)	日々のニュースが理解できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本のみならず世界の政治・経済・文化など様々な知識を習得し、多様な価値観を理解する。前期では、民主政治の基本原則と日本国憲法の基本原則を学習する。後期では、日本の政治機構そして国際政治について学び、戦後の日本政治経済史を統括する。またニュース検定本を副テキストとして採用し、現代のリアルな時事問題を理解する。また地域経済の具体化として大崎上島についての経済を学習する。				
授業の進め方・方法	1)授業は検定教科書を中心に講義方式で行う 2)ニュース検定の副教材も常に準備しておく 3)11月のニュース検定を受験し合格を目指す 4)夏休みの課題として「税に関する作文」の提出を目指す				
注意点	1年間を通してノート作成をする作業を身につける。また学習した内容をアウトプットする機会としてニュース検定を受講することを進める。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	民主政治の基本原則	ガイダンスと民主政治の成立を理解する	
		2週	民主政治の基本原則	法の支配を理解する	
		3週	民主政治の基本原則	基本的人権の確立を理解する	
		4週	民主政治の基本原則	現代の民主政治を理解する	
	2ndQ	5週	民主政治の基本原則	現代の民主政治を理解する	
		6週	中間テストとテスト返却	これまでのまとめ	
		7週	日本国憲法の基本原則	明治憲法の制定を理解する	
		8週	日本国憲法の基本原則	明治憲法の内容を理解する	
9週		日本国憲法の基本原則	日本国憲法制定を理解する		
10週		日本国憲法の基本原則	基本的人権の保障を理解する		
11週		日本国憲法の基本原則	平和主義を理解する		
12週		日本国憲法の基本原則	精神の自由と判例		
後期	3rdQ	13週	日本国憲法の基本原則	学問の自由・表現の自由と判例	
		14週	日本国憲法の基本原則	信教の自由と判例	
		15週	前期末試験と返却	経済的自由と判例	
		16週	後期にむけて	前期のまとめと後期での取り組み	
		17週	日本国憲法の基本原則	夏休み課題テストと前期のまとめ	
		18週	日本国憲法の基本原則	社会権と判例	
	4thQ	19週	日本国憲法の基本原則	自衛隊の成立過程	
		20週	日本国憲法の基本原則	自衛隊と憲法9条 (判例)	
		21週	日本の政治機構	国会と立法を理解する	
		22週	日本の政治機構	内閣と行政を理解する	
		23週	中間テストと返却	これまでのまとめ	
		24週	日本の政治機構	裁判所と司法を理解する	
		25週	現代の国際政治	国際関係と国際法を理解する	
4thQ	26週	現代の国際政治	国際社会の組織化と変容を理解する		
	27週	現代の国際政治	国際政治の動向と課題を理解する		
	28週	戦後日本政治経済史	終戦から朝鮮戦争まで		
	29週	戦後日本政治経済史	高度経済成長期からオイルショックまで		
	30週	戦後日本政治経済史			

		14週	戦後日本政治経済史	バブル経済まで
		15週	戦後日本政治経済史	現代政治の問題点と総まとめ
		16週	学年末試験と返却	試験の返却

評価割合

							合計
総合評価割合	180	30	30	30	0	30	300
基礎の能力	60	10	10	10	0	10	100
ゴールの能力	60	10	10	10	0	10	100
部門を横断する能力	60	10	10	10	0	10	100

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学 I A
科目基礎情報					
科目番号	1911006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	新基礎数学 (大日本図書)、新基礎数学問題集 (大日本図書)				
担当教員	川崎 雄貴				
到達目標					
(1)いろいろな数式の計算ができる。 (2)いろいろな方程式・不等式が解ける。 (3)いろいろな関数のグラフがかけられる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
整式の計算	整式の四則計算、展開、因数分解の発展的な式変形ができる。	整式の四則計算、展開、因数分解の基礎的な式変形ができる。	整式の四則計算、展開、因数分解の基礎的な式変形ができない。		
いろいろな数	実数や複素数の意味を理解し、その複雑な四則計算ができる。	実数や複素数の意味を理解し、その四則計算ができる。	実数や複素数の意味を理解できない。または、その四則計算もできない。		
方程式の解法	2次方程式など様々な方程式の意味を理解し、様々な応用的な活用ができる。	2次方程式など様々な方程式の意味を理解し、解くことができる。	2次方程式など様々な方程式の意味を理解できない。または、解くことができない。		
2次関数	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。	2次関数のグラフをかくことができ、グラフを利用して2次不等式を解くことができる。	2次関数のグラフをかくことができず、グラフを利用して2次不等式を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2)基本的な計算技術の定着と、方程式や不等式への理解を深めることを目標とする。 (3)2次関数などの初等関数の性質を理解することを目標とする。 (4)中学校で学習した内容をさらに深め、2年次、3年次の数学、専門科目の学習に対応できるようにする。				
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。				
注意点	(1)今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2)学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3)復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	整式の加法・減法	整式の意味を理解し、整式の整理が出来る。	
		2週	整式の加法・減法	整式の加減乗除の計算ができる。	
		3週	整式の乗法	整式の展開ができる。	
		4週	整式の乗法	公式を用いて整式の展開ができる。	
		5週	整式の乗法	やや複雑な整式の展開ができる。	
		6週	前期中間試験		
		7週	因数分解	中学校で学んだ因数分解ができる。	
		8週	因数分解	たすき掛けを用いた因数分解ができる。	
	2ndQ	9週	因数分解	2つ以上の文字を含むたすき掛けを用いた因数分解ができる。	
		10週	整式の除法	整式の商と余りを求めることができる。	
		11週	整式の除法	数や整式の最大公約数と最小公倍数を求めることができる。	
		12週	剰余の定理	剰余の定理を利用して、整式の余りを計算できる。	
		13週	因数定理	因数定理を用いて高次関数の因数分解ができる。	
		14週	分数式の計算	分数式を既約分数に直すことができ、分数式の四則演算の計算ができる。	
		15週	前期末試験		
		16週	分数式の計算	繁分数を簡単にすることができる。	
後期	3rdQ	1週	分数式の計算	整式の商と余りを用いて分数式を変形できる。	
		2週	実数	自然数、整数、有理数、無理数について理解できる。	
		3週	平方根	平方根の理解が出来て、有理化などの計算ができる。	
		4週	複素数	複素数の定義を理解し複素数の計算ができる。	
		5週	2次方程式	2次方程式の解の公式が使える。	
		6週	2次方程式	解と係数の関係、判別式を用いて解の判別ができる。	
		7週	2次方程式	複二次式を解くことが出来る。	
		8週	2次方程式	因数定理を用いて高次方程式を解くことが出来る。	

4thQ	9週	2次関数のグラフ	座標平面について理解できる。
	10週	2次関数のグラフ	2次関数の平行移動と標準形の関係が理解できる。
	11週	後期中間試験	
	12週	2次関数のグラフ	2次関数を標準形に直してグラフをかくことができる。
	13週	2次関数のグラフ	2次関数のグラフの最大値・最小値を求めることができる。
	14週	2次関数のグラフ	判別式を用いて2次関数とx軸の共有点を調べることができる。
	15週	2次不等式	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。
	16週	学年末試験	

評価割合

	試験	小テスト	発表・態度	課題	合計
総合評価割合	60	5	5	30	100
基礎的能力	40	5	5	20	70
専門的能力	5	0	0	5	10
分野横断的能力	15	0	0	5	20

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学 I B
科目基礎情報					
科目番号	1911007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	新基礎数学 (大日本図書)、新基礎数学問題集 (大日本図書)				
担当教員	菅田 慶				
到達目標					
(1) 順列・組合せの総数の求め方を理解し、それらを利用して様々な場合の数を求めることができる。 (2) いろいろな方程式・不等式の意味を理解し、解を導くことができる。 (3) 三角比の意味を理解し、三角形の辺の長さや角の大きさ、面積を求めることができる。 (4) 三角関数を理解し、基本的なグラフが描ける。また、基本的な三角方程式・三角不等式が解ける。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	場合の数、順列、組合せの複雑な計算ができ、説明できる。		場合の数、順列、組合せの基本的な計算ができる。		場合の数、順列、組合せの計算ができない。
評価項目2	いろいろな方程式・不等式の意味を理解し、複雑な3元連立1次方程式・1次不等式を解くことができる。		いろいろな方程式・不等式の意味を理解し、基本的な3元連立1次方程式・1次不等式を解くことができる。		いろいろな方程式・不等式の意味が理解できない。または、基本的な3元連立1次方程式・1次不等式を解くことができない。
評価項目3	三角比を理解し、定理・公式を利用して問題が解ける。		三角比を用いた基本的な計算ができる。		三角比の値を求めることができない。
評価項目4	三角関数を理解し、複雑なグラフが描ける。また、複雑な三角方程式・三角不等式が解ける。		三角関数を理解し、基本的なグラフが描ける。また、基本的な三角方程式・三角不等式が解ける。		三角関数の基本的なグラフが描けない。または、基本的な三角方程式・三角不等式が解けない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 中学校で学んでいない初めての単元「場合の数」を学習する。 (3) 専門分野の様々な問題の分析に必要な、いろいろな方程式・不等式の解法を身につける。 (4) 三角比の意味と図形の計量を学び、三角関数の基礎を学習する。 (5) 中学校で学習した内容をさらに深め、2年次、3年次の数学、専門科目の学習に対応できるようにする。				
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。				
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身につける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	場合の数	積の法則と和の法則の違いを理解している。	
		2週	場合の数	順列の基本的な計算ができる。	
		3週	場合の数	順列、重複順列の問題が解ける。	
		4週	場合の数	組合せの基本的な計算ができる。	
		5週	場合の数	組合せの問題が解ける。	
		6週	場合の数	同じものを含む順列、円順列の問題が解ける。	
		7週	前期中間試験・答案返却・解説		
		8週	連立方程式	基本的な3元1次連立方程式、	
	2ndQ	9週	その他の方程式	絶対値記号や根号を含む方程式が解ける。	
		10週	恒等式	恒等式の意味を理解し、問題が解ける。	
		11週	1次不等式	1次不等式を解くことができ、簡単な文章題が解ける。	
		12週	連立不等式	連立不等式を解くことができ、簡単な文章題が解ける。	
		13週	2次不等式	基本的な2次不等式が解ける。	
		14週	集合	集合の概念を理解している。	
		15週	命題	命題の概念を理解している。	
		16週	前期末試験・答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	三角比	三角比の値を求めることができる。	
		2週	三角比	三角比を利用して、文章問題が解ける。	
		3週	三角比	鈍角の三角比の値を求めることができる。	
		4週	三角比	三角比の相互関係を理解でき、それを利用できる。	
		5週	三角比	正弦定理を理解し、それを利用できる。	
		6週	三角比	余弦定理を理解し、それを利用できる。	
		7週	三角比	正弦定理・余弦定理の応用問題が解ける。	
		8週	三角比	公式を利用し、三角形の面積を求めることができる。	

4thQ	9週	後期中間試験・答案返却・解説	
	10週	三角関数	一般角を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができる。
	11週	三角関数	弧度法を理解し、角を弧度法で表現することができる。
	12週	三角関数	基本的な三角関数のグラフが描ける。
	13週	三角関数	グラフの拡大・縮小を理解し、複雑な三角関数のグラフが描ける。
	14週	三角関数	三角方程式が解ける。
	15週	三角関数	三角不等式が解ける。
	16週	学年末試験・答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	授業態度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	0	100
基礎的能力	70	20	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学 I C
科目基礎情報					
科目番号	1911008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	新基礎数学 (大日本図書)、新基礎数学問題集 (大日本図書)				
担当教員	川崎 雄貴				
到達目標					
(1) いろいろな数式の計算ができる。 (2) いろいろな方程式・不等式が解ける。 (3) いろいろな関数のグラフがかけられる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
整式の計算	整式の四則計算、展開、因数分解の発展的な式変形ができる。	整式の四則計算、展開、因数分解の基礎的な式変形ができる。	整式の四則計算、展開、因数分解の基礎的な式変形ができない。		
いろいろな数	実数や複素数の意味を理解し、その複雑な四則計算ができる。	実数や複素数の意味を理解し、その四則計算ができる。	実数や複素数の意味を理解できない。または、その四則計算もできない。		
方程式の解法	2次方程式など様々な方程式の意味を理解し、様々な応用的な活用ができる。	2次方程式など様々な方程式の意味を理解し、解くことができる。	2次方程式など様々な方程式の意味を理解できない。または、解くことができない。		
2次関数	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。	2次関数のグラフをかくことができ、グラフを利用して2次不等式を解くことができる。	2次関数のグラフをかくことができず、グラフを利用して2次不等式を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 基本的な計算技術の定着と、方程式や不等式への理解を深めることを目標とする。 (3) 2次関数などの初等関数の性質を理解することを目標とする。 (4) 中学校で学習した内容をさらに深め、2年次、3年次の数学、専門科目の学習に対応できるようにする。				
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。				
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	整式の加法・減法	整式の意味を理解し、整式の整理が出来る。	
		2週	整式の加法・減法	整式の加減乗除の計算ができる。	
		3週	整式の乗法	整式の展開ができる。	
		4週	整式の乗法	公式を用いて整式の展開ができる。	
		5週	整式の乗法	やや複雑な整式の展開ができる。	
		6週	前期中間試験		
		7週	因数分解	中学校で学んだ因数分解ができる。	
		8週	因数分解	たすき掛けを用いた因数分解ができる。	
	2ndQ	9週	因数分解	2つ以上の文字を含むたすき掛けを用いた因数分解ができる。	
		10週	整式の除法	整式の商と余りを求めることができる。	
		11週	整式の除法	数や整式の最大公約数と最小公倍数を求めることができる。	
		12週	剰余の定理	剰余の定理を利用して、整式の余りを計算できる。	
		13週	因数定理	因数定理を用いて高次関数の因数分解ができる。	
		14週	分数式の計算	分数式を既約分数に直すことができ、分数式の四則演算の計算ができる。	
		15週	前期末試験		
後期	3rdQ	1週	分数式の計算	繁分数を簡単にすることができる。	
		2週	実数	自然数、整数、有理数、無理数について理解できる。	
		3週	平方根	平方根の理解が出来て、有理化などの計算ができる。	
		4週	複素数	複素数の定義を理解し複素数の計算ができる。	
		5週	2次方程式	2次方程式の解の公式が使える。	
		6週	2次方程式	解と係数の関係、判別式を用いて解の判別ができる。	
		7週	2次方程式	複二次式を解くことが出来る。	
8週	2次方程式	因数定理を用いて高次方程式を解くことが出来る。			

4thQ	9週	2次関数のグラフ	座標平面について理解できる。
	10週	2次関数のグラフ	2次関数の平行移動と標準形の関係が理解できる。
	11週	後期中間試験	
	12週	2次関数のグラフ	2次関数を標準形に直してグラフをかくことができる。
	13週	2次関数のグラフ	2次関数のグラフの最大値・最小値を求めることができる。
	14週	2次関数のグラフ	判別式を用いて2次関数とx軸の共有点を調べることができる。
	15週	2次不等式	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。
	16週	学年末試験	

評価割合

	試験	小テスト	発表	課題・レポート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	10	5	5	90	0	0	110
基礎的能力	10	5	5	90	0	0	110
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理
科目基礎情報					
科目番号	1911009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「物理基礎」 高木堅志郎、植松恒夫編 (啓林館)、「物理」 高木堅志郎、植松恒夫編 (啓林館)、「学習到達度試験 (物理) 過去問演習」 藤原滋泰 (http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html) / 参考図書 : 「機械系の運動と振動の基礎・基本」 瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰 (海文堂)				
担当教員	藤原 滋泰				
到達目標					
(1) 物理の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を正確に表す方法を学ぶ。 (3) 物を持ち上げたり運んだりするには力が必要であり、身の回りの運動する物体には、重力や摩擦力が働いている。この様な力の性質を学び、物体に力が働いた時の運動状態について学習する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	等加速度直線運動についての公式や計算式を導出することができる。複雑な問題に対しても、v-tグラフやx-tグラフなどを活用した計算ができる。	平均の速度と瞬間の速度、相対速度、加速度、等加速度直線運動、加速度が負の運動、自由落下、鉛直投げ下ろし、鉛直投げ上げについての基本的な計算ができる。	速度、加速度、変位の基本的な概念を理解しておらず、自由落下や鉛直投げおろしについての基本的な計算が出来ない。		
評価項目2	力の概念と各法則について理解しており、複雑な合成や分解の計算結果を運動方程式に正しく代入し、計算することも出来る。	力の種類と単位、フックの法則、力の合成と分解、力の成分、力の釣り合い、作用・反作用の法則、慣性の法則、運動の法則について説明でき、運動方程式を解ける。	力についての基本的な概念を説明できず、力についての法則も理解出来ない。運動方程式を立てることも出来ない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 物理の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を正確に表す方法を学ぶ。 (3) 物を持ち上げたり運んだりするには力が必要であり、身の回りの運動する物体には、重力や摩擦力が働いている。この様な力の性質を学び、物体に力が働いた時の運動状態について学習する。				
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。				
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味 (イメージ) がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で困ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す (最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない)。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張ってください。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	0.測定値の処理と有効数字	0-(1)測定値の処理と有効数字の取り扱いが出来るようになる。	
		2週	1.速度・加速度・変位	1-(1) 平均の速度と瞬間の速度を求めることが出来る。	
		3週	1.速度・加速度・変位	1-(2) 相対速度を求めることが出来る。	
		4週	1.速度・加速度・変位	1-(3) 加速度、加速度が負の運動についての計算ができる。	
		5週	1.速度・加速度・変位	1-(4) 等加速度直線運動についての計算ができる。	
		6週	1.速度・加速度・変位	1-(5) 自由落下、鉛直投げ下ろしについての問題が解ける。	
		7週	1.速度・加速度・変位	1-(6) 鉛直投げ上げについての問題が解ける。	
		8週	後期中間試験 答案返却・解説		
	4thQ	9週	1.速度・加速度・変位	1-(7) 水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	
		10週	2.力	2-(1) 力の3要素、力の種類と単位について何も見ないで説明できる。	

	11週	2.力	2-(2) フックの法則を用いて、弾性力を求めることが出来る。
	12週	2.力	2-(3) 力の合成と分解、力の成分の和についての問題が解ける。
	13週	2.力	2-(4) 作用・反作用の法則についての問題が解ける。
	14週	3.運動の法則	3-(1) 慣性の法則、運動の法則について説明でき、問題を解くことができる。
	15週	3.運動の法則	3-(2) 運動方程式、重力と質量、単位と次元について説明でき、運動方程式を解くことができる。
	16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	理科総合	
科目基礎情報						
科目番号	1911010	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教科	対象学年	1			
開設期	通年	週時間数	2			
教科書/教材	化学基礎 (啓林館)、生物基礎 (啓林館)、化学基礎の基本マスター					
担当教員	大沼 みお					
到達目標						
(1) 様々な身の回りの物質の性質や用途などに関する知識を習得する。 (2) 物質の構造と性質に関する知識を習得し、応用できる。 (3) 化学結合に関する知識を習得し、説明できる。 (4) 物質について理解し、応用できる。 (5) 地球上の生物の多様性と共通する性質について理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1 化学の特徴	化学が物質を対象とする学問であり、人間生活に重要な役割を果たしていることを理解し、説明できる。観察、実験などを通して物質を探究する方法が身に付いている。	化学が物質を対象とする学問であり、人間生活に重要な役割を果たしていることを理解している。テキストなどを見ながら、観察、実験などを通して物質を探究することができる。	化学が物質を対象とする学問であり、人間生活に重要な役割を果たしていることを理解していない。観察、実験などを通して物質を探究する方法が身に付いていない。			
評価項目2 物質の構造と性質	物質の構造と性質を理解し、発展的な問題を解くことができる。	物質の構造を理解し、標準的な問題を解くことができる。	物質の構造を理解していない。			
評価項目3 化学結合	化学結合について理解し、発展的な問題を解くことができる。	化学結合について理解し、標準的な問題を解くことができる。	化学結合について理解していない。			
評価項目4 物質	物質について理解し、発展的な問題を解くことができる。	物質について理解し、標準的な計算問題を解くことができる。	物質について理解していない。			
評価項目5 生物：生物の多様性と共通性、生体内のエネルギー	地球上の生物の多様性と共通する性質、生体内のエネルギーについて理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球上の生物の多様性と共通する性質、生体内のエネルギーについて理解している。	地球上の生物の多様性と共通する性質、生体内のエネルギーについて理解していない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	化学：日常生活や社会と関連付けながら、物質の構造や化学変化に関する知識と考え方を習得する。 生物：様々な生命現象を科学的に説明できるようになるための基礎的な知識を学ぶ。					
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。					
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 授業態度も評価対象とします。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	化学の特徴	化学と人間生活の関わりについて関心を高め、化学が物質を対象とする学問であり、人間生活に重要な役割を果たしていることを理解する。観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身につける。			
	2週	物質の探究	純物質と混合物の区別ができる。混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。			
	3週	物質の探究	混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。元素、単体、化合物の意味と具体例が説明できる。			
	4週	物質の探究	元素、単体、化合物の意味と具体例が説明できる。同素体がどのようなものか説明できる。			
	5週	物質の探究	物質を構成する分子・原子が常に運動していることが理解できる。水の状態変化を説明できる。物質の三態とその状態変化を説明できる。			
	6週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。			
	7週	前期中間試験 答案返却・解説				
	8週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	同位体について理解し、放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。			
	2ndQ	9週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	原子番号から価電子の数を見積もり、原子の性質について考えることができる。		
		10週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。		
		11週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	イオンとイオン結合について具体例を挙げて説明できる。		

後期		12週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	イオンとイオン結合について具体例を挙げて説明できる。
		13週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	分子と共有結合について具体例を挙げて説明できる。
		14週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	分子と共有結合について具体例を挙げて説明できる。
		15週	原子の構造と元素の周期表、化学結合の演習	
		16週	前期末試験 答案返却・解説	
	3rdQ	1週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	金属と金属結合について具体例を挙げて説明できる。
		2週	原子量・分子量・式量と物質質量	原子の相対質量と原子量が理解できる。 分子量・式量がどのような意味をもつか理解できる。
		3週	原子量・分子量・式量と物質質量	アボガドロ定数を理解し、物質質量(mol)を用いて物質の量を表すことができる。 物質質量に関する問題が解ける。
		4週	原子量・分子量・式量と物質質量	アボガドロ定数を理解し、物質質量(mol)を用いて物質の量を表すことができる。 物質質量に関する問題が解ける。
		5週	原子量・分子量・式量と物質質量	気体の体積と物質質量の関係を理解し、問題が解ける。
		6週	原子量・分子量・式量と物質質量	気体の体積と物質質量の関係を理解し、問題が解ける。
		7週	原子量・分子量・式量と物質質量の演習	
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	生物の多様性と共通性	地球上の生物の多様性について理解している。
		10週	生物の多様性と共通性	生物の共通性と進化の関係について理解している。
		11週	生物の多様性と共通性	生物に共通する性質について理解している。
12週		生命活動とエネルギー	エネルギーと代謝、代謝を進める酵素について理解している。	
13週		生命活動とエネルギー	生体内におけるエネルギー変換（光合成と呼吸）について理解している。	
14週		生命活動とエネルギー	ミトコンドリアと葉緑体の起源について理解している。	
15週		生物の多様性と共通性および生命活動とエネルギーの演習		
16週		学年末試験 答案返却・解説		

評価割合

	試験	課題	態度	合計
総合評価割合	70	25	5	100
基礎的能力	70	25	5	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	芸術
科目基礎情報					
科目番号	1911011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	高校生の音楽 (教育芸術社)				
担当教員	澤田 大吾				
到達目標					
(1)音楽に関する知識や技術を身に付け、音楽的な表現の能力を養う。 (2)音楽に関する基礎的な知識や法則を理解する。 (3)時代ごとの音楽の様式や楽曲の特徴を理解し、鑑賞によって音楽の良さや美しさを感じ取る。 (4)音楽の歴史を考察し、音楽の文化的意義を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	歌詞の内容や楽曲の背景h拝啓・構成を曲想から感じ取り、イメージを持って歌うことができる。		歌詞の内容や楽曲の背景を、イメージを持って歌うことができる。		歌詞の内容や楽曲の背景が理解できない。
評価項目2	楽譜の読み・書き、楽譜からの情報の読み取りができる。		基本的な楽譜の読み・書きができる。		基本的な楽譜の読み・書きができない。
評価項目3	楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解し鑑賞できる。		楽曲の文化的・歴史的背景を理解し鑑賞できる		鑑賞する楽曲の特徴が理解できない。
評価項目4	音楽の歴史を考察し、音楽の文化的意義が理解できる。		音楽の歴史を考察し、それぞれの時代の特徴が理解できる。		それぞれの時代の歴史的特徴が理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	芸術の幅広い活動を通して、感性を高め音楽と社会の関わりを学び、優しさと思いやりに満ちた心を育成し芸術文化についての理解を深める。				
授業の進め方・方法	講義と歌唱実技、鑑賞とによって授業を進める。				
注意点	(1)課題は必ず期限内に提出すること。 (2)小テストを実施するので、復習をしておくこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1.校歌	1-(1)校歌から見えてくる、地域や学校との繋がりを理解する 1-(2)イメージを持って、声の音色や強弱、旋律の特徴などを生かして歌うことができる	
		2週	同上	同上	
		3週	2.楽典	2-(1)楽譜の読み方・書き方が理解できる 2-(2)楽譜の情報をよみ取ることができる 2-(3)音符と休符の音の長さが理解できる上	
		4週	同上	同上	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	中間試験		

2ndQ	8週	答案年客と解説	
	9週	3.鑑賞	3-(1)演奏者による表現の特徴を理解できる。 3-(2)楽曲の文化的・歴史的背景、声や楽器の音色の特徴を感じ取って鑑賞できる。
	10週	同上	同上
	11週	同上	同上
	12週	4.西洋音楽史	4-(1)~(4)それぞれの時代背景と特徴が理解できる。
	13週	同上	同上
	14週	同上	同上
	15週	学年末試験	
	16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	0	10	10	100
基礎的能力	70	10	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語 I
科目基礎情報					
科目番号	1911012	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	一般教科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	4		
教科書/教材	声に出す英語総合演習 vol. 1 (ラーンス)				
担当教員	池田 幸恵				
到達目標					
(1)意味のまとまりで区切って、英語の語順にしたがって読むことができる。 (2)文の組み立てや文法事項を理解して、正確に内容を読解することができる。 (3)重要文法事項や構文を使用して英文を書くことができる。 (4)英文の適切な区切りや発音のポイントなどを理解して音読することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目 1	フレーズ・リーディングを活用して、意味のまとまりで区切って英語の語順にしたがって読むことが十分にできる。	フレーズ・リーディングを活用して、意味のまとまりで区切って英語の語順にしたがって読むことがおおよそできる。	フレーズ・リーディングを活用して、意味のまとまりで区切って英語の語順にしたがって読むことができない。		
評価項目 2	文型の組み立てや文法事項を理解し、内容を正確に読解することが十分にできる。	文型の組み立てや文法事項を理解し、内容を正確に読解することがおおよそできる。	文型の組み立てや文法事項を理解し、内容を正確に読解することができない。		
評価項目 3	重要文法事項や構文を使用して英文を書くことが十分にできる。	重要文法事項や構文を使用して英文を書くことがおおよそできる。	重要文法事項や構文を使用して英文を書くことができない。		
評価項目 4	英文の適切な区切りや発音のポイントなどを理解して音読することが十分にできる。	英文の適切な区切りや発音のポイントなどを理解して音読することがおおよそできる。	英文の適切な区切りや発音のポイントなどを理解して音読することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業では、意味のまとまりごとに、英語の語順にしたがって読むスキルを身に着けることで、英文を読む力を向上させることを目標とします。また、読解した英文を用いて、書く力や話す力を育成する活動を行い、総合的な英語運用能力を養うことを目指します。				
授業の進め方・方法	(1) 新出語彙や熟語の確認・練習を行う。語彙や熟語は授業外でも各自でくり返し復習し定着させることが求められる。 (2) 初見の英文を読み、意味のまとまりに区切りを入れ、英語の語順にしたがって読む練習を行う。 (3) 文法項目や内容理解の確認を行う。 (4) 学習した英文を用いた音読練習や英作文の練習を行う。				
注意点	・小テストや課題、発表などへの工夫や取り組みも評価の対象です。 ・授業には、必ず教科書・ノートを持参し、必要なことをノートに書いてください。 ・提出物等の期限は厳守してください。 ・学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。 ・4時間 (2コマ)の授業なので、単位不可になると、進級への影響が大きいので注意してください。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション フレーズ・リーディングについて	本授業の到達目標と評価方法を理解する。 意味のまとまりごとに、英語の語順にしたがって読むフレーズ・リーディングを理解できる。	
		2週	Unit 1 ねずみの恩返し①	本文の内容を理解できる。 未来表現を理解して活用できる。	
		3週	Unit 1 ねずみの恩返し②	本文の内容を理解できる。 未来表現を理解して活用できる。	
		4週	Unit 2 ブラジル料理①	本文の内容を理解できる。 助動詞を理解し活用できる。	
		5週	Unit 2 ブラジル料理②	本文の内容を理解できる。 助動詞を理解し活用できる。	
		6週	Unit 3 忠犬ハチ公①	本文の内容を理解できる。 不定詞 (名詞用法) を理解し活用できる。	

2ndQ	7週	Unit 3 忠犬ハチ公①	本文の内容を理解できる。 不定詞（名詞用法）を理解し活用できる。	
	8週	前期中間試験	これまで学習したことを理解し、定着できている。	
	9週	前期中間試験の返却、解答、解説 Unit 4 ガリレオ①	本文の内容を理解できる。 不定詞（形容詞用法）を理解し活用できる。	
	10週	Unit 4 ガリレオ②	本文の内容を理解できる。 不定詞（形容詞用法）を理解し活用できる。	
	11週	Unit 5 自然の定義①	本文の内容を理解できる。 不定詞（副詞用法）を理解し活用できる。	
	12週	Unit 5 自然の定義②	本文の内容を理解できる。 不定詞（副詞用法）を理解し活用できる。	
	13週	Unit 6 ロボット①	本文の内容を理解できる。 関係代名詞を理解し活用できる。	
	14週	Unit 6 ロボット②	本文の内容を理解できる。 関係代名詞を理解し活用できる。	
	15週	Unit 4～6のまとめと復習	学習した内容が理解できている。	
	16週	前期末試験	これまで学習したことを理解し、定着できている。	
	3rdQ	1週	Unit 7 ストレス①	本文の内容を理解できる。 比較を理解し活用できる。
		2週	Unit 7 ストレス②	本文の内容を理解できる。 比較を理解し活用できる。
		3週	Unit 8 アメリカ英語・イギリス英語①	本文の内容を理解できる。 受け身を理解し活用できる。
		4週	Unit 8 アメリカ英語・イギリス英語②	本文の内容を理解できる。 受け身を理解し活用できる。
		5週	Unit 11 ボランティア①	本文の内容を理解できる。 会話を理解し活用できる。
		6週	Unit 11 ボランティア②	本文の内容を理解できる。 会話を理解し活用できる。
7週		Unit 7、8、11のまとめと復習	学習した内容が理解できている。	
8週		後期中間試験	これまで学習したことを理解し、定着できている。	
4thQ		9週	後期中間試験の返却、解答、解説 Unit 9 医師の正体は？ Part 1①	本文の内容を理解できる。 会話を理解し活用できる。
		10週	Unit 9 医師の正体は？ Part 1②	本文の内容を理解できる。 会話を理解し活用できる。
		11週	Unit 9 医師の正体は？ Part 1③	本文の内容を理解できる。 会話を理解し活用できる。
		12週	Unit 10 医師の正体は？ Part 2①	本文の内容を理解できる。 モノローグを理解し活用できる。
		13週	Unit 10 医師の正体は？ Part 2②	本文の内容を理解できる。 モノローグを理解し活用できる。
		14週	Unit 12 ベトナム戦争①	本文の内容を理解できる。 モノローグを理解し活用できる。
		15週	Unit 12 ベトナム戦争②	本文の内容を理解できる。 モノローグを理解し活用できる。
		16週	学年末試験	これまで学習したことを理解し、定着できている。

後期

評価割合							
	試験	発表	相互評価	提出物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語表現 I
科目基礎情報					
科目番号	1911013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	大修館書店「Genius ジーニアス総合英語 第2版 English Grammar in 27」 この教科書は2年生の英語表現Ⅱでも使用するので、大切に扱うこと				
担当教員	下田 旭美				
到達目標					
(1) 名詞・動詞・形容詞・副詞の語形変化を覚える。 (2) 単語や語句の文中での「働き」を理解する。 (3) 語や語句の「働き」にもとづいて、文の組み立てを理解する。 (4) 日本語と英語との語順の違いを理解する。 (5) 基本例文を暗記し、それをもとに自分からメッセージを伝えるための英文を作る。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	語尾の変化形に気づき文中での意味が理解できる	名詞や動詞等の不規則変化形を間違えない	名詞や動詞等の不規則変化形を間違える		
評価項目2	「働き」の違いをもとに、例文が正確に理解できる	「働き」から主語や動詞、目的語等の区別がつく	「働き」から主語や動詞、目的語等の区別がつかない		
評価項目3	文の組み立ての違いから、例文が正確に理解できる	文の組み立てが区別できる	文の組み立てが区別できない		
評価項目4	語順の違いや前置詞の働きを理解し、その知識を作文に利用できる	語順の違いや前置詞の働きが分かる	語順の違いや前置詞の働きが分からない		
評価項目5	暗記した基本例文をもとに、新しい例文が作れる	基本例文を暗記し、筆記や口頭で再現できる	基本例文を暗記せず、筆記や口頭で再現できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 中学校で学習してきた総合的な英語の知識を、文の組み立てや文中での働きを中心に見直して、文法的な理解と知識の整理をする。 (2) 基本例文を暗唱し、それをもとに自分なりの例文が作れるように練習する。				
授業の進め方・方法	・中学校で習った英語の知識の「復習」と新しい「見方」の学習になるので、英語が苦手な人は「再スタート」、そうでない人は知識の「定着」と「応用」の授業であることを充分理解し、授業に臨んでください。 ・1年生で教科書の半分を学習し、残りは2年生の「英語表現Ⅱ」で学習する。				
注意点	・小テストを重視するので、日々の復習を忘れないこと。 ・提出物等の期限は厳守してください。 ・学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス Lesson 1	シラバス確認、評価方法についての説明 文の種類	
		2週	Lesson 1	文の種類	
		3週	Lesson 2	動詞と文型 (1)	
		4週	Lesson 2 Lesson 3	動詞と文型 (1) 動詞と文型 (2)	
		5週	Lesson 3	動詞と文型 (2)	
		6週	Plus 1	注意すべき動詞	
		7週	前期中間試験		
		8週	答案返却と解説		
	2ndQ	9週	Lesson 4	時制 (1)	

後期	3rdQ	10週	Lesson 4 Lesson 5	時制 (1) 時制 (2)
		11週	Lesson 5	時制 (2)
		12週	Lesson 6	完了形 (1)
		13週	Lesson 6 Lesson 7	完了形 (1) 完了形 (2)
		14週	Lesson 7	完了形 (2)
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	
	4thQ	1週	Lesson 8	助動詞 (1)
		2週	Lesson 9	助動詞 (2)
		3週	Lesson 10	助動詞 (3)
		4週	Plus 2	助動詞を使った表現
		5週	Lesson 11	受動態 (1)
		6週	Lesson 11 Lesson 12	受動態 (1) 受動態 (2)
		7週	後期中間試験	
		8週	答案返却と解説	
		9週	Lesson 12	受動態 (2)
10週	Lesson 13	不定詞 (1)		
11週	Lesson 13 Lesson 14	不定詞 (1) 不定詞 (2)		
12週	Lesson 14	不定詞 (2)		
13週	Lesson 15	不定詞 (3)		
14週	Plus 3	不定詞を使った重要表現		
15週	学年末試験			
16週	答案返却と解説			

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度・ノート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	10	0	0	100
基礎的能力	60	30	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育 I
科目基礎情報					
科目番号	1911014		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	体操服、運動靴、体育館シューズ				
担当教員	橋本 真				
到達目標					
1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、ひとりひとりが主体的に授業におけるルールを意識して実行できる。 2 保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを表明できる。 3 球技では基本的な個人技能を習得する。 4 水泳ではクロールと平泳ぎの泳法を習得する。 5 ダンスではダンスコンテストを通じて、自分たちの感情を身体で表現する。 6 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用できるようにする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。		
評価項目2	保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを表明できる。	保健分野の内容について正しい知識を習得している。	保健分野の内容について正しい知識を習得していない。		
評価項目3	パス、ドリブルなどのボールを所持したときの技能だけでなく、スペースについての理解などオフザボールの動きについても習得している。	パス、ドリブルなどのボールを所持したときの適切な技能を習得している。	パス、ドリブルなどのボールを所持したときの適切な技能を習得していない。		
評価項目4	クロールと平泳ぎに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	クロールと平泳ぎに必要な技能を習得している。	クロールと平泳ぎに必要な技能を習得していない。		
評価項目5	ダンスに必要な技能の習得し、自分の感情を身体で表現するだけでなく、それを周囲に対して教授することができる。	ダンスに必要な技能の習得し、自分の感情を身体で表現することができる。	ダンスに必要な技能の習得し、自分の感情を身体で表現できない。		
評価項目6	率先してCLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 評価については、遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。				
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。				
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業内容について理解している。	
		2週	新体カテスト屋内種目	体カテストの意義や必要性について理解している。体カテストの各調査項目について適切な実施方法を実行している。体カテストの結果をもとに、自分の私生活へ反映することができる。	
		3週	新体カテスト屋外種目	体カテストの意義や必要性について理解している。体カテストの各調査項目について適切な実施方法を実行している。体カテストの結果をもとに、自分の私生活へ反映することができる。	
		4週	New sports	インディアカの基本用語やルールについて理解している。	
		5週	New sports	ソフトバレーではゲーム中にアタックを打って得点を決めることができる。	
		6週	New sports	アルティメットではゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。	

後期		7週	New sports	アルティメットゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。	
		8週	保健：救急救命講習	救急救命講習についての正しい知識を理解したうえで、必要な実技を習得している。	
	2ndQ	9週	ウォータースポーツ	クロールについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。	
		10週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。	
		11週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。	
		12週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。	
		13週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。	
		14週	保健：妊娠と出産	妊娠や出産についての正しい知識を理解したうえで、自分の意見を表明できる。	
		15週	前期末試験		
		16週	前期末試験返却・解説		
	後期	3rdQ	1週	保健：喫煙と健康	喫煙についての正しい知識を理解したうえで、自分の意見を表明できる。
			2週	ダンス	ダンスに必要な技能を習得しようとしている。
			3週	ダンス	グループで協力して1つのダンスを作ることができる。
			4週	ダンス	グループで協力して1つのダンスを作ることができる。
			5週	ダンス	自分たちの感情をダンスを通じて表現することができる。
			6週	ダンス	自分たちの感情をダンスを通じて表現することができる。
7週			クラスマッチの練習		
8週			クラスマッチの練習		
4thQ		9週	こころの健康	こころの健康についての正しい知識を理解したうえで、自分の私生活へ実践しようとしている。	
		10週	フットボール（CLIL学習）	サッカーの基本用語やルールについて理解している。	
		11週	フットボール（CLIL学習）	ゲーム中に適切なプレーを選択している。	
		12週	フットボール（CLIL学習）	サッカーではゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。	
		13週	フットボール（CLIL学習）	サッカーではゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。	
		14週	フットボール（CLIL学習）	フットボールの基本用語やルールについて理解している。	
		15週	学年末試験		
		16週	学年末試験返却・解説		

評価割合

	出席点（日ごろの体調管理）	技能点（体育実技や関心・意欲態度）	知識・理解（保健や体育理論）	合計
総合評価割合	30	50	20	100
評価内容	30	50	20	100

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎実習
科目基礎情報					
科目番号	1911015	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	自主教材を使用				
担当教員	川崎 雄貴, 平井 剛和, 小林 豪, 梶原 和範, 加藤 博明				
到達目標					
(1) 本校の専門教育に使用される施設や教育内容を体験し、自分の将来の専門性についての見通しを得る。 (2) 情報リテラシについて理解する。 (3) レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションを実施できる。 (4) 海や船への関心を高め、仲間と協調する心の大切さを身につける。 (5) 工具や器具の取扱を理解し、それらを利用して自作ができるようになる。 (6) 社会を支える経済について基本的な事柄を知る。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	情報リテラシについて理解でき、内容も説明できる。	情報リテラシについて理解できる。	情報リテラシについてに関する理解できない。		
評価項目2	レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションが理解できて、実施できる。	レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションが理解できる。	レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションに関する理解できない。		
評価項目3	海や船への関心を高め、仲間と協調し行動する大切さが理解し、実行できる。	海や船への関心を高め、仲間と協調する大切さを理解できる。	海や船への関心を高め、仲間と協調する大切さを理解できない。		
評価項目4	センサを利用したプログラム、工具や器具の取扱を理解し、それらを利用して自作が実行できる。	センサを利用したプログラム、工具や器具の取扱を理解し、それらを利用しての自作が理解できる。	センサを利用したプログラム、または工具や器具の取扱が理解できない。		
評価項目5	触媒と酵素のはたらきと特徴が理解でき、説明することができる。	触媒と酵素のはたらきと特徴が理解できる。	触媒と酵素のはたらきと特徴が理解できない。		
評価項目6	地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考え、実行できる。	地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考えることができる。	地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	①本科目は各学科の専門科目の基礎となるもので、組織において協力して行動することの意義を理解しながら、実技・実習と情報演習を行う。 ②一般教科、商船学科、電子制御工学科、流通情報工学科で学習する基礎的な実習・演習を所属学科に関係なく習得する。 ③本科目では専門的知識・技術とその基礎を体験する。社会に貢献できる創造力と実践力の基礎を身につける。				
授業の進め方・方法	前期は、1年生を6班にわけ、週ごとに、「練習船実習」「ロープワーク」「触媒と酵素のはたらきの観察」「工具・測定器取扱実習」「プログラミング実習」「地域創造実習基礎」のそれぞれを体験実習する。あわせて、クラスごとに行われる情報演習の授業も受講し、パソコン操作の基礎練習をする。後期は、情報演習に特化した授業を受講する。				
注意点	教室での座学と違って、実習施設や設備の利用には、学習内容以外にも、実習態度や危険を避けるための服装等にも注意を払う必要がある。各実習テーマに沿った指示を守ることが肝要である。正当な理由なく無断欠席した場合は未履修となる。病気などで止むを得ない事情により欠席する場合には、学級担任または教務係に授業開始前に連絡すること。予習事項はガイダンスの時に指示する。班ごとに実習の内容が異なるので、日程表と簡易手引書で確認すること。連絡事項や服装などを毎回確認すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	基礎実習の目的を理解し、日程・実施場所・注意事項を確認する	
		2週	情報モラル教育	ソーシャルメディアのガイドラインにより、正しい利用方法を学ぶ	
		3週	情報モラル教育	情報システムのユーザガイドラインにより、正しい利用方法と管理方法を学ぶ	
		4週	練習船実習	練習船乗船中の常道や危険回避に関する知識を得る	
		5週	ロープワーク	船の運航に不可欠なロープの使い方を知る	
		6週	触媒と酵素のはたらきの観察	ガラス器具や化学試薬などの適切な取扱を学習する	
		7週	工具・測定器取扱実習	実習工具や測定機の扱い方を知る	
		8週	プログラミング実習	プログラミングに関する知識を得る	
	2ndQ	9週	地域創造実習基礎	地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考える	
		10週	報告書作成法 (Word)	Wordの使い方を習得し、実習に関する報告書を作成する	
		11週	報告書作成法 (Word)	Wordの使い方を習得し、実習に関する報告書を作成する	
		12週	班別準備 (Power Point)	Power Pointの使い方を習得し、実習に関するプレゼン資料を作成する	

		13週	班別準備 (Power Point)	Power Pointの使い方を習得し、実習に関するプレゼン資料を作成する
		14週	班別発表 (Power Point)	自らの発表と他者の発表の聴講により、プレゼンテーション技術を習得する
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		2週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		3週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		4週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		5週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		6週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		7週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		8週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
	4thQ	9週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		10週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		11週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		12週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		13週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		14週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		15週	情報演習	ワークブック・表計算の実際を体験する
		16週		

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	小テスト	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	0	50	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	30	0	30	0	60
専門的能力	0	0	10	0	10	0	20
分野横断的能力	0	0	10	0	10	0	20

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	現代文Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	1921001	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『探求 論理国語』(桐原書店)、『常用漢字 ダブルクリア 四訂版』(尚文出版)。その他、必要に応じて配布する。				
担当教員	後藤田 和				
到達目標					
(1)文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。 (2)鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的文章(詩歌、小説など)の創作をとおして、感受性を培うことができる。 (3)読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。 (4)現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文学作品について、鑑賞の方法を理解し、実践できる。また、幅広い文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できない。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。		
評価項目2	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的文章(詩歌、小説など)の創作をとおして、十分に感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的文章(詩歌、小説など)の創作をとおして、感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的文章(詩歌、小説など)の創作をとおして、感受性を培うことができない。		
評価項目3	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に積極的に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培ったり、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができない。		
評価項目4	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を十分に深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を積極的に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深めたり、その特徴を把握することができない。また、それらの知識を活用して表現することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代文(評論、小説、詩等)や表現単元を通して、内容を文章に即して理解し、相手に自己を表現できるようになることを、目標とする。われわれ人間と「ことば」とは、決して切り離せないものである。事実、相手との意思疎通、知識・技術の獲得と提供、自身の思考、いわゆる「コミュニケーション」と言われる活動のいずれも、「ことば」を用いないものはない。そして、これら「コミュニケーション」活動はすべて、「理解」と「表現」とを土台としている。評論や小説、随想といった「表現」に触れ、その内容を適切に「理解」すること。また、相手に「理解」されやすい「表現」を心がけていくこと。授業を通じて「コミュニケーションスキル」基礎力を養い、よき「理解」者・よき「表現」者となることのできるよう、意識的かつ意欲的な取り組みを期待したい。				
授業の進め方・方法	「授業計画」を参照のこと。				
注意点	(1) 随時、読書タイムや漢字小テストを行う。 (2) 読書感想文などの文章表現、読書メモ等の課題を出すことがある。 (3) 板書記録用のノートまたはルーズリーフの他に、プリント保管用のファイルや国語辞典、漢和辞典を持参することが望ましい。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1.随想 村田沙耶香「気持ちよさという罪」	(1)「随想」が評論的性格と小説的性格を有していることが理解できる。 (2) 作者の物の見方・感じ方・考え方を理解できる。 (3)難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	同上	
		5週	2.評論・小説 鷲田清一「いのちは誰のものか？」 江國香織「晴れた空の下で」	(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 主要な見解をつかむ。対比構造に着目する。 (4)登場人物の心情の変化を追いつつ、作品のテーマを押さえることができる。	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	

後期	2ndQ	8週	前期中間試験 答案返却・解説	
		9週	3.評論 大庭健「動物の信号と人間の言語」	(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。 (3) 主要な見解をつかむ。対比構造に着目する。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	4.レポートの書き方①	(1) レポートの書き方を理解し、説明することができる。 (2) 引用の方法を理解し、文章を正しく引用することができる。 (3) 論題に対して、正しくレポートを書くことができる。
		15週	同上	同上
	16週	前期期末試験 答案返却・解説		
	3rdQ	1週	5.評論 黒崎政男「ロボットは心を持つか」 石黒浩「そもそも心とは何か」	(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。 (3) 主要な見解をつかむ。自分の考えを持つ。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	6.ディベート	(1) ディベートについての基礎知識を理解し、説明することができる。 (2) 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
8週		後期中間試験 試験返却・解説		
4thQ	9週	7.小説 中島敦「山月記」	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 登場人物の心情の変化を追いつつ、作品のテーマを押さえることができる。	
	10週	同上	同上	
	11週	同上	同上	
	12週	同上	同上	
	13週	8.レポートの書き方②	(1) レポートの書き方を理解し、説明することができる。 (2) 引用の方法を理解し、文章を正しく引用することができる。 (3) 論題に対して、正しくレポートを書くことができる。	
	14週	同上	同上	
	15週	同上	同上	
	16週	学年末試験 試験返却・解説		

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	古典Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	1921002	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科	対象学年	2		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	『探求 古典探究』(古文編)(漢文編)(桐原書店)、『古典文法クリアノート』(尚文出版)。その他、必要に応じて配布する。				
担当教員	朝倉 和, 後藤田 和				
到達目標					
<p>(1) 代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。</p> <p>(2) 古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。</p> <p>(3) 代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。また、それらに親しもうとすることができる。</p> <p>(4) 教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	幅広く古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	基礎的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができない。		
評価項目2	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができ、それを踏まえた音読・朗読ができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができない。		
評価項目3	幅広い古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。また、それらに親しもうとすることができる。	代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。また、それらに親しもうとすることができる。	基礎的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べるすることができない。また、それらに親しもうとすることができない。		
評価項目4	教材として取り上げた作品以外についても、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	古典(古文・漢文)を読むことで、日本文化の歴史を理解し、国際人としての基盤を養成することを目的とする。国際人として行動するためには、自国の理解が欠かせない。1年次よりも長文の古典を読むことで、日本文化の多彩な様相について認識を深め、現代の文化の源流を学ぶことができ、日本についてさらに深い理解を得ることができる。古典を学習することは、現代とは違う「ものの見方・感じ方・考え方」を知ることでもある。現代とは異なる価値観を理解しようとし、馴染みのない表現に目を開くことは、広い視野を養い、他者(異文化間・自国間)とのコミュニケーションを実現させる力を養う基礎となる。なお、大学受験を想定しないため、古文の文法や漢文の句法は基礎の習得に留め、内容の理解に重点を置く。				
授業の進め方・方法	(1) 随時、古典文法や、漢文の訓読に関する小テストを行う。 (2) ノートの取り方は事前に指導するので、毎回、授業範囲分の教科書の本文を写してくること。				
注意点	(1) 電子辞書や古語辞典、漢和辞典を持参することが望ましい。 (2) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 『論語』	1-(1) 孔子や論語について確認する。 1-(2) 正確に訓読し、現代語訳を施す。 1-(3) 孔子の政治・学問・教育に関して理解する。 1-(4) 「君子」に関する孔子の考えを理解する。	
		2週	同上	同上	
		3週	2. 陶潜「桃花源記」	2-(1) 書き下し文を正しく書くことによって、漢文に慣れることができる。 2-(2) 口語訳を通じて、中国の古人の物の見方、考え方、感じ方を知ることができる。 2-(3) 物語の展開に沿って正確に読解する。 2-(4) 桃花源郷が作られた理由をさぐる。桃花源郷と大崎上島を比較する。グループに分かれて、「ユートピア(理想郷)」に関して探究する。	
		4週	同上	同上	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	

2ndQ	8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	9週	3. 『方丈記』 「行く川の流れ」	4-(1) 古文の特徴に注意しながら読解する。重要単語・文法事項を注意する。 4-(2) 口語訳を通じて、時代背景や無常観について関心を深める。
	10週	同上	同上
	11週	同上	同上
	12週	4. 『平家物語』 「先帝入水」	4-(1) 古文の特徴に注意しながら読解する。重要単語・文法事項を注意する。 4-(2) 平家の都落ちから壇ノ浦の戦いまでをまとめ、冒頭の場面の戦況を捉える。 4-(3) 口語訳を通じて、平家が置かれた絶体絶命の状況と、そこでの知盛・女房たち・二位殿の人物像を対比的に捉える。
	13週	同上	同上
	14週	同上	同上
	15週	同上	同上
	16週	前期期末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	歴史
科目基礎情報					
科目番号	1921003	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	現代の歴史総合 (山川出版社、2021年)				
担当教員	小河 浩				
到達目標					
(1)主に第二次大戦後から現代までの歴史について、歴史総合で高等学校履修程度の内容が理解できる。詳細な内容は以下の通りである。 (2)米ソ冷戦構造と我々について高等学校履修程度の内容を理解して、社会活動に応用できる。 (3)米ソ冷戦構造の終結から世界のグローバル化について高等学校履修程度の内容を理解して、社会活動に応用できる。 (4)上記の時代にあたる日本および世界諸地域の地域史について、基礎的な内容を理解して、社会活動に応用できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	第二次世界大戦の終結から、米ソ冷戦構造の始まりなどについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に応用できる。	第二次世界大戦の終結から、米ソ冷戦構造の始まりなどについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に関心を向けられる。	第二次世界大戦の終結から、米ソ冷戦構造の始まりなどについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できず、社会活動に応用できない。		
評価項目2	太平洋戦争の終結から、日本の独立・日本の冷戦構造への参画などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に応用できる。	太平洋戦争の終結から、日本の独立・日本の冷戦構造への参画などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に関心を向けられる。	太平洋戦争の終結から、日本の独立・日本の冷戦構造への参画などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できず、社会活動に応用できない。		
評価項目3	石油危機や日本の高度経済成長・アジア世界の変容などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に応用できる。	石油危機や日本の高度経済成長・アジア世界の変容などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に関心を向けられる。	石油危機や日本の高度経済成長・アジア世界の変容などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できず、社会活動に応用できない。		
評価項目4	米ソ冷戦構造の展開からソ連崩壊後の世界、世界秩序の変遷と日本などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に応用できる。	米ソ冷戦構造の展開からソ連崩壊後の世界、世界秩序の変遷と日本などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に関心を向けられる。	米ソ冷戦構造の展開からソ連崩壊後の世界、世界秩序の変遷と日本などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できず、社会活動に応用できない。		
評価項目5	グローバル化の進展と日本・世界経済・我々の生活などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に応用できる。	グローバル化の進展と日本・世界経済・我々の生活などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に関心を向けられる。また上記の時代にあたる日本および地域史について基礎的な事項が理解できて、社会活動に関心を向けられる。	グローバル化の進展と日本・世界経済・我々の生活などについて基礎的な用語が理解できず、社会活動に応用できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)主に第二次大戦後から現代までの歴史について、歴史総合で高等学校履修程度の内容が理解できる。詳細な内容は以下の通りである。 (2)米ソ冷戦構造と我々について高等学校履修程度の内容を理解して、社会活動に応用できる。 (3)米ソ冷戦構造の終結から世界のグローバル化について高等学校履修程度の内容を理解して、社会活動に応用できる。 (4)上記の時代にあたる日本および世界諸地域の地域史について、基礎的な内容を理解して、社会活動に応用できる。				
授業の進め方・方法	2年の歴史では、第二次大戦終了後の世界、米ソ冷戦構造からソ連崩壊後の現代にいたるまでの幅広い対象に関して学習する。世界の動向に加えて日本の歩みやグローバル化された世界と我々の生活にいたるまでを学ぶなど、近代以降の歴史について学習する。グローバル化した世界の展開を理解するのは、語学ばかりでなく、世界の歴史や文化についての幅広い知識が必要である。				
注意点	(1)シラバス内容に照らし合わせて予習をしてくること。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1.第二次大戦の終結・米ソ冷戦構造の始まり・日本の独立	ガイダンス 1-(1)第二次大戦の終結・米ソ冷戦構造の始まり・日本の独立について理解できて、社会活動に応用できる。	
		2週	1.第二次大戦の終結・米ソ冷戦構造の始まり・日本の独立	1-(2)第二次大戦の終結・米ソ冷戦構造の始まり・日本の独立・朝鮮戦争などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		3週	2.冷戦構造下での軍拡競争と緊張緩和・地域連携の形成と展開	2-(1)冷戦構造下での軍拡競争・核開発と緊張緩和・地域連携の形成と展開について理解できて、社会活動に応用できる。	
		4週	2.国際秩序の変化・大衆化・現代的な諸課題	2-(2)鉄道・移民と統合・平等と格差問題について理解できて、社会活動に応用できる。	
		5週	2.冷戦と国際関係・人や資本の移動・高度情報通信	2-(3)冷戦と国際関係・人や資本の移動・高度情報通信について理解できて、社会活動に応用できる。	

後期	2ndQ	6週	2. 食料と人口・資源エネルギーと環境・感染症・多様な共存	2-(4)食料と人口・資源エネルギーと環境・感染症・多様な共存などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		7週	前期中間試験	前期中間試験	
		8週	3. 冷戦下の地域紛争と脱植民地化	答案返却と解説 3-(1)東アジア・アラブ諸国と中東戦争・インドシナ戦争について理解できて、社会活動に応用できる。	
		9週	3. 冷戦下の地域紛争と脱植民地化	3-(2)ベトナム戦争と反戦運動について理解できて、社会活動に応用できる。	
		10週	3. 地域連携の形成と展開	3-(3)西ヨーロッパやアジア・アフリカでの地域統合について理解できて、社会活動に応用できる。	
		11週	3. 計画経済とその波及	3-(4)第三世界から見たアメリカとソ連について理解できて、社会活動に応用できる。	
		12週	3. 計画経済とその波及	3-(5)中国の社会主義体制について理解できて、社会活動に応用できる。	
		13週	3. 日本の高度経済成長	3-(6) 日本の高度経済成長の展開について理解できて、社会活動に応用できる。	
	14週	4.日本の高度経済成長	4-(1) 日本の高度経済成長の引き起こした社会問題について理解できて、社会活動に応用できる。		
	15週	4.アジアの中の戦後日本	4-(2) 日中韓の関係や沖縄の返還について理解できて、社会活動に応用できる。		
	16週	前期末試験	前期末試験		
	後期	3rdQ	1週	4. 世界秩序の変容と日本	答案返却と解説 4-(3) 世界の歩みと日本について理解できて、社会活動に応用できる。
			2週	4. 石油危機	4-(4) ドルショックや石油危機について理解できて、社会活動に応用できる。
			3週	4. 石油危機	4-(5) 高度経済成長の終わりや貿易摩擦について理解できて、社会活動に応用できる。
			4週	4. アジア諸地域の経済発展	4-(6) 東南アジア・西アジア・インドなどの経済発展について理解できて、社会活動に応用できる。
			5週	4. 市場開放と経済の自由化	4-(7) 経済における自由化や市場の発展について理解できて、社会活動に応用できる。
6週			4. 市場開放と経済の自由化	4-(8) プラザ合意や環境問題について理解できて、社会活動に応用できる。	
7週			4. 情報技術革命とグローバル化	4-(9) IT革命やグローバル化・情報化社会について理解できて、社会活動に応用できる。	
8週			4. 冷戦の終結とソ連崩壊	4-(10) ゴルバチョフの改革と東欧の激変について理解できて、社会活動に応用できる。	
4thQ		9週	5. 冷戦の終結とソ連崩壊	5-(1) ソ連崩壊とロシア連邦の成立について理解できて、社会活動に応用できる。	
		10週	5. 現代の東アジア	5-(2) ソ連崩壊後の東アジア情勢について理解できて、社会活動に応用できる。	
		11週	後期中間試験	後期中間試験	
		12週	5. 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化	答案返却と解説 5-(3) 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化について理解できて、社会活動に応用できる。	
		13週	5. 地域統合の拡大と変容	5-(4) EUの拡大などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		14週	5. 地域紛争と国際社会	5-(5) 冷戦構造終結後の地域紛争や国際社会の対応について理解できて、社会活動に応用できる。	
		15週	5. 現代と私たちの抱える諸課題	5-(6) 今後に我々の抱える諸課題と展望について理解できて、社会活動に応用できる。	
		16週	学年末試験	学年末試験、答案返却と解説	

評価割合

	試験	グループ発表	相互評価	授業態度		その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学ⅡA
科目基礎情報					
科目番号	1921004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	新基礎数学 (大日本図書)、新基礎数学問題集 (大日本図書)、新微分積分Ⅰ (大日本図書)、新微分積分Ⅰ問題集 (大日本図書)				
担当教員	川崎 雄貴, 平井 剛和, 菅田 慶, 大山 博史				
到達目標					
(1) さまざまな初等関数について、その性質とグラフを理解できる。 (2) 指数関数、対数関数のグラフと性質が理解できる。 (3) 直線や2次曲線の図を理解し、方程式を求めることができる。 (4) 極限値の計算ができて、導関数の定義が理解できる。 (5) 導関数の性質を用いて、いろいろな関数の微分が計算できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
いろいろな関数	関数の性質を一般的に理解し、いろいろな関数を系統的に捉えている。	いろいろな関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができる。	いろいろな関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができない。		
指数関数と対数関数	指数関数と対数関数の性質やグラフを理解し、その基礎的な活用ができる。	指数・対数の計算ができて、指数関数・対数関数のグラフをかくことができる。	指数・対数の計算が出来ず、指数関数・対数関数のグラフをかくことができない。		
図形と方程式	直線や2次曲線の方程式を用いて、複雑な問題を処理することができる。	直線や2次曲線の方程式を求めることができる。	直線や2次曲線の方程式を求めることができない。		
関数の極限と導関数	関数の極限値を理解し、導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができて、いろいろな関数の導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができず、いろいろな関数の導関数を導くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 1年次に続いて更なる計算技術の定着を目標とする。 (3) 無理関数などの初等的関数の性質を理解することを目標とする。 (4) 指数関数と対数関数の関係と性質を理解することを目標とする。 (5) 図形と式の関係と性質を理解することを目標とする。 (6) 微分法の概念を理解し、様々な関数の導関数の計算ができるようにする。 (7) 学習内容の理解を深め、3年次の数学や専門科目の「応用数学」に対応できるようにする。				
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。				
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身につける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	いろいろな関数	偶関数・奇関数が理解できる。	
		2週	いろいろな関数	べき関数のグラフをかくことができる。	
		3週	いろいろな関数	分数関数のグラフをかくことができる。	
		4週	いろいろな関数	無理関数のグラフをかくことができる。	
		5週	いろいろな関数	グラフの対称移動および拡大縮小が理解できる。	
		6週	いろいろな関数	逆関数が理解できる。	
		7週	前期中間試験		
	2ndQ	8週	指数関数	累乗根の計算ができる。	
		9週	指数関数	指数の拡張ができる。	
		10週	指数関数	指数関数のグラフがかけられる。	
		11週	指数関数	指数関数の方程式と不等式がとける。	
		12週	対数関数	対数の定義が理解できる。	
		13週	対数関数	対数の性質が理解できる。	
		14週	対数関数	底の変換公式を用いた計算ができる。	
		15週	前期末試験		
		16週	対数関数	対数関数のグラフをかくことができる。	
後期	3rdQ	1週	対数関数	対数の方程式・不等式を解くことができる。	
		2週	対数関数	常用対数の理解ができる。	
		3週	点と直線	2点間の距離を求めることができる。	
		4週	点と直線	内分点の座標を求めることができる。	

4thQ	5週	点と直線	直線の方程式を求めることができる。
	6週	点と直線	2つの直線の平行・垂直条件を理解している。
	7週	2次曲線	円の方程式を求めることができる。
	8週	2次曲線	円の方程式を求めることができる。
	9週	2次曲線	放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。
	10週	2次曲線	不等式の表す領域を求めたり、領域を不等式で表すことができる。
	11週	後期中間試験	
	12週	関数の極限	関数の極限值を計算できる。
	13週	関数の極限	無限大の概念を理解できる。
	14週	導関数	微分係数の定義を理解できる。
15週	導関数	導関数を定義を用いて導くことができる。 導関数の性質を使って微分の計算ができる。	
16週	学年末試験		

評価割合

	試験	小テスト	課題	授業態度	合計
総合評価割合	60	10	20	10	100
基礎的能力	40	5	15	10	70
専門的能力	15	5	5	0	25
分野横断的能力	5	0	0	0	5

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学ⅡB	
科目基礎情報						
科目番号	1921005	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教科	対象学年	2			
開設期	通年	週時間数	2			
教科書/教材	新基礎数学 (大日本図書)、新線形代数 (大日本図書)、新基礎数学問題集 (大日本図書)、新線形代数問題集 (大日本図書)					
担当教員	菅田 慶					
到達目標						
(1) 加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。 (2) 様々な数列の仕組みを理解し、公式等を用いて計算することができる。 (3) ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。 (4) ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	加法定理を理解し、それを応用して、2倍角の公式などを導出し、適切に利用することができる。	加法定理やそれから導出される公式を適切に利用することができる。	加法定理やそれから導出される公式を使うことができない。			
評価項目2	様々な数列の仕組みを理解し、公式等を用いて複雑な問題を処理することができる。	様々な数列の仕組みを理解し、公式等を用いて計算することができる。	様々な数列の仕組みを理解していない、または公式等を用いて計算することができない。			
評価項目3	ベクトルを用いた解法と用いない解法を比較することにより、ベクトルの有用性について認識している。	ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。	ベクトルの概念を理解していない。			
評価項目4	ベクトルと直線・平面・球の方程式の関係性を深く理解し、複雑な問題を処理することができる。	ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。	ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解していない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	(1) 数学を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門的内容を理解する能力を身につける授業を行う。 (2) 1年次に続いて更なる計算技術の定着を目標とする。 (3) 三角関数の基礎を理解し、その応用方法を習得できるように学習する。 (4) 数列の仕組みを理解し、計算方法等の基礎を学習する。 (5) ベクトルの概念を理解し、基礎から応用まで幅広く学習する。 (6) 学習内容の理解を深め、3年次の数学や専門科目に対応できるようにする。					
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	三角関数	加法定理を理解できる。		
		2週	三角関数	加法定理を理解できる。		
		3週	三角関数	加法定理から導出される公式を使うことができる。		
		4週	三角関数	加法定理から導出される公式を使うことができる。		
		5週	三角関数	三角関数の合成を理解できる。		
		6週	三角関数	三角関数の合成を理解できる。		
		7週	前期中間試験・答案返却・解説			
	2ndQ	8週	数列	数列を理解できる。		
		9週	数列	等差数列を理解できる。		
		10週	数列	等差数列の和を理解できる。		
		11週	数列	等比数列を理解できる。		
		12週	数列	等比数列の和を理解できる。		
		13週	数列	いろいろな数列の和を理解できる。		
		14週	数列	漸化式を理解できる。		
		15週	数列	数学的帰納法を理解できる。		
16週		前期末試験・答案返却・解説				
後期	3rdQ	1週	平面ベクトル	ベクトルの定義を理解し、平面ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		
		2週	平面ベクトル	ベクトルの定義を理解し、平面ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		

		3週	平面ベクトル	平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		4週	平面ベクトル	平面ベクトルの内積を求めることができる。
		5週	平面ベクトル	平面において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		6週	空間ベクトル	空間ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
		7週	空間ベクトル	空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		8週	空間ベクトル	空間ベクトルの内積を求めることができる。
		9週	後期中間試験・答案返却・解説	
		10週	空間ベクトル	空間において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
	4thQ	11週	空間ベクトル	空間において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		12週	直線・平面・球の方程式	ベクトル方程式を用いて、直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		13週	直線・平面・球の方程式	直線・平面・球の方程式を用いて応用問題を解くことができる。
		14週	直線・平面・球の方程式	直線・平面・球の方程式を用いて応用問題を解くことができる。
		15週	直線・平面・球の方程式	直線・平面・球の方程式を用いて応用問題を解くことができる。
		16週	学年末試験・答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	授業態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	100
基礎的能力	70	20	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学ⅡC
科目基礎情報					
科目番号	1921006	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	新基礎数学 (大日本図書)、新基礎数学問題集 (大日本図書)、新微分積分Ⅰ (大日本図書)、新微分積分Ⅰ問題集 (大日本図書)、新線形代数 (大日本図書)、新線形代数問題集 (大日本図書)				
担当教員	川崎 雄貴, 菅田 慶, 平井 剛和, 大山 博史				
到達目標					
(1) さまざまな初等関数について、その性質とグラフを理解できる。 (2) 三角関数、指数関数、対数関数のグラフと性質が理解できる。 (3) 極限値の計算ができて、導関数の定義が理解できる。 (4) 導関数の性質を用いて、いろいろな関数の微分が計算できる。 (5) 直線や円の方程式を求めることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
いろいろな関数	関数の性質を一般的に理解し、いろいろな関数を系統的に捉えている。	いろいろな関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができる。	いろいろな関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができない。		
指数関数と対数関数	指数関数と対数関数の性質やグラフを理解し、その基礎的な活用ができる。	指数・対数の計算ができて、指数関数・対数関数のグラフをかくことができる。	指数・対数の計算が出来ず、指数関数・対数関数のグラフをかくことができない。		
図形と方程式	直線や2次曲線の方程式を用いて、複雑な問題を処理することができる。	直線や2次曲線の方程式を求めることができる。	直線や2次曲線の方程式を求めることができない。		
関数の極限と導関数	関数の極限値を理解し、導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができて、いろいろな関数の導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができず、いろいろな関数の導関数を導くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 1年次に続いて更なる計算技術の定着を目標とする。 (3) 無理関数などの初等関数の性質を理解することを目標とする。 (4) 指数関数と対数関数の関係と性質を理解することを目標とする。 (5) 図形と式の関係と性質を理解することを目標とする。 (6) 微分法の概念を理解し、様々な関数の導関数の計算ができるようにする。 (7) 学習内容の理解を深め、3年次の数学や専門科目の「応用数学」に対応できるようにする。				
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。				
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身につける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	いろいろな関数	偶関数・奇関数が理解できる。	
		2週	いろいろな関数	べき関数のグラフをかくことができる。	
		3週	いろいろな関数	分数関数のグラフをかくことができる。	
		4週	いろいろな関数	無理関数のグラフをかくことができる。	
		5週	いろいろな関数	グラフの対称移動および拡大縮小が理解できる。	
		6週	いろいろな関数	逆関数が理解できる。	
		7週	前期中間試験		
		8週	指数関数	累乗根の計算ができる。	
	2ndQ	9週	指数関数	指数の拡張ができる。	
		10週	指数関数	指数関数のグラフがかけられる。	
		11週	指数関数	指数関数の方程式と不等式がとける。	
		12週	対数関数	対数の定義が理解できる。	
		13週	対数関数	対数の性質が理解できる。	
		14週	対数関数	底の変換公式を用いた計算ができる。	
		15週	前期末試験		
		16週	対数関数	対数関数のグラフをかくことができる。	
後期	3rdQ	1週	対数関数	対数の方程式・不等式を解くことができる。	
		2週	対数関数	常用対数の理解ができる。	
		3週	点と直線	2点間の距離を求めることができる。	
		4週	点と直線	内分点の座標を求めることができる。	

4thQ	5週	点と直線	直線の方程式を求めることができる。
	6週	点と直線	2つの直線の平行・垂直条件を理解している。
	7週	2次曲線	円の方程式を求めることができる。
	8週	2次曲線	円の方程式を求めることができる。
	9週	2次曲線	放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。
	10週	2次曲線	不等式の表す領域を求めたり、領域を不等式で表すことができる。
	11週	後期中間試験	
	12週	関数の極限	関数の極限值を計算できる。
	13週	関数の極限	無限大の概念を理解できる。
	14週	導関数	微分係数の定義を理解できる。
15週	導関数	導関数を定義を用いて導くことができる。 導関数の性質を使って微分の計算ができる。	
16週	学年末試験		

評価割合

	試験	小テスト	課題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	10	10	60	20	0	0	100
基礎的能力	10	10	60	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理
科目基礎情報					
科目番号	1921007	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」藤原滋泰（ http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html ）／参考図書：「機械系の運動と振動の基礎・基本」瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰（海文堂）				
担当教員	藤原 滋泰				
到達目標					
(1) 物体に力が働いた時の運動の状態を理解出来る様になり、具体的な計算ができる様になる。 (2) エネルギーと仕事の関係、エネルギー相互の変換、エネルギー保存則を学び、理解を深められる様になる。 (3) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	力の概念と各法則について理解しており、複雑な合成や分解の計算結果を運動方程式に正しく代入し、計算することも出来る。	力の種類と単位、フックの法則、力の合成と分解、力の成分、力の釣り合い、作用・反作用の法則、慣性の法則、運動の法則について説明でき、運動方程式を解ける。	力についての基本的な概念を説明できず、力についての法則も理解出来ない。運動方程式を立てることも出来ない。		
評価項目2	複数の力が働く場合でも運動方程式を立てることが出来、それらを正しく連立して解くことができる。摩擦角についての問題も解くことができる。	張力が働く場合の運動、押し合う力が働く2物体の運動、摩擦力が働く場合の運動、空気抵抗が働く場合の運動、圧力と浮力についての基本的な問題を解くことができる。	力の働きについて説明できない。または、力のベクトルを図形に記入することが出来ない。よって、運動方程式を立てることも出来ない。		
評価項目3	波の位相、横波と縦波、波の独立性と重ね合わせの原理、定常波、自由端反射と固定端反射についての応用的な問題を解くことが出来る。	媒質の振動、等速円運動と単振動、波の位相、横波と縦波、波の独立性と重ね合わせの原理、定常波、自由端反射と固定端反射についての基本的な問題を解ける。	波や等速円運動、単振動の基本的な概念を理解しておらず、波についての基本的な物理量の計算ができない。自由端や固定端で反射した波についての簡単な作図もできない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を正確に表す方法を学ぶ。 (2) 物を持ち上げたり運んだりするには力が必要であり、身の回りの運動する物体には、重力や摩擦力が働いている。この様な力の性質を学び、物体に力が働いた時の運動状態について学習する。 (3) 運動がエネルギー保存則により理解出来る事を学び、エネルギーと仕事の関係、エネルギーの種類と相互変換なども学習する。 (4) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。				
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。				
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張ってください。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1.運動の法則	1-(1) 慣性の法則、運動の法則について説明でき、問題を解くことができる。 1-(2) 運動方程式、重力と質量、単位と次元について説明でき、運動方程式を解くことができる。	
		2週	2. 運動方程式の応用	2-(1) 張力が働く場合の運動、押し合う力が働く2物体の運動について説明でき、運動方程式を解くことができる。	
		3週	2. 運動方程式の応用	2-(2) 摩擦力が働く場合の運動、静止摩擦力、摩擦角、動摩擦力についての問題を解くことができる。	
		4週	2. 運動方程式の応用	2-(3) 空気抵抗が働く場合の運動について説明でき、運動方程式を解くことができる。	
		5週	2. 運動方程式の応用	2-(4) 圧力と浮力についての計算ができる。	

後期		6週	3. 仕事とエネルギー	3-(1) 仕事の原理、仕事、仕事率	
		7週	3. 仕事とエネルギー	3-(2) 負の仕事、曲面に沿って動く場合の仕事	
		8週	前期中間試験 答案返却・解説		
	2ndQ	9週	3. 仕事とエネルギー	3-(3) 物体の運動エネルギーに関する計算ができる。 3-(4) 運動エネルギーと仕事に関する計算ができる。	
		10週	3. 仕事とエネルギー	3-(5) 重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	
		11週	3. 仕事とエネルギー	3-(6) 弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	
		12週	3. 仕事とエネルギー	3-(7) 力学的エネルギー保存則について理解し、様々な物理量の計算に利用できる。	
		13週	4. 温度と熱	4-(1) 原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について理解している。 4-(2) 物体の熱容量と比熱について理解している。	
		14週	4. 温度と熱	4-(3) 時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを理解している。 4-(4) 熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。	
		15週	4. 温度と熱	4-(5) 気体の内部エネルギーについて理解している。 4-(6) 熱力学第一法則について理解している。 5-(7) ボイル・シャルルの法則について説明できる。	
		16週	前期期末試験 答案返却・解説		
	後期	3rdQ	1週	4. 温度と熱	4-(7) エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを、具体例を挙げて説明できる。 4-(8) 不可逆変化について理解し、具体例を挙げることができる。
			2週	4. 温度と熱	4-(9) 熱機関について理解し、熱効率に関する計算ができる。
			3週	5. 波の伝わり方	5-(1) 波の波長、周期、振動数、速さについて説明と計算が出来る。
			4週	5. 波の伝わり方	5-(2) 横波と縦波についての計算や作図ができる。
			5週	6. 波の重ね合わせ・干渉と回折	6-(1) 波の重ね合わせの原理を理解している。 6-(2) 波の独立性を理解している。
6週			6. 波の重ね合わせ・干渉と回折	6-(3) 定常波、自由端反射と固定端反射についての計算や作図ができる。	
7週			6. 波の重ね合わせ・干渉と回折	6-(4) 波面、2つの波の干渉、波の回折の問題が解ける。	
8週			後期中間試験 答案返却・解説		
4thQ		9週	7. 波の反射と屈折・音	7-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題が解ける。 7-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が解ける。	
		10週	7. 波の反射と屈折・音	7-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができる。	
		11週	7. 波の反射と屈折・音	7-(4) 弦の長さ、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。	
		12週	7. 波の反射と屈折・音	7-(5) 気柱の長さ、音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる（開口端補正は考えない）。	
		13週	7. 波の反射と屈折・音	7-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。	
		14週	8. 光	8-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。	
		15週	8. 光	8-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。	
		16週	学年末試験 答案返却・解説		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	理科総合
科目基礎情報					
科目番号	1921008	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	化学基礎 (啓林館)、生物基礎 (啓林館)、化学基礎の基本マスター				
担当教員	大沼 みお				
到達目標					
(1) 物質について理解し、応用できる。 (2) 気体の性質に関する知識を習得し、応用できる。 (3) 酸と塩基に関する知識を習得し、応用できる。 (4) 酸化還元反応に関する知識を習得し、説明できる。 (5) 生物の多様性と生態系について知識を習得し、説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 物質	物質について理解し、発展的な問題を解くことができる。	物質について理解し、標準的な計算問題を解くことができる。	物質について理解していない。		
評価項目2 化学反応式	化学反応式を理解し、発展的な問題を解くことができる。	化学反応式を理解し、標準的な問題を解くことができる。	化学反応式を理解していない。		
評価項目3 酸と塩基	酸と塩基について理解し、発展的な問題を解くことができる。	酸と塩基について理解し、標準的な問題を解くことができる。	酸と塩基について理解していない。		
評価項目4 生物の多様性と生態系	生物の多様性と生態系について理解し、発展的な問題を解くことができる。	生物の多様性と生態系について理解し、標準的な問題を解くことができる。	生物の多様性と生態系について理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	化学：1年生で学んだ物質の構造、化学結合などの知識を基礎に、様々な物質の性質や化学変化に関する知識と考え方を習得する。 生物：様々な生命現象を科学的に説明できるようになるための基礎的な知識を学ぶ。				
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。				
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 授業態度も評価対象とします。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1年生 (化学) の復習 (原子の構造と化学結合) 1.原子量・分子量・式量と物質	原子の構造と化学結合について理解している。 原子の相対質量と原子量が理解できる。	
	2週	1.原子量・分子量・式量と物質	分子量・式量がどのような意味をもつか理解できる。 アボガドロ定数を理解し、物質 (mol) を用いて物質の量を表すことができる。物質に関する問題が解ける。		
	3週	1.原子量・分子量・式量と物質	気体の体積と物質の関係を理解し、問題が解ける。		
	4週	2.溶液の濃度	電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。 質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。		
	5週	2.溶液の濃度	モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。		
	6週	原子量・分子量・式量と物質、溶液の濃度の演習			
	7週	前期中間試験 答案返却・解説			
	8週	3.化学反応式	化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。		
	2ndQ	9週	3.化学反応式	化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	
	10週	3.化学反応式	化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。		
	11週	3.化学反応式	化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。		
	12週	3.化学反応式	化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。		
	13週	4.酸と塩基	酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)が説明できる。 酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。		
	14週	4.酸と塩基	酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。 電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。		
	15週	化学反応式、酸・塩基の演習			
	16週	前期末試験 答案返却・解説			

後期	3rdQ	1週	前期の復習（物質量と化学反応式）	物質量について理解している。 化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。
		2週	前期の復習（酸と塩基）	酸・塩基の定義を理解している。 酸・塩基の価数と強弱を理解している。
		3週	4.酸と塩基	pHが説明でき、pHから水素イオン濃度、水素イオン濃度からpHを計算できる。
		4週	4.酸と塩基	pHが説明でき、pHから水素イオン濃度、水素イオン濃度からpHを計算できる。
		5週	4.酸と塩基	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		6週	4.酸と塩基	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		7週	4.酸と塩基	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		8週	物質量と化学反応式、酸と塩基の演習	
	4thQ	9週	後期中間試験 答案返却・解説	
		10週	生物の多様性と生態系	植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。
		11週	生物の多様性と生態系	世界のバイオームとその分布について説明できる。 日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。
		12週	生物の多様性と生態系	生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。 生態ピラミッドについて説明できる。
		13週	生物の多様性と生態系	生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。 熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。
		14週	生物の多様性と生態系	生態系のバランスと保全について説明できる。
		15週	生物の多様性と生態系の演習	
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	態度	合計
総合評価割合	70	25	5	100
基礎的能力	70	25	5	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	1921009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	MY WAY English Communication II New Edition (三省堂)				
担当教員	藤沢 徹也				
到達目標					
<p>(1)新出語彙を、音の変化を意識しながら、理解し定着させる。 (2)まとまった英文の内容を、文法内容を理解し、音声トレーニングをすることにより、自動化させる。 (3)テキストの内容を、暗唱した本文を利用して、パラフレーズしたり自らの意思を簡単な英語で表出できるようになる。 (4)テキストを、音声トレーニングにより、オーバーラッピングやシャドーイングができるようになる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 語句を理解する	全ての新出語句の綴り、発音、意味を理解できる	多くの新出語句の綴り、意味、発音を理解できる。	新出語句の綴り、意味、発音を理解しようとしていない。		
評価項目2 聞き取りで理解できる	本文を音声CDと同じ速さ、調子で音読できる	音声CDとある程度同じ速さ、調子で音読できる。	音声CDと同じ速さ調子で読もうとしない		
評価項目3 基本構文を理解し、英作文が作れる	冠詞等の微細な間違いのみで英作文が作れる	基本構文を使って、通じる程度の英作文が作れる	基本構文を使えない		
評価項目4 速音読が出来る	付属のCDと同じ速さで読める	時々遅れるが、読める	CDについて読もうとしない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	新出語句の綴り、発音、意味を理解できる。 英文を音声CDと同じ速さ、調子で音読できる。 音読出来るようになった英文を聞いて理解できる。 文法事項を系列立てて理解できる。				
授業の進め方・方法	単語テストにより、語句の定着をはかる。 文構造に注意して、英文の意味が分かるようにする。 英文を音声CDについて音読する。出来るまで何度も挑戦する。(オーバーラッピング・シャドーイング) 重要事項に注意して、英文の意味が分かり、それを使って簡単な英作文ができるようにする。				
注意点	(1) 学習内容の定着には、日々の復習が不可欠です。 (2) 教科書などを活用して主体的に学習するよう心がけてください (3) 提出物等の期限は厳守してください。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Lesson1 Pictograms	SVC / SVO / SVO(O=if節) / SVC (C=過去分詞)	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	Lesson 2 A New Way to Clean Up the Ocean	SVO1O2(O2=if節、that節、what節) / it seems that ~	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	Lesson 1 復習	Lesson 1の定着	
		8週	Lesson 2 復習	Lesson 2の定着	
	2ndQ	9週	Lesson 3 Cuba	It is ... to不定詞 / It is ... that ~ / 形式目的語	
		10週	同上	同上	
		11週	同上	同上	
		12週	Lesson 4 The World's Poorest President	SVOC(C=動詞の原形、過去分詞) / SVO + (to)不定詞	
		13週	同上		
		14週	同上		

		15週	Lesson 3,4の復習	Lesson 3,4の定着
		16週	答案返却と解説	定着できていなかったことの確認と理解
後期	3rdQ	1週	Lesson 5 Eye Contact	関係代名詞 / 前置詞 + 関係代名詞 / 関係代名詞・関係副詞の非制限用法
		2週	同上	
		3週	同上	
		4週	Lesson 6 A Space Elevator	現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了進行形 / 未来進行形
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	Lesson 5の復習	Lesson 5の定着
		8週	Lesson 6の復習	Lesson 6の定着
	4thQ	9週	Lesson 7 An Encouraging Song	助動詞 / 助動詞 + have + 過去分詞 / wouldを使った表現 / 完了不定詞
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	Lesson 8 Language Contacts	仮定法過去 / 仮定法過去完了 / ifを使わない仮定法 / no matter + 疑問詞
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	Lesson 7,8の復習	Lesson 7,8の定着
		16週	答案返却と解説	定着できていなかったことの確認と理解

評価割合

	試験	宿題プリント	授業プリント	長期休み(GW)課題	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
基礎的能力	60	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語表現Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	1921010	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	桐原書店「総合英語 FACTBOOK English Grammar Standard」(1年生で使用した教科書を継続して使用する)				
担当教員	下田 旭美, 飛田 麻也香				
到達目標					
(1)動名詞の各用法と、不定詞との違いを理解する (2)分詞の各用法を理解する (3)比較の各用法を理解する (4)関係詞を理解する (5)仮定法の考え方と用法を理解する					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
準動詞の各用法を理解する	不定詞・動名詞・分詞・分詞構文の各用法を理解し、それを含む英文の意味を理解できる	各用法の意味が言える	各用法が理解できない		
比較の各用法を理解する	比較を含んだ英文の意味が分かり、自分でも比較を用いた英作文ができる	各級の形を理解できる	各級の形が分からない		
関係詞の使われ方を理解する	関係詞を含んだ英文の意味を理解し、関係詞を含む英作文が出来る	関係詞の使われ方を理解する	関係の使われ方が理解できない		
仮定法を理解する	仮定法の表現が分かり、自分でも仮定法を用いて読んだり書いたりすることができる	仮定法の表現が分かる	仮定法の考え方が理解できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>本科目では、中学校・高専1年で学習した語句・文法事項の復習に加え高2程度の語句・文法を学習していきます。語句や文法の知識を身につけるだけでなく、その知識を用いて「話す」「聞く」「読む」「書く」という4つの力を伸ばしていきます。</p> <p>また、重要構文や慣用表現について理解し、暗唱できるようにしましょう。</p>				
授業の進め方・方法	<p>基本的に、教科書の内容に沿って授業を進めていきます。文法事項について学習したのち、練習問題で学習内容の定着をはかります。また、教科書中に出てくる文章などを音読することで、「読む」「書く」だけでなく「話す」「聞く」実践も積極的に行います。</p>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目で学習する内容は、今後学ぶ英語や専門科目の基礎となるため、学習内容をしっかりと身に付けることが重要です。そのためには日々の予習・復習が不可欠であるため、教科書・小テスト・練習課題などを活用して主体的に学習していきましょう。 ・授業の中で定期的に予習・復習課題を出題するので必ず期限内に提出するようにしましょう。 ・もし、学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 不定詞の復習	自己紹介、シラバス、授業の進め方の説明 1年次に学習した不定詞の復習	
		2週	第15章 動名詞(1)	動名詞の働きと意味上の主語を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる	
		3週	第15章 動名詞(1)	to-不定詞と動名詞の様々な動詞との相性を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる	
		4週	第16章 動名詞(2)	動名詞の否定や完了形、受動態と動名詞を用いた重要表現を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる	

2ndQ	5週	第16章 動名詞(2)	動名詞を用いた重要表現の復習と動名詞・to-不定詞のまとめを理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる		
	6週	前期中間試験	これまで学習した範囲から出題		
	7週	試験の返却・説明 第17章 分詞(1)	試験の解説とともに動名詞とto-不定詞の復習をする 現在分詞による名詞の修飾を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる		
	8週	第17章 分詞(1)	過去分詞による名詞の修飾 SVC/SVOCにおける現在分詞・過去分詞を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる		
	9週	第18章 分詞(2)	分詞を用いた動詞句の修飾 分詞構文の基本的な形を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる		
	10週	第18章 分詞(2)	現在分詞・過去分詞による分詞構文 分詞構文の位置を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる		
	11週	Plus 分詞	独立分詞構文 分詞構文の否定 完了を加えた分詞構文 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる		
	12週	Plus 分詞 Output Training 2 不定詞・動名詞・分詞	付帯状況を表す (with + O + 分詞) 分詞構文を用いた慣用表現 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる 不定詞・動名詞・分詞のまとめ		
	13週	第19章 比較(1)	原級 比較級 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる		
	14週	第20章 比較(2)	最上級 原級・比較級を使って、最上級の意味を表す表現 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる		
	15週	前期末試験	これまで学習した範囲から出題		
	16週	試験返却、説明	試験の解説とともに分詞、比較の復習をする		
	後期	3rdQ	1週	前期の復習	比較変化、原級、比較級 最上級、原級・比較級を使って、最上級の意味を表す表現 に関する復習を行う
			2週	Plus 比較	原級を使ったさまざまな表現 比較級を使ったさまざまな表現 最上級を使ったさまざまな表現 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる
			3週	第21章 関係詞(1)	先行詞が人の場合、人以外の場合の関係詞の使い方を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる
			4週	第21章 関係詞(1) 第22章 関係詞(2)	関係代名詞whose 前置詞 + 関係代名詞 関係代名詞that を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる
5週			第22章 関係詞(2) 第23章 関係詞(3)	関係詞を用いない表現 関係副詞 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる	
6週			第22章 関係詞(3)	関係代名詞と前置詞 whatの用法 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる	
7週			第23章 関係詞(3) 第24章 パッケージ表現としての節(1)	関係代名詞の非制限用法 関係副詞の非制限用法 Whatの用法 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる	
8週			後期中間試験	これまで学習した範囲から出題	
4thQ		9週	試験返却、説明 第24章 パッケージ表現としての節(1)	試験の解説とともに関係詞の復習をする wh語 + everの表現を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる	
		10週	第25章 パッケージ表現としての節(2)	譲歩の複合関係詞 if/whether節 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる	
		11週	第26章 仮定法(1)	直接法と仮定法 仮定法過去 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたりできる	

	12週	第26章 仮定法(1)	仮定法過去完了 wishを使った仮定法 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたり できる
	13週	第27章 仮定法(2)	ifを伴わない仮定法 as ifを使った仮定法 shouldを使った仮定法 were to を使った仮定法 を理解し、その知識を実際に用いて読んだり書いたり できる
	14週	第27章 仮定法(2)	仮定法のまとめをする
	15週	学年末試験	これまで学習した範囲から出題
	16週	試験返却、説明	試験の解説をし、重要点を復習する

評価割合

	試験	態度	その他	合計
総合評価割合	60	10	30	100
基礎的能力	60	10	30	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	1921011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	適宜配布				
担当教員	橋本 真, 福田 健太郎, 松本 あゆみ				
到達目標					
<p>1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、ひとりひとりが主体的に授業におけるルールを意識して実行できる。</p> <p>2 保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを発信できる。</p> <p>3 身体づくりでは、自身の健康や体力の維持や向上につながる活動を実施できる。</p> <p>4 球技では個人技能だけでなく集団技能を習得する。</p> <p>5 水泳では背泳ぎの泳法を習得する。</p> <p>6 ダンスでは自分の感情をダンスを通じて表現できる。</p> <p>7 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用できるようにする。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールに基づいて理解や判断のもと適切な行動ができる。		指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。		指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを発信できる。		保健分野の内容について正しい知識を習得している。		保健分野の内容について正しい知識を習得していない。
評価項目3	自身や他者、社会の健康や体力の維持や向上につながる活動を実施できる。		自身の健康や体力の維持や向上につながる活動を実施できる。		自身の健康や体力の維持や向上につながる活動を実施できない。
評価項目4	パス、ドリブル、スペースについての理解などの個人技能だけでなく、集団での戦術などの技能についても習得している。		パス、ドリブル、スペースについての理解などの個人技能を習得している。		パス、ドリブル、スペースについての理解などの個人技能を習得していない。
評価項目5	背泳ぎに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。		背泳ぎに必要な技能を習得している。		背泳ぎに必要な技能を習得していない。
評価項目6	ダンスに必要な技能を習得し表現できるだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。		器械運動に必要な技能を習得し表現することができる。		器械運動に必要な技能を習得し表現できない。
評価項目7	率先してCLIL学習について、取り組むことができる。		CLIL学習について、取り組むことができる。		CLIL学習について、取り組むことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)保健体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、健康に関する基本的な知識の重要性を理解したうえで、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。				
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。				
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。←減点の対象。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。 (4) 実技テストやレポート、提出物などの授業に関する成果物が全て完了することで成績評価をする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、身体づくり	身体づくりの意義や必要性について理解している	
		2週	身体づくり、体力テスト屋外種目	体力テスト屋外種目において、自分の体力について理解を深める	
		3週	身体づくり、体力テスト屋内	体力テスト屋内種目において、自分の体力について理解を深める	
		4週	バスケットボール	バスケットボールの基本用語やルールについて理解している	
		5週	バスケットボール	ゲーム中にドリブル、パス、シュートなど適切なプレーを選択している	
		6週	バスケットボール	チームでポジションや戦術について考えて実践している	
		7週	バスケットボール	チームでポジションや戦術について考えて実践している	

後期	2ndQ	8週	バスケットボール	チームでポジションや戦術について考えて実践している
		9週	クラスマッチの練習	クラスマッチにつながる自身のスポーツ活動を実施できる
		10週	ウォータースポーツ	背泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる
		11週	ウォータースポーツ	10分間泳に必要なフォームを習得している
		12週	ウォータースポーツ	水球の基本用語やルールについて理解している
		13週	ウォータースポーツ	水球の基本用語やルールについて理解している
		14週	妊娠と出産、人工妊娠中絶	学習内容についての知識を習得し、他者と協力して自分の意見を発信できる
		15週	前期末試験	前期に学習した内容をもとに必要な資料を作成し、30点以上得点することができる
		16週	前期末試験返却・解説	
	3rdQ	1週	ソフトボール (CLIL)	ソフトボールの基本用語やルールについて理解している
		2週	ソフトボール	バッティングについて適切な動作を習得している
		3週	ソフトボール	守備時の適切な動き方について理解している
		4週	ソフトボール	チームでポジションや戦術について考えて実践している
		5週	ソフトボール	チームでポジションや戦術について考えて実践している
		6週	クラスマッチの練習	クラスマッチにつながる自身のスポーツ活動を実施できる
		7週	クラスマッチの練習	クラスマッチにつながる自身のスポーツ活動を実施できる
8週		喫煙と健康	喫煙について正しい知識を習得し、自分の意見を発信できる	
4thQ		9週	ダンス	ダンスの基本用語や安全について理解している。
		10週	ダンス	ダンスの基本用語や安全について理解している。
		11週	ダンス	基本的な技能について習得している
		12週	ダンス	自分ができる技能を組み合わせで発表できる 自分ができる技を、周囲に対して教授することができる
		13週	薬物乱用と健康	薬物乱用について正しい知識を習得し、自分の意見を発信できる
		14週	まとめ	2年次の学習内容について理解している
		15週	学年末試験	後期に学習した内容をもとに必要な資料を作成し、30点以上得点することができる
		16週	学年末試験返却・解説	

評価割合

	出席点 (日ごろの体調管理)	技能点 (体育実技や関心・意欲態度)	知識・理解 (保健や体育理論)	合計
総合評価割合	30	50	20	100
保健体育Ⅱ	30	50	20	100

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国語I
科目基礎情報					
科目番号	1931001	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『新 探求現代文B』(桐原書店)、『常用漢字 ダブルクリア 四訂版』(尚文出版)。その他、必要に応じて配布する。				
担当教員	内野 静香, 後藤田 和				
到達目標					
<p>(1)文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。</p> <p>(2)鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章(詩歌、小説など)の創作をとおして、感受性を培うことができる。</p> <p>(3)読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。</p> <p>(4)現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。</p> <p>(5)情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文学作品について、鑑賞の方法を理解し、実践できる。また、幅広い文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できない。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べるができない。		
評価項目2	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章(詩歌、小説など)の創作をとおして、十分に感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章(詩歌、小説など)の創作をとおして、感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章(詩歌、小説など)の創作をとおして、感受性を培うができない。		
評価項目3	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に積極的に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培ったり、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすができない。		
評価項目4	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を十分に深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を積極的かつ適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深めたり、その特徴を把握することができない。また、それらの知識を活用して表現することができない。		
評価項目5	情報の収集や発想・選択・構成の方法を十分に理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を創意工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を積極的かつ適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解したり、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができない。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代文で扱う文章は、随想、評論、小説といったものであるが、それらすべてに「表現」者(作者・著者・小説での語り手)が存在する。そして「表現」者は、「理解」者であるわれわれ読者に向けて、何らかを伝えるべく文章(物語)を書いている(語っている)。よって、われわれ読者には、文章(物語)の読み深めを通して、書き手(語り手)の表現意図を正しく理解することが要求される。それがひいては、われわれ自身が「表現」者として、対他意識を持つてどのように実践していくかを学ぶことにもなる。随筆や評論、小説といった「表現」に触れ、その内容をより正確に「理解」すること。また、相手により的確に「理解」してもらえる「表現」を心がけていくこと。授業を通じて「コミュニケーションスキル」基礎力を磨き、よき「理解」者・よき「表現」者となることができるよう、意識的かつ意欲的な取り組みを期待したい。				
授業の進め方・方法	「授業計画」を参照のこと。				
注意点	<p>(1) 随時、読書タイムや漢字小テストを行う。</p> <p>(2) 読書感想文などの文章表現、読書メモ等の課題を出すことがある。</p> <p>(3) 板書記録用のノートまたはルーズリーフの他に、プリント保管用のファイルや国語辞典、漢和辞典を持参することが望ましい。</p> <p>(4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。</p> <p>(5) 後中間のみ、「定期試験50」+「小テスト5」+「レポート・課題20」+「発表35」でもって評価を行う。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	河野哲也「ファッションの遊戯性」	<p>(1) 段落構成の把握を通じて、論の展開を押さえ、文章の主題を捉える。</p> <p>(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。</p> <p>(3) 社会に対する視野を広げる。</p>	

2ndQ	2週	同上	同上	
	3週	同上	同上	
	4週	同上	同上	
	5週	梶井基次郎「檸檬」	(1) 物語内容(場面展開)を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。	
	6週	同上	同上	
	7週	同上	同上	
	8週	前期中間試験 試験返却・解説		
	9週	中村雄二郎「言葉の〈意味〉と〈表徴〉」	(1) 段落構成の把握を通じて、論の展開を押さえ、文章の主題を捉える。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 社会に対する視野を広げる。	
	10週	同上	同上	
	11週	同上	同上	
	12週	森鷗外「舞姫」	(1) 物語内容(場面展開)を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。	
	13週	同上	同上	
	14週	同上	同上	
	15週	調べ学習	(1) 文学作品(小説)について調べることで、作品への理解を深め、資料検索の方法を身につける。	
	16週	前期期末試験 試験返却・解説		
	後期	3rdQ	1週	調べ学習・発表
2週			同上	同上
3週			同上	同上
4週			同上	同上
5週			俳句・短歌	(1) 語句に注目して情景を捉える。 (2) 様々な表現技法について理解する。 (3) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。 (4) 作品を通して郷土・地域への眼差しを持つ。
6週			同上	同上
7週			同上	同上
8週			後期中間試験 試験返却・解説	
4thQ		9週	穂村弘「麦わら帽子のへこみ」	(1) 様々な表現技法について理解する。 (2) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。 (3) 「ものの見方」の理解を文学的文章の創作に活用する。 (4) 作品を通して郷土・地域への眼差しを持つ。
		10週	東浩紀「ポストモダンと排除社会」	(1) 段落構成の把握を通じて、論の展開を押さえ、文章の主題を捉える。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (4) 人間に不可欠な〈言葉〉というものについて理解を深める。
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	松浦寿輝「アノマロカリス」	(1) 物語内容(場面展開)を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。
		15週	同上	同上
		16週	学年末試験 試験返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学IIIA
科目基礎情報					
科目番号	1931002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	前期:2	
教科書/教材	新微分積分学 I (大日本図書)、新微分積分 I 問題集 (大日本図書)、新線形代数 (大日本図書)、新線形代数問題集 (大日本図書)				
担当教員	平井 剛和				
到達目標					
(1) 微分法を概念を理解し、計算技術を習得する。 (2) 微分法を用いて関数の増減を調べ、グラフの概形をかくことができる。 (3) 関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができる。 (4) 行列の性質や逆行列について理解し、基本的な計算ができる。 (5) 行列式の定義や性質を理解し、基本的な計算ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	微分法の高度な計算技術を習得している。	微分法を概念を理解し、計算技術を習得している。	微分法の計算技術を習得していない。		
評価項目2	微分法を用いて複雑な関数の増減を調べ、そのグラフの概形をかくことができる。	微分法を用いて関数の増減を調べ、グラフの概形をかくことができる。	微分を用いて関数の増減を調べることができない。		
評価項目3	複雑な関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができる。	関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができる。	関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができない。		
評価項目4	連立方程式の行列を用いた解法について、計算過程を論理的に説明できる。	行列の性質や逆行列について理解し、基本的な計算ができる。	行列の性質や逆行列について理解しておらず、基本的な計算ができない。		
評価項目5	行列式の複雑な計算問題を解くことができる。	行列式の定義や性質を理解し、基本的な計算ができる。	行列式の定義を理解できない。または、その基本的な計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門的内容を理解する能力を身につける授業を行う。 (2) 更なる計算技術を習得し、専門科目に対応できるよう、発展的な内容を理解することを目標とする。 (3) 行列と行列式を概念を理解し、基本的な計算技術を習得する。 (4) 学年に引き続き、微分法の基本的計算方法を習得し、微分法を用いて関数のグラフの概形を調べるなど、様々な活用方法を学習する。				
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	行列の定義	行列の定義を理解し、和と差の計算ができる。	
		2週	行列の定義	行列の和・差・積の計算ができる。	
		3週	行列の性質	転置行列や逆行列を理解し計算ができる。	
		4週	行列と連立1次方程式	行列と連立1次方程式の関係を理解し、行列を用いて連立方程式を解くことができる。	
		5週	行列のまとめ	行列に関する復習と補足説明をにより行列の計算を応用できるようになる。	
		6週	前期中間試験・答案返却・解説		
		7週	微分	積・商の導関数の公式を使うことができる。	
	8週	いろいろな関数の導関数	三角関数の導関数を求めることができる。 指数関数の導関数を求めることができる。		
	2ndQ	9週	いろいろな関数の導関数	対数関数の導関数を求めることができる。 合成関数の導関数を求めることができる。	
		10週	関数の変動	基本的な関数の接線の方程式を求めることができる。	
		11週	関数の変動	関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	
		12週	関数の変動	関数の最大値・最小値を求めることができる。	
		13週	行列式の定義	行列式の定義および性質を理解し、サラスの方法をつかって3次正方行までの行列式の値を求めることができる。	
		14週	行列式の性質	行列の性質を理解し基本変形を用いて行列式の値が求められる。	
15週		行列式の性質	微分と行列式の復習により総合的な問題を解くことができる。		

	16週	前期末試験・答案返却・解説					
評価割合							
	試験	課題	授業態度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	5	5	0	0	100
基礎的能力	60	30	5	5	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学IIIB		
科目基礎情報							
科目番号	1931003	科目区分	一般 / 必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2				
開設学科	一般教科	対象学年	3				
開設期	前期	週時間数	4				
教科書/教材	新微分積分学 I (大日本図書)、新微分積分 I 問題集 (大日本図書)、新線形代数 (大日本図書)、新線形代数問題集 (大日本図書)						
担当教員	平井 剛和						
到達目標							
(1) 不定積分、定積分の意味を理解し、様々な初等関数の積分ができる。 (2) 置換積分、部分積分などを用いて様々な積分の計算ができる。 (3) 図形の面積を積分を用いて計算できる。 (4) 曲線に長さや立体の体積などの幾何的量を積分を用いて計算できる。 (5) 線形変換の概念を理解し、それを用いて様々な問題を解くことができる。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	不定積分、定積分の意味を理解し、公式を用いて複雑な積分計算ができる。	不定積分、定積分の意味を理解し、公式を用いた簡単な積分計算ができる。	不定積分、定積分の意味が理解できない。または、公式を用いた簡単な積分計算ができない。				
評価項目2	置換積分、部分積分などを用いて様々な発展的な積分の計算ができる。	置換積分、部分積分などを用いて様々な積分の計算ができる。	置換積分、部分積分などを用いた基礎的な積分の計算ができない。				
評価項目3	様々な応用的な場面で、自分で式を立て、積分を用いて様々な図形の面積を計算できる。	図形の面積、体積、曲線の長さを積分を用いて計算できる。	図形の面積、体積、曲線の長さを積分を用いて計算できない。				
評価項目4	線形変換の概念を深く理解し、それを用いて様々な難問題を解くことができる。	線形変換の概念を理解し、それを用いて様々な問題を解くことができる。	線形変換の概念が理解できない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 専門科目の「応用数学」に対応できるよう、さらなる発展的な概念である積分学を理解することを目標とする。 (3) 行列の性質への理解を深め、線形変換の概念を理解し、その様々な応用について学習する。						
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	積分の基本的計算	不定積分の定義を理解し、基本的な計算ができる。			
		2週	積分の基本的計算	定積分の定義を理解し、基本的な計算ができる。			
		3週	積分の基本的計算	分数関数・無理関数の不定積分・定積分の計算ができる。			
		4週	積分の基本的計算	三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分の計算ができる。			
		5週	積分の発展的計算	定積分の定義を理解している (区分求積法)。			
		6週	積分の発展的計算	置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。			
		7週	積分の発展的計算	置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。			
		8週	後期中間試験				
	2ndQ	9週	積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。			
		10週	積分の応用	いろいろな曲線の長さを求めることができる。			
		11週	積分の応用	基本的な立体の体積を求めることができる。			
		12週	線形変換	線形変換の定義と基本的性質を理解している。			
		13週	線形変換	線形変換による、点や直線の像を求めることができる。			
		14週	線形変換	合成変換と逆変換を求めることができる。			
		15週	線形変換	平面・空間内の回転を表す線形変換を求めることができる。回転を表す線形変換を用いて、図形を回転させることができる。			
		16週	学年末試験答案返却・解説				
評価割合							
	試験	課題	授業態度	発表	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	60	30	5	5	0	0	100
基礎的能力	60	30	5	5	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 (M3)
科目基礎情報					
科目番号	1931004	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編 (啓林館)、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編 (啓林館)、「学習到達度試験 (物理) 過去問演習」藤原滋泰 (http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html) / 参考図書: 「機械系の運動と振動の基礎・基本」 瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰 (海文堂)				
担当教員	藤原 滋泰				
到達目標					
(1) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できるようになる。 (2) 運動の法則をもとに、2つの物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について理解出来るようになる。 (3) 円運動やばねに吊されたおもりの振動の様に、一定の時間間隔で同じ動きを繰り返す運動について理解出来るようになる。 (4) 万有引力の法則を学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動についても考えられるようになる。 (5) 微分積分を用いた、簡易な力学の問題を解けるようになる。 (6) 日常生活に身近な静電気・モーター・発電機・電波などの原理について、何も見ないで説明できるようになる。 (7) 電気の正体やモーターが動く仕組み、交流の電気についての基礎知識を身に付け、問題を解けるようになる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ドップラー効果や弦や気柱の振動、共鳴や共振についてについての複雑な問題が解ける。	音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動、共鳴についてについての基本的な計算ができる。	音波、音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。		
評価項目2	物体の釣り合いの条件、滑らかな面への斜め衝突、衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーについての複雑な問題が解ける。	剛体のつりあい、運動量の保存、反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突についての基本的な計算ができる。	物体の重心、運動量、反発係数について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。		
評価項目3	等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子、慣性系と非慣性系、遠心力、ループコースター、単振動の力学的エネルギーについての応用的な問題が解ける。	等速円運動の速度、加速度、慣性力と遠心力、単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相、ばね振り子についての基本的な計算ができる。	等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数、遠心力、単振動について説明できない。または、基本的な問題を解く事も出来ない。		
評価項目4	ケプラーの法則、万有引力、万有引力による位置エネルギー、宇宙への旅、静止衛星、宇宙速度についての応用的な問題が解ける。	惑星の運動、天動説、地動説、面積速度、焦点、ケプラーの法則、万有引力、万有引力定数についての基本的な問題が解ける。	ケプラーの法則、万有引力について説明できない。または、基本的な問題への適用が出来ない。		
評価項目5	速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、簡単な運動について微分方程式で運動方程式を立て、初期値問題として解くことも出来る。	速度、加速度、変位の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、仕事、力積、位置エネルギーと力の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。	速度、加速度、変位の概念を微分積分を用いて説明することが出来ない。		
評価項目6	直流回路、クーロンの法則、電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、ジュール熱と抵抗・電圧・電流の関係についての発展的な計算ができる。	電気量、クーロンの法則、点電荷の周りの電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、電力とジュール熱、直流回路についての基本的な計算ができる。	電気量、導体と不導体、静電誘導、クーロンの法則、電流、電気抵抗、電力についての基本的な概念を説明できない。または、基本的な計算ができない。		
評価項目7	電流が作る磁界、ローレンツ力、電磁誘導の法則、自己誘導と相互誘導、交流と電磁波についての応用的な問題が解ける。	磁気力と磁界、電流が作る磁界、電流が磁界から受ける力、ローレンツ力、電磁誘導の法則、磁界中を運動する導体の棒についての基本的な計算ができる。	磁気力、磁界、電磁誘導についての基本的な説明や簡単な計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について学習する。 (2) 2物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学ぶ。 (3) 周期的な運動のもととなる力の性質や、運動の様子について学ぶ。 (4) 万有引力について学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動について考える。 (5) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を微分積分を用いて表す方法を学ぶ。 (6) 私達の生活に身近な静電気・モーター・発電機・電波などについて学ぶ。 (7) 電界と電位、電流と磁界、電磁誘導と電磁波についての式や原理、法則などについて学ぶ。				
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。				

注意点	<p>(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。</p> <p>(2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。</p> <p>(3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。</p> <p>(4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。</p> <p>試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。</p> <p>(5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張ってください。</p> <p>(6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。</p>
-----	--

授業の属性・履修上の区分			
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 波の反射と屈折・音	1-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題が解ける。 1-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が解ける。
		2週	1. 波の反射と屈折・音	1-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができる。
		3週	1. 波の反射と屈折・音	1-(4) 弦の長さ、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。
		4週	1. 波の反射と屈折・音	1-(5) 気柱の長さ、音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる(開口端補正は考えない)。
		5週	1. 波の反射と屈折・音	1-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。
		6週	2. 光	2-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。
		7週	2. 光	2-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3. 剛体のつりあい	3-(1) 物体に働く力の合成についての計算ができる。 3-(2) 物体の重心の計算ができる。
		10週	3. 剛体のつりあい	3-(3) 物体の釣り合いの条件の問題を解くことができる。
		11週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(1) 運動量、運動量の変化と力積の問題を解くことができる。
		12週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(2) 運動量の保存についての問題を解くことができる。 4-(3) 反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突の計算ができる。
		13週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(4) 滑らかな面への斜め衝突の問題を解くことができる。 4-(5) 衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーの計算ができる。
		14週	5. 微分積分を用いた力学	5-(1) 速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。 5-(2) 仕事、力積、位置エネルギーと力の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。
		15週	5. 微分積分を用いた力学	5-(3) 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。
		16週	後期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(1) 等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数についての問題を解くことができる。
		2週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(2) 等速円運動の速度、加速度の計算ができる。
		3週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(3) 等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子の問題を解くことができる。 6-(4) 遠心力の問題を解くことができる。
		4週	7. 単振動・万有引力	7-(1) 単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相の問題を解くことができる。
		5週	7. 単振動・万有引力	7-(2) 復元力、水平ばね振り子、鉛直ばね振り子、単振り子の問題を解くことができる。
		6週	7. 単振動・万有引力	7-(3) 万有引力、万有引力定数、重力の計算ができる。
		7週	7. 単振動・万有引力	7-(4) 万有引力による位置エネルギー、静止衛星の問題が解ける。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	9. 電界と電位	9-(1) 静電気について説明できる。 9-(2) 導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。 9-(3) 電場・電位について説明できる。

	10週	9. 電界と電位	9-(4) クーロンの法則が説明できる。 9-(5) クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気力を求めることができる。
	11週	10. 電流	10-(1) オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。 10-(2) 抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。
	12週	10. 電流	10-(3) ジュール熱や電力を求めることができる。
	13週	11. 電流と磁界	11-(1) 磁気力と磁界について説明できる。 11-(2) 電流が作る磁界について説明でき、計算できる。
	14週	11. 電流と磁界 12. 電磁誘導と電磁波	11-(3) 電流が磁界から受ける力について説明できる。 12-(1) 電磁誘導の現象と法則について、説明できる。
	15週	12. 電磁誘導と電磁波	12-(2) 直流や交流について説明できる。 12-(3) 電磁波とその利用について説明できる。
	16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 (C3)
科目基礎情報					
科目番号	1931005	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	一般教科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	3		
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編 (啓林館)、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編 (啓林館)、「学習到達度試験 (物理) 過去問演習」藤原滋泰 (http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html) / 参考図書: 「機械系の運動と振動の基礎・基本」 瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰 (海文堂)				
担当教員	藤原 滋泰				
到達目標					
(1) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できるようになる。 (2) 運動の法則をもとに、2つの物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について理解出来るようになる。 (3) 円運動やばねに吊されたおもりの振動の様に、一定の時間間隔で同じ動きを繰り返す運動について理解出来るようになる。 (4) 万有引力の法則を学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動についても考えられるようになる。 (5) 微分積分を用いた、簡易な力学の問題を解けるようになる。 (6) 日常生活に身近な静電気・モーター・発電機・電波などの原理について、何も見ないで説明できるようになる。 (7) 電気の正体やモーターが動く仕組み、交流の電気についての基礎知識を身に付け、問題を解けるようになる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ドップラー効果や弦や気柱の振動、共鳴や共振についてについての複雑な問題が解ける。	音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動、共鳴についてについての基本的な計算ができる。	音波、音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。		
評価項目2	物体の釣り合いの条件、滑らかな面への斜め衝突、衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーについての複雑な問題が解ける。	剛体のつりあい、運動量の保存、反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突についての基本的な計算ができる。	物体の重心、運動量、反発係数について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。		
評価項目3	等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子、慣性系と非慣性系、遠心力、ループコースター、単振動の力学的エネルギーについての応用的な問題が解ける。	等速円運動の速度、加速度、慣性力と遠心力、単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相、ばね振り子についての基本的な計算ができる。	等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数、遠心力、単振動について説明できない。または、基本的な問題を解く事も出来ない。		
評価項目4	ケプラーの法則、万有引力、万有引力による位置エネルギー、宇宙への旅、静止衛星、宇宙速度についての応用的な問題が解ける。	惑星の運動、天動説、地動説、面積速度、焦点、ケプラーの法則、万有引力、万有引力定数についての基本的な問題が解ける。	ケプラーの法則、万有引力について説明できない。または、基本的な問題への適用が出来ない。		
評価項目5	速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことも出来る。	速度、加速度、変位の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、仕事、力積、位置エネルギーと力の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。	速度、加速度、変位の概念を微分積分を用いて説明することが出来ない。		
評価項目6	直流回路、クーロンの法則、電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、ジュール熱と抵抗・電圧・電流の関係についての発展的な計算ができる。	電気量、クーロンの法則、点電荷の周りの電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、電力とジュール熱、直流回路についての基本的な計算ができる。	電気量、導体と不導体、静電誘導、クーロンの法則、電流、電気抵抗、電力についての基本的な概念を説明できない。または、基本的な計算ができない。		
評価項目7	電流が作る磁界、ローレンツ力、電磁誘導の法則、自己誘導と相互誘導、交流と電磁波についての応用的な問題が解ける。	磁気力と磁界、電流が作る磁界、電流が磁界から受ける力、ローレンツ力、電磁誘導の法則、磁界中を運動する導体の棒についての基本的な計算ができる。	磁気力、磁界、電磁誘導についての基本的な説明や簡単な計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について学習する。 (2) 2物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学ぶ。 (3) 周期的な運動のもととなる力の性質や、運動の様子について学ぶ。 (4) 万有引力について学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動について考える。 (5) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を微分積分を用いて表す方法を学ぶ。 (6) 私達の生活に身近な静電気・モーター・発電機・電波などについて学ぶ。 (7) 電界と電位、電流と磁界、電磁誘導と電磁波についての式や原理、法則などについて学ぶ。				
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。				

注意点	<p>(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。</p> <p>(2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。</p> <p>(3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。</p> <p>(4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。</p> <p>試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。</p> <p>(5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張ってください。</p> <p>(6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。</p>
-----	--

授業の属性・履修上の区分			
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 波の反射と屈折・音	1-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題が解ける。 1-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が解ける。
		2週	1. 波の反射と屈折・音	1-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができる。
		3週	1. 波の反射と屈折・音	1-(4) 弦の長さ、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。
		4週	1. 波の反射と屈折・音	1-(5) 気柱の長さ、音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる(開口端補正は考えない)。
		5週	1. 波の反射と屈折・音	1-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。
		6週	2. 光	2-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。
		7週	2. 光	2-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3. 剛体のつりあい	3-(1) 物体に働く力の合成についての計算ができる。 3-(2) 物体の重心の計算ができる。
		10週	3. 剛体のつりあい	3-(3) 物体の釣り合いの条件の問題を解くことができる。
		11週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(1) 運動量、運動量の変化と力積の問題を解くことができる。
		12週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(2) 運動量の保存についての問題を解くことができる。 4-(3) 反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突の計算ができる。
		13週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(4) 滑らかな面への斜め衝突の問題を解くことができる。 4-(5) 衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーの計算ができる。
		14週	5. 微分積分を用いた力学	5-(1) 速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。 5-(2) 仕事、力積、位置エネルギーと力の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。
		15週	5. 微分積分を用いた力学	5-(3) 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。
		16週	後期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(1) 等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数についての問題が解くことができる。
		2週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(2) 等速円運動の速度、加速度の計算ができる。
		3週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(3) 等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子の問題を解くことができる。 6-(4) 遠心力の問題を解くことができる。
		4週	7. 単振動・万有引力	7-(1) 単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相の問題を解くことができる。
		5週	7. 単振動・万有引力	7-(2) 復元力、水平ばね振り子、鉛直ばね振り子、単振り子の問題を解くことができる。
		6週	7. 単振動・万有引力	7-(3) 万有引力、万有引力定数、重力の計算ができる。
		7週	7. 単振動・万有引力	7-(4) 万有引力による位置エネルギー、静止衛星の問題が解ける。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	9. 電界と電位	9-(1) 静電気について説明できる。 9-(2) 導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。 9-(3) 電場・電位について説明できる。

	10週	9. 電界と電位	9-(4) クーロンの法則が説明できる。 9-(5) クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気力を求めることができる。
	11週	10. 電流	10-(1) オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。 10-(2) 抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。
	12週	10. 電流	10-(3) ジュール熱や電力を求めることができる。
	13週	11. 電流と磁界	11-(1) 磁気力と磁界について説明できる。 11-(2) 電流が作る磁界について説明でき、計算できる。
	14週	11. 電流と磁界 12. 電磁誘導と電磁波	11-(3) 電流が磁界から受ける力について説明できる。 12-(1) 電磁誘導の現象と法則について、説明できる。
	15週	12. 電磁誘導と電磁波	12-(2) 直流や交流について説明できる。 12-(3) 電磁波とその利用について説明できる。
	16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 (D3)
科目基礎情報					
科目番号	1931006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編 (啓林館)、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編 (啓林館)、「学習到達度試験 (物理) 過去問演習」藤原滋泰 (http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html) / 参考図書: 「機械系の運動と振動の基礎・基本」 瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰 (海文堂)				
担当教員	藤原 滋泰				
到達目標					
(1) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できるようになる。 (2) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について、具体的な計算ができるようになる。 (3) 運動の法則をもとに、2つの物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について理解出来るようになる。 (4) 微分積分を用いた、簡易な力学の問題を解けるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ドブラー効果や弦や気柱の振動、共鳴や共振についてについての複雑な問題が解ける。	音源の振動、ドブラー効果、弦や気柱の振動、共鳴についてについての基本的な計算ができる。	音波、音源の振動、ドブラー効果、弦や気柱の振動について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。		
評価項目2	物体の釣り合いの条件、滑らかな面への斜め衝突、衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーについての複雑な問題が解ける。	剛体のつりあい、運動量の保存、反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突についての基本的な計算ができる。	物体の重心、運動量、反発係数について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。		
評価項目3	速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことも出来る。	速度、加速度、変位の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、仕事、力積、位置エネルギーと力の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。	速度、加速度、変位の概念を微分積分を用いて説明することが出来ない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について学習する。 (2) 2物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学ぶ。 (3) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を微分積分を用いて表す方法を学ぶ。				
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。				
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味 (イメージ) がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す (最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない)。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 (5) 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (6) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張ってください。 (7) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 波の反射と屈折・音	1-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題が解ける。 1-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が解ける。	
		2週	1. 波の反射と屈折・音	1-(3) 音源の振動、ドブラー効果についての計算ができる。	
		3週	1. 波の反射と屈折・音	1-(4) 弦の長さ、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。	
		4週	1. 波の反射と屈折・音	1-(5) 気柱の長さ、音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる (開口端補正は考えない)。	
		5週	1. 波の反射と屈折・音	1-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。	
		6週	2. 光	2-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。	
		7週	2. 光	2-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。	

2ndQ	8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	9週	3. 剛体のつりあい	3-(1) 物体に働く力の合成についての計算ができる。 3-(2) 物体の重心の計算ができる。
	10週	3. 剛体のつりあい	3-(3) 物体の釣り合いの条件の問題を解くことができる。
	11週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(1) 運動量、運動量の変化と力積の問題を解くことができる。
	12週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(2) 運動量の保存についての問題を解くことができる。
	13週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(3) 反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突の計算ができる。
	14週	5. 微分積分を用いた力学	5-(1) 速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことができる。 5-(2) 仕事、力積、位置エネルギーと力の問題を微分積分を用いて解くことができる。
	15週	5. 微分積分を用いた力学	5-(3) 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。
16週	前期期末試験 答案返却・解説		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	理科総合 (M3)
科目基礎情報					
科目番号	1931007	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科	対象学年	3		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	生物基礎 (啓林館)				
担当教員	大沼 みお				
到達目標					
生物 (1) 遺伝子とそのはたらきについて理解し、発展的な問題を解くことができる。					
地学 (2) 地球の外観と内部の活動を理解し、その保全について考えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 遺伝	遺伝子とそのはたらきについて理解し、発展的な問題を解くことができる。	遺伝子とそのはたらきについて理解し、標準的な問題を解くことができる。	遺伝子とそのはたらきについて理解していない。		
評価項目2 地学：地球の概観、内部とその活動	地球の概観、内部とその活動について理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解し、標準的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	地学、生物：地球の構造と様々な生命現象を科学的に説明できるようになるための基礎的な知識を学ぶ。				
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。				
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 授業態度も評価対象とします。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	1.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNAについて説明できる。	
		2週	1.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報の複製と分配について説明できる。	
		3週	1.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とタンパク質の合成について説明できる。	
		4週	遺伝子とそのはたらきについての演習		
		5週	2.地球の概観、内部とその活動	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。 地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。	
		6週	2.地球の概観、内部とその活動	陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。 地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。	
		7週	地球の概観と内部構造の演習		
		8週	後期中間試験 答案返却・解説		
	4thQ	9週	2.地球の概観、内部とその活動	地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。 地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。	
		10週	2.地球の概観、内部とその活動	地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。 マグマの生成と火山活動を説明できる。	
		11週	2.地球の概観、内部とその活動	マグマの生成と火山活動を説明できる。 地震の発生と断層運動を理解できる。	
		12週	2.地球の概観、内部とその活動	地震の発生と断層運動を理解できる。 火山活動と火成岩の形成について理解できる。	
		13週	2.地球の概観、内部とその活動	火山活動と火成岩の形成について理解できる。 大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。 大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。	
		14週	2.地球の概観、内部とその活動	大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。 大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。 海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。	
		15週	地球の概観、内部とその活動の演習		
		16週	学年末試験 答案返却・解説		
評価割合					
	試験	課題・レポート	態度	合計	
総合評価割合	70	25	5	100	

基礎的能力	70	25	5	100
專門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	理科総合 (D3)
科目基礎情報					
科目番号	1931008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	生物基礎 (啓林館)				
担当教員	大沼 みお				
到達目標					
生物 (1) 生物の体内環境の維持について理解し、発展的な問題を解くことができる。 (2) 遺伝子とそのはたらきについて理解し、発展的な問題を解くことができる。					
地学 (3) 地球の外観と内部の活動を理解し、発展的な問題を解くことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 生物の体内環境の維持	生物の体内環境の維持について理解し、発展的な問題を解くことができる。	生物の体内環境の維持について理解し、標準的な計算ができる。	生物の体内環境の維持について理解していない。		
評価項目2 遺伝	遺伝子とそのはたらきについて理解し、発展的な問題を解くことができる。	遺伝子とそのはたらきについて理解し、標準的な問題を解くことができる。	遺伝子とそのはたらきについて理解していない。		
評価項目3 地学：地球の概観、内部とその活動	地球の概観、内部とその活動について理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解し、標準的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	地学、生物：地球の構造と様々な生命現象を科学的に説明できる様になるための基礎的な知識を学ぶ。				
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。				
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 授業態度も評価対象とします。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1.生物の体内環境の維持	体内環境について説明できる。	
		2週	1.生物の体内環境の維持	体内環境について説明できる。	
		3週	1.生物の体内環境の維持	体内環境を維持するしくみについて説明できる。	
		4週	1.生物の体内環境の維持	体内環境を維持するしくみについて説明できる。	
		5週	1.生物の体内環境の維持	体内環境を維持するしくみについて説明できる。	
		6週	体内環境と体内環境を維持するしくみについての演習		
		7週	前期中間試験 答案返却・解説		
		8週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。	
	2ndQ	9週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。	
		10週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。	
		11週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。	
		12週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。	
		13週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。	
		14週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。	
		15週	免疫のしくみについての演習		
		16週	前期末試験 答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	2.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNAについて説明できる。	
		2週	2.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報の複製と分配について説明できる。	
		3週	2.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とタンパク質の合成について説明できる。	
		4週	遺伝子とそのはたらきについての演習		
		5週	3.地球の概観、内部とその活動	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。 地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。	
		6週	3.地球の概観、内部とその活動	陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。 地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。	
		7週	地球の概観についての演習		
		8週	後期中間試験 答案返却・解説		

4thQ	9週	3.地球の概観、内部とその活動	地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。 地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。
	10週	3.地球の概観、内部とその活動	地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。 マグマの生成と火山活動を説明できる。
	11週	3.地球の概観、内部とその活動	マグマの生成と火山活動を説明できる。 地震の発生と断層運動を理解できる。
	12週	3.地球の概観、内部とその活動	地震の発生と断層運動を理解できる。 火山活動と火成岩の形成について理解できる。
	13週	3.地球の概観、内部とその活動	火山活動と火成岩の形成について理解できる。 大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。 大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。
	14週	3.地球の概観、内部とその活動	大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。 大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。 海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。
	15週	地球の概観、内部とその活動の演習	
	16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題・レポート	態度	合計
総合評価割合	70	25	5	100
基礎的能力	70	25	5	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語III
科目基礎情報					
科目番号	1931009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	一般教科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	NEW FLAG English Communication III (増進堂)				
担当教員	池田 幸恵, 飛田 麻也香				
到達目標					
(1) リーディング・スキルを活用して、英文の概要や要点をとらえることができる。 (2) 文型の組み立てや文法事項を理解し、内容を正確に読解することができる。 (3) 英文の適切な区切りや発音のポイントなどを理解して音読することができる。 (4) 本文の要旨や読解した英文に対する自分の考え・意見を書くことが十分にできる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	リーディング・スキルを活用して、英文の概要や要点をとらえることが十分にできる。		リーディング・スキルを活用して、英文の概要や要点をとらえることがおおよそできる。		リーディング・スキルを活用して、英文の概要や要点をとらえることができない。
評価項目2	文型の組み立てや文法事項を理解し、内容を正確に読解することが十分にできる。		文型の組み立てや文法事項を理解し、内容を正確に読解することがおおよそできる。		文型の組み立てや文法事項を理解し、内容を正確に読解することができない。
評価項目3	英文の適切な区切りや発音のポイントなどを理解して音読することが十分にできる。		英文の適切な区切りや発音のポイントなどを理解して音読することがおおよそできる。		英文の適切な区切りや発音のポイントなどを理解して音読することができない。
評価項目4	本文の要旨や読解した英文に対する自分の考え・意見を書くことが十分にできる。		本文の要旨や読解した英文に対する自分の考え・意見を書くことがおおよそできる。		本文の要旨や読解した英文に対する自分の考え・意見を書くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文を読み解く技術(リーディング・スキル)を身につけていきましょう。具体的には、語彙・表現、文法を学ぶと同時に、文章をより正確に読み解くために、意味のまとまりごとに、英語の語順にしたがって意味をつかんでいく読み方や、文章を読む前の内容の予測、複数の文章の組み合わせ・構造の仕組み、論理的な話題の展開にも着目し、短文のみではなく、長文の英語を読み解く技術を身につけることを目指します。また、リーディングで学習した英文を用いた音読や簡単な英作文といった活動を通して、話すこと・書くことにも力も養います。				
授業の進め方・方法	(1) 新出語彙や熟語の確認・練習を行う。語彙や熟語は授業外でも各自でくり返し復習し定着させることが求められる。 (2) 初見の英文を読み、意味のまとまりに区切りを入れ、英語の語順にしたがって読む練習を行う。 (3) 重要文法事項や内容理解の確認を行う。 (4) 学習した英文を用いた音読練習や要約作文の練習を行う。				
注意点	・小テストや課題、発表などへの工夫や取り組みも評価の対象です。 ・授業には、必ず教科書・ノートを持参し、必要なことをノートに書いてください。 ・提出物等の期限は厳守してください。 ・学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。 ・前期は週に2時間(1コマ)、後期は週に4時間(2コマ)で授業を行います				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、Skill 1「意味のまとまり」：A Real Life Maneki Neko ①	本授業の到達目標と評価方法を知る、意味のまとまりごとに、英語の語順にしたがって意味をつかむフレーズ・リーディングができる	
		2週	Skill 1「意味のまとまり」：A Real Life Maneki Neko ②	フレーズ・リーディングに関する知識を活用して読解することができる	
		3週	Skill 2「代名詞・言い換え」：A Little Boy's Act of Kindness ①	代名詞や語句の言い換えに関する知識を活用して読解することができる	
		4週	Skill 2「代名詞・言い換え」：A Little Boy's Act of Kindness ②	代名詞や語句の言い換えに関する知識を活用して読解することができる	
		5週	Skill 3「推測して読む」：The Miracle of Trees	内容を推測したり、話しの展開を予測しながら読解することができる	
		6週	Skill 4「パラグラフ構成」：What is Friendship? ①	パラグラフ構成に関する知識を活用して読解することができる	
		7週	Skill 4「パラグラフ構成」：What is Friendship? ②	パラグラフ構成に関する知識を活用して読解することができる	
		8週	前期中間試験	これまで学習した範囲から出題	
	2ndQ	9週	Skill 5「時間・順序」：Short-term Memory ①	文章の流れを示すディスコースマーカーに着目し、文と文の関係、文から文への流れをを把握することができる	
		10週	Skill 5「時間・順序」：Short-term Memory ②	ディスコースマーカー(時間・順序)に関する知識を活用して読解することができる	

後期	3rdQ	11週	Skill 6「例示・列挙・新情報の追加」: Beach Cleanup in Hawaii ①	ディスコースマーカー（例示・列挙）に関する知識を活用して読解することができる
		12週	Skill 6「例示・列挙・新情報の追加」: Beach Cleanup in Hawaii ②	ディスコースマーカー（例示・列挙）に関する知識を活用して読解することができる
		13週	Skill 7「接続・対比」: "Anpanman" vs. "Superman" ①	ディスコースマーカー（逆説・対比）に関する知識を活用して読解することができる
		14週	Skill 7「接続・対比」: "Anpanman" vs. "Superman" ②	ディスコースマーカー（逆説・対比）に関する知識を活用して読解することができる
		15週	まとめと復習	これまで学習した内容のまとめと復習
		16週	前期末試験	これまで学習した範囲から出題
	4thQ	1週	Skill 8「原因・理由・結果」: A Little Bit Difficult?	ディスコースマーカー（原因・理由・結果）に関する知識を活用して読解することができる
		2週	Skill 9「言い換え・要約・結論」: Life without Technology	ディスコースマーカー（言い換え・要約・結論）に関する知識を活用して読解することができる
		3週	Chapter 1 Steve and Ryoma ①	リーディングスキルを活用することで、InnovatorとしてのSteve Jobsの信念を読解することができる
		4週	Chapter 1 Steve and Ryoma ①	リーディングスキルを活用することで、Innovatorとしての坂本龍馬の夢を読解することができる
		5週	Chapter 2 Uluru, Not Ayers Rock ①	リーディングスキルを活用することで、Uluruの歴史を読解することができる
		6週	Chapter 2 Uluru, Not Ayers Rock ②	リーディングスキルを活用することで、Uluruの環境問題とその対策を読解することができる
		7週	Chapter 3 Community Design ①	リーディングスキルを活用することで、コミュニティデザインを通じた地域の活性化について読解できる
		8週	Chapter 3 Community Design ①	リーディングスキルを活用することで、コミュニティデザインを通じた地域の活性化について読解できる
		9週	後期中間試験	これまで学習した範囲から出題
		10週	Chapter 5 Microfinance ①	リーディングスキルを活用することで、貧困から逃れる支援をするマイクロファイナンスについて読解できる
11週	Chapter 5 Microfinance ②	リーディングスキルを活用することで、マイクロファイナンスの地域や個人への貢献について読解できる		
12週	Chapter 7 The Air Powered Car ①	リーディングスキルを活用することで、エアカーについてその特徴を読解できる		
13週	Chapter 7 The Air Powered Car ②	リーディングスキルを活用することで、エアカーの魅力と燃費について読解できる		
14週	Chapter 8 Are Children the Best Learner? ①	リーディングスキルを活用することで、子供と大人の言語学習の違いについて読解できる		
15週	Chapter 8 Are Children the Best Learner? ②	リーディングスキルを活用することで、年齢の異なるグループによる言語習得の実験とその結果について読解できる		
16週	学年末試験	これまで学習した範囲から出題		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	提出物	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	10	30	100
基礎的能力	60	0	0	0	10	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語表現III
科目基礎情報					
科目番号	1931010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	大修館書店「Genius ジーニアス総合英語 English Grammar in 27 Lessons WORKBOOK」初版				
担当教員	下田 旭美				
到達目標					
(1) キー・センテンスはすべて暗唱し書くことができる。 (2) キー・センテンスを応用して簡単な英文を作り出す。 (3) 英会話に必要な英文法を十分に理解する。"					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 基本例文の習得	基本的な文をすべて暗唱し書くことができる。	基本的な文をだいたい暗唱し書くことができる。	"基本的な文を十分に暗唱できず書くこともできない。"		
評価項目2 体系的な文法事項の理解	基本文に含まれる英文法を説明できる	基本文に含まれる英文法事項をある程度説明できる	基本文に含まれる文法事項の理解が十分でない。		
評価項目3 文法知識を応用した作文力	基本文を使い、文法に則り英作文ができる。	基本文を用い、簡単な英作文ができる。	基本文を用いて、英作文が十分にできない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	国際社会で活躍する為のコミュニケーション基礎力を培うために、文法項目を総復習しながら英語の文を作ることによって能動的な発話のできる土台を築くことを目指す。				
授業の進め方・方法	(1) 基本文を暗唱しようとする努力をする態度を養う。 (2) 基本文に含まれる文法事項を理解し、説明しようとする態度を養う。 (3) 毎回、小テストを実施するので、準備は必ず行う。 (4) 分からない事項をノートで確認できるように、ノート整理を必ずすると。				
注意点	基本文の暗唱と文法事項の説明最低限の学習内容であるため、これを確認するための毎時間の小テストの準備を確実に行うこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス Lesson 1	シラバス確認、評価方法についての説明 文の種類	
		2週	Lesson 2	動詞と文型 (1)	
		3週	Lesson 3	動詞と文型 (2)	
		4週	Plus 1	注意すべき動詞	
		5週	Lesson 4	時制 (1)	
		6週	Lesson 5	時制 (2)	
		7週	前期中間試験		

後期	2ndQ	8週	答案返却と解説 Lesson 6	完了形 (1)	
		9週	Lesson 7	完了形 (2)	
		10週	Lesson 8	助動詞 (1)	
		11週	Lesson 9	助動詞 (2)	
		12週	Lesson 10	助動詞 (3)	
		13週	Plus 2	助動詞を使った表現	
		14週	Lesson 11	受動態 (1)	
		15週	前期末試験		
	16週	答案返却と解説			
	後期	3rdQ	1週	Lesson 12	受動態 (2)
			2週	Lesson 13	不定詞 (1)
			3週	Lesson 14	不定詞 (2)
			4週	Lesson 15	不定詞 (3)
			5週	Plus 3	不定詞を使った重要表現
			6週	Lesson 16	動名詞 (1)
			7週	後期中間試験	
8週			答案返却と解説 Lesson 17	動名詞 (2)	
4thQ		9週	Lesson 18	分詞 (1)	
		10週	Lesson 19	分詞 (2)	
		11週	Plus 4	分詞を使ったさまざまな表現	
		12週	Lesson 20	比較 (1)	
		13週	Lesson 21	比較 (2)	
		14週	Plus 5	さまざまな比較表現	
		15週	学年末試験		
		16週	答案返却と解説		

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度・ノート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	10	0	0	100
基礎的能力	60	30	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育・スポーツ I
科目基礎情報					
科目番号	1931011	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	適宜配布				
担当教員	橋本 真				
到達目標					
1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。 2 陸上運動では自分の課題を解決できるように考えて、記録を向上させることの楽しさを体験する。 3 身体づくりでは、自身の健康的な生活や体力の維持、向上について考えて活動できる。 4 球技ではゲームを自分たちで運営できるようにする。 5 フォータースポーツでは4泳法を習得し個人メドレーを泳げるようにする。 6 健康スポーツ島実習においては地域や社会で関連する課題の解決に向けて行動できるようにする。 7 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用できるようにする。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。		
評価項目2	自身や他者の課題を解決できるように考えて、記録を向上させることの楽しさを体験する。	自分の課題を解決できるように考えて、記録を向上させることの楽しさを体験する。	自分の課題を解決できるように考えて、記録を向上させることができない。		
評価項目3	自身や他者、社会の健康的な生活や体力の維持、向上について考えて活動できる。	自身の健康的な生活や体力の維持、向上について考えて活動できる。	自身の健康的な生活や体力の維持、向上について考えて活動できない。		
評価項目4	球技ではゲームや練習では、運営に主体的にかかわることができる。	球技ではゲームや練習では、運営に協力的にかかわることができる。	球技でゲームや練習では、運営に協力的にかかわることができない。		
評価項目5	4泳法に必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	4泳法に必要な技能を習得している。	4泳法に必要な技能を習得していない。		
評価項目6	率先して地域や社会の課題を解決できるように考えるだけでなく、周囲と一緒に考えながら取り組むことができる。	地域や社会の課題を解決できるように考えることができる。	地域や社会の課題を解決できるように考えない。		
評価項目7	率先してCLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、健康に関する基本的な知識を理解したうえで、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。				
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。				
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。←減点の対象 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。 (4) 実技テストやレポート、提出物などの授業に関する成果物が全て完了することで成績評価をする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、健スポ島実習1回目ワークショップ「地域課題への気づき」	本授業の内容を理解し、地域や社会の課題について気づくことができる	
		2週	バレーボール (CLIL学習)	バレーボールの基本用語やルールについて理解している	
		3週	バレーボール (CLIL学習)	ゲーム中にレシーブ、トス、アタックなど適切なプレーを選択している	
		4週	バレーボール (CLIL学習)	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している	
		5週	バレーボール (CLIL学習)	CLIL学習の考え方に基いた活動を実施できている	
		6週	身体づくり、体力テスト屋内種目	健康的な生活や体力の維持、向上につながる活動を実施している	
		7週	身体づくり、体力テスト屋外種目	健康的な生活や体力の維持、向上につながる活動を実施している	

後期	2ndQ	8週	クラスマッチの練習	クラスマッチにつながる活動を実施できている	
		9週	ウォータースポーツ	4泳法について効率的なフォームを習得し、個人メドレーを泳ぐことができる	
		10週	ウォータースポーツ	自分に合ったウォータースポーツ、マリンスポーツについて考えることができる	
		11週	ウォータースポーツ		
		12週	ウォータースポーツ		
		13週	ウォータースポーツ		
		14週	救急救命講習	救命活動に関する知識技能を身につけ、心肺蘇生法を理解する	
		15週	前期のまとめ	前期の学習内容について理解している	
	16週				
	後期	3rdQ	1週	陸上競技	陸上運動の基本用語やルールについて理解している
			2週	陸上競技	記録を向上させるために自信やグループで考えて実行している
			3週	陸上競技	
			4週	陸上競技	
			5週	陸上競技	
			6週	クラスマッチの練習（屋内）	クラスマッチに必要な練習計画を立てて実行できる
			7週	クラスマッチの練習（屋外）	クラスマッチに必要な練習計画を立てて実行できる
8週			健康スポーツ科学学習①	健康やスポーツに関する学習内容について理解している	
4thQ		9週	卓球	卓球の基本用語やルールについて理解している	
		10週	卓球	適切なフォームでラリーを続けることができる	
		11週	卓球	ゲーム中にスマッシュを打つことができる	
		12週	卓球		
		13週	卓球		
		14週	健康スポーツ科学学習②	健康やスポーツに関する学習内容について理解している	
		15週	後期のまとめ		
		16週			

評価割合

	出席点（日ごろの体調管理）	技能点（体育実技や関心・意欲態度）	知識・理解（保健や体育理論）	合計
総合評価割合	30	50	20	100
体育・スポーツ I	30	50	20	100

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	1941001	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	適宜、プリントを配布する。				
担当教員	後藤田 和				
到達目標					
<p>(1)社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。</p> <p>(2)手紙文やメール、履歴書、レポートなどさまざまな文書の書き方を理解し、それぞれの文書のスタイルに応じて文章を書くことができる。</p> <p>(3)プレゼンテーションの方法を理解し、自らの考えや意見を他者にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>(4)他者の口頭による表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努める。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	社会人として必要な、漢字・語彙・敬語・慣用句等の日本語表現能力を身につけ、それを活用できる。	社会人として必要な、漢字・語彙・敬語・慣用句等の日本語表現能力を身につけることができる。	社会人として必要な、漢字・語彙・敬語・慣用句等の日本語表現能力を身につけることができていない。		
評価項目2	手紙文やメール、履歴書、レポートなどさまざまな文書の書き方を理解し、それぞれの文書のスタイルに応じて読み手のことを意識したわかりやすい文章を書くことができる。	手紙文やメール、履歴書、レポートなどさまざまな文書の書き方を理解し、それぞれの文書のスタイルに応じて文章を書くことができる。	手紙文やメール、履歴書、レポートなどさまざまな文書の書き方を理解できず、それぞれの文書のスタイルに応じて文章を書くことができない。		
評価項目3	プレゼンテーションの方法を理解し、プレゼン資料を工夫して、自らの考えや意見を他者にわかりやすく伝えることができる。	プレゼンテーションの方法を理解し、自らの考えや意見を他者にわかりやすく伝えることができる。	プレゼンテーションの方法を理解できず、プレゼン資料を工夫して、自らの考えや意見を他者にわかりやすく伝えることができない。		
評価項目4	他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に大いに資することができる。	他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努める。	他者の口頭によるものを含む表現について、客観的な評価や建設的な助言ができず、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	中間テストまでの日本語文章表現演習では、句読点の打ち方や助詞の使い方、修飾についてなど基本的な日本語の書き方に加え、手紙文やメール、履歴書といった実社会で使用するさまざまな文書の書き方を学習し、就職活動や就職した後の生活において活用できる知識を身につける。中間テスト後はこれまでの読書タイムで読んだ本の中で、最も印象的な1冊を選び、クラス全員の前で紹介のプレゼンに向けた準備を行う。話し手だけでなく、聞き手もプレゼンの聞き方を身につけた上で、話し手にフィードバックできるように努めてほしい。				
授業の進め方・方法	<p>(1) 日本語文章表現演習では、プリントを使った問題演習形式で授業を進める。授業中に問題を解き、その解説をする。</p> <p>(2) スピーチ・プレゼンは、「おすすめの本」という題目で、一人ずつクラス全員の前で発表する（時間は3～5分）。</p> <p>(3) 毎時間、小テストを行う。</p>				
注意点	<p>(1) プリントをファイルするものを各自準備すること。</p> <p>(2) 電子辞書もしくは国語辞書を持参することが望ましい。</p> <p>(3) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 日本語文章表現演習①――句読点の打ち方	日本語の文章における句読点の役割を理解し、正しく句読点をつけることができる。	
	2週	日本語文章表現演習②――助詞の使い方	「て」「に」「を」「は」といった基本的な助詞の用法を理解し、正しく使用することができる。		
	3週	日本語文章表現演習③――修飾の仕方	日本語の文章における修飾と被修飾の関係について理解し、正しく使用することができる。		
	4週	日本語文章表現演習④――敬語の使い方	尊敬語と謙譲語を区別することができる。		
	5週	日本語文章表現演習⑤――手紙文・メール	正しい敬語の使い方の手紙文を書くことができる。 正しい敬語の使い方メールを書くことができる。		
	6週	日本語文章表現演習⑥――履歴書・添え状	履歴書の書き方や自己分析の方法、および履歴書やエントリーシートを送付する際に添える文書の書き方について理解し、適切に履歴書と送付状を作成することができる。		
	7週	レポートの書き方	レポートに関する基礎的な知識を身につける。 事実と意見を区別できる。 パラグラフライティングについて理解し、実際に文章を作成することができる。		
	8週	中間テスト 答案返却・解説			

2ndQ	9週	プレゼンテーションの方法①	プレゼンテーションの方法について理解し、自らのプレゼンの構想を立てる。
	10週	プレゼンテーションの方法②	同上
	11週	プレゼンテーションの作成①	構想を立てたプレゼンを工夫して作成することができる。
	12週	プレゼンテーションの実践①	同上
	13週	プレゼンテーションの実践②	これまでの読書タイムで読んだ本の中で、最も印象的な1冊を選び、クラス全員の前で紹介することができる。その際、言葉遣いや発表態度にも気を配る。また、聞く側も、的確に発表を分析、評価することができるようになる。
	14週	プレゼンテーションの実践③	同上
	15週	プレゼンテーションの実践④	同上
	16週		

評価割合

	中間試験	発表	課題				合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	社会特論 (M)
科目基礎情報					
科目番号	1941002	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	澤田 大吾				
到達目標					
(1) 現代社会の政治的諸課題を理解できる (2) 現代社会の経済的諸課題を理解できる (3) 新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる (4) 時事問題について自分の言葉で説明できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	現代社会の政治的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の政治的諸課題を理解している	現代社会の政治的諸課題を理解できない		
評価項目2	現代社会の経済的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の経済的諸課題を理解できる	現代社会の経済的諸課題を理解できない		
評価項目3	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取り、その背景についても考察できる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができない		
	時事問題について自分の意見を含めて説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解を深める (2) 現代社会を理解する上で必要な情報を読み取る能力を身につける				
授業の進め方・方法	自主制作教材を用い講義を行う				
注意点	新聞やニュースなどで、時事問題に関する情報を収集しておくこと				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 現代の資本主義経済	1-(1) アダム・スミスと資本主義	
		2週	1. 現代の資本主義経済	1-(2) カール・マルクスと社会主義	
		3週	1. 現代の資本主義経済	1-(3) 修正資本主義と現代社会	

		4週	2. 現代経済のしくみ	2-(1)経済主体と経済循環 2-(2)経済のしくみと企業	
		5週	2. 現代経済のしくみ	2-(3)市場経済の機能と限界	
		6週	2. 現代経済のしくみ	2-(4)国民所得と経済成長	
		7週	2. 現代経済のしくみ	2-(5)金融のしくみと機能	
		8週	2. 現代経済のしくみ	2-(6)財政のしくみと機能	
		2ndQ	9週	3. 日本経済の発展と産業構造の変化	3-(1)GHQ統治下の日本
			10週	3. 日本経済の発展と産業構造の変化	3-(2)高度経済成長期
			11週	3. 日本経済の発展と産業構造の変化	3-(3)二つのショック
	12週		3. 日本経済の発展と産業構造の変化	3-(4)産業構造変化	
	13週		3. 日本経済の発展と産業構造の変化	3-(5)バブル経済とその後	
	14週		4. 現代社会と日本経済の課題	4-(1)日本農業と食料問題	
	15週		4. 現代社会と日本経済の課題	4-(2)社会保障と福祉	
	16週		学年末試験		

評価割合

	試験	レポート・小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	社会特論 (C・D)
科目基礎情報					
科目番号	1941003	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	澤田 大吾				
到達目標					
(1) 現代社会の政治的諸課題を理解できる (2) 現代社会の経済的諸課題を理解できる (3) 新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる (4) 時事問題について自分の言葉で説明できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	現代社会の政治的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の政治的諸課題を理解している	現代社会の政治的諸課題を理解できない		
評価項目2	現代社会の経済的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の経済的諸課題を理解できる	現代社会の経済的諸課題を理解できない		
評価項目3	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取り、その背景についても考察できる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができない		
	時事問題について自分の意見を含めて説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解を深める (2) 現代社会を理解する上で必要な情報を読み取る能力を身につける				
授業の進め方・方法	自主制作教材を用い講義を行う				
注意点	新聞やニュースなどで、時事問題に関する情報を収集しておくこと				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	1. 現代の資本主義経済	1-(1)資本主義体制の成立	
		2週	1. 現代の資本主義経済	1-(2)資本主義経済の発展と変容	
		3週	1. 現代の資本主義経済	1-(3)社会主義の変遷	
		4週	2. 現代経済のしくみ	2-(1)経済主体と経済循環 2-(2)経済のしくみと企業	
		5週	2. 現代経済のしくみ	2-(3)市場経済の機能と限界	
		6週	2. 現代経済のしくみ	2-(4)国民所得と経済成長	

4thQ	7週	2. 現代経済のしくみ	2-(5)金融のしくみと機能
	8週	2. 現代経済のしくみ	2-(6)財政のしくみと機能
	9週	3. 日本経済の発展と産業構造の変化	3-(1)GHQ統治下の日本
	10週	3. 日本経済の発展と産業構造の変化	3-(2)高度経済成長期
	11週	3. 日本経済の発展と産業構造の変化	3-(3)二つのショック
	12週	3. 日本経済の発展と産業構造の変化	3-(4)産業構造変化
	13週	3. 日本経済の発展と産業構造の変化	3-(5)バブル経済とその後
	14週	4. 現代社会と日本経済の課題	4-(1)日本農業と食料問題
	15週	4. 現代社会と日本経済の課題	4-(1)社会保障と福祉
16週	学年末試験		

評価割合

	試験	レポート・小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	発展英語 I (M)
科目基礎情報					
科目番号	1941004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	南雲堂「Simply 400: Acting the TOEIC® Listening & Reading Test」Alison Kitzman他				
担当教員	下田 旭美, 飛田 麻也香				
到達目標					
1. TOEIC受験の出題形式に慣れ、各問題形式の傾向を把握し、自信を持って臨める姿勢を身につける 2. 授業で扱った、TOEICに頻出する音声変化、語彙・表現、文法の構造、英文読解を理解し、運用できるようになる 3. 授業を通して、スコアアップに必要な自学自習方法の習得も目指す					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
TOEICに頻出する音声変化を理解する。	授業で扱った、TOEICに頻出する音声変化を含んだリスニング問題に80%以上答えられる。		授業で扱った、TOEICに頻出する音声変化を含んだリスニング問題に70%以上答えられる。		授業で扱った、TOEICに頻出する音声変化を含んだリスニング問題に60%以上答えられない。
TOEICに頻出する語彙・表現を理解する。	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現に関する質問に80%以上答えられる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語法・語彙に関する質問に70%以上答えられる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語法・語彙に関する質問に60%以上答えられない。
TOEICに頻出する文法の構造を理解する。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に80%以上答えられる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に70%以上答えられる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に60%以上答えられない。
TOEICに頻出する英文を読んで内容を理解する。	授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に80%以上答えられる。		授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に70%以上答えられる。		授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に60%以上答えられない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本科目は、TOEICの「リスニングパート」と「リーディングパート」を交互に学習していきます。まずは、TOEIC受験の出題形式に慣れ、各パートの傾向を把握し、自信を持って臨める姿勢を身につけるため、TOEICに頻出する音声変化、語彙・表現、文法の構造、英文読解の4つを柱とした基礎力をつけていきましょう。また、スコアアップに必要な自学自習方法も意識しながら、日々の授業を積み重ねていきましょう。				
授業の進め方・方法	基本的に、教科書の内容に沿って授業を進めます。各ユニットで用いられる語彙や表現、文法事項の確認をしたのち、実際のTOEIC形式による問題の実践と解説を通して、TOEICの出題形式に慣れるとともに、リスニングパート、リーディングパートそれぞれの問題形式の傾向も把握していきます。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠です。 教科書や問題集などを活用して主体的に学習するよう心がけてください。 提出物等の期限は厳守してください。 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Unit 1 Eating Out and Shopping	自己紹介、シラバスや評価方法について説明 音声変化や語彙・表現の知識を活用してUnit 1の実践問題を適切に解くことができる	
		2週	Unit 2 Daily Life	語彙・表現・文法の知識を活用してUnit 2の実践問題を適切に解くことができる	
		3週	Unit 3 Activities	音声変化や語彙・表現の知識を活用してUnit 3の実践問題を適切に解くことができる	
		4週	Unit 4 Climate Change and Global Warming	語彙・表現・文法の知識を活用してUnit 4の実践問題を適切に解くことができる	
		5週	前期中間試験	これまで学習した範囲から出題	
		6週	試験返却・説明 Unit 5 Housing	試験の解説 音声変化や語彙・表現の知識を活用してUnit 5の実践問題を適切に解くことができる	
		7週	Unit 6 Health	語彙・表現・文法の知識を活用してUnit 6の実践問題を適切に解くことができる	

2ndQ	8週	Unit 7 Review Test A Unit 8 Employment and Personnel	リスニング・リーディング双方を含んだ総合的な実践問題を適切に解くことができる 音声変化や語彙・表現の知識を活用してUnit 8の実践問題を適切に解くことができる
	9週	Unit 9 Office Work	語彙・表現・文法の知識を活用してUnit 9の実践問題を適切に解くことができる
	10週	Unit 10 Business Trips	音声変化や語彙・表現の知識を活用してUnit 10の実践問題を適切に解くことができる
	11週	Unit 11 Products and Services	語彙・表現・文法の知識を活用してUnit 11の実践問題を適切に解くことができる
	12週	Unit 12 Marketing and Ordering	音声変化や語彙・表現の知識を活用してUnit 12の実践問題を適切に解くことができる
	13週	Unit 13 Sales and Complaints	語彙・表現・文法の知識を活用してUnit 13の実践問題を適切に解くことができる
	14週	Unit 14 Office Messages and Meetings	音声変化や語彙・表現の知識を活用してUnit 14の実践問題を適切に解くことができる
	15週	前期末試験	これまで学習した範囲から出題
16週	試験返却・説明 Unit 15 Review Test B	試験の解説 リスニング・リーディング双方を含んだ総合的な実践問題を適切に解くことができる	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	発展英語 I (C・D)
科目基礎情報					
科目番号	1941006	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	TOEIC® L&R TEST/TOEIC® L&Rテスト文法項目別トレーニング				
担当教員	藤沢 徹也				
到達目標					
(1) 文法問題を解き、不確かなところを明らかにして、解説の該当箇所にチェック入れ、定着させる。 (2) ネイティブスピーカーの肉声による発信と受信を体験し、英語によるコミュニケーション力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	問題を見た瞬間に文法事項を理解した上で解くことができ、訳文を見て、英文を再現することができる。	問題文の意味を理解し、文法事項を理解した上で解くことができる。	問題を解くことができない。また、なぜその答えになるのか理解できない。		
評価項目2	現実の発話場面に身を置き、外国人の発話の聞き取りができ、必要情報を盛り込んだメッセージが返せるようになる	現実の発話場面に身を置き外国人の発話の聞き取りがある程度でき、何とか返信ができるようになる	肉声による英文メッセージが聞き取れず、返信できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) TOEICの問題を解きながら、基礎の定着を図るとともに、試験の形式に慣れる。 (2) 外国人講師による会話の授業を通じ、英語の発信力を磨く。 (3) 英語の勉強方法をマスターする。				
授業の進め方・方法	日本人教師による授業：英文法の授業と、外国人教師による会話の授業の二本立てである。 評価は日本人教師50%+外国人教師50%である。				
注意点	(1) 学修単位科目である意味をよく理解し、計画的な自学時間を確保すること。 (2) 授業の前半と後半で担当者が交代する。 (3) 外国人教師であるKhaked LAOUBI先生の授業は、自主教材が配付される。 (4) 出された課題は、期限を守って提出すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit 1 Part1 品詞	問題を解いて、答え合わせをすることにより理解する。	
		2週	Day 1 Part6	同上	
		3週	Unit 2 Part2 時制	同上	
		4週	Unit 2 Part7	同上	
		5週	Unit 3 Part3 受動態	同上	
		6週	Unit 3 Part6	同上	
		7週	Unit 4 Part4 不定詞・動名詞	同上	
		8週	Unit 4 Part7	同上	
	2ndQ	9週	Unit 5 Part1 分詞 Day 9	同上	
		10週	Unit 5 Part6	同上	
		11週	Unit 6 Part2 前置詞・接続詞	同上	
		12週	Unit 6 Part7	同上	
		13週	Unit 7 Part3 関係詞	同上	

		14週	Unit 7 Part7	同上
		15週	復習	同上
		16週	答案返却と解説	定着していなかったところを、定着させる。
後期	3rdQ	1週	Unit 8 Part4 Day16	同上
		2週	Unit 8 Part7	同上
		3週	Unit 9 Part1 語彙問題1 (形容詞・副詞)	同上
		4週	Unit 9 Part6	同上
		5週	Unit 10 Part2 イディオム問題1	同上
		6週	Unit 10 Part7	同上
		7週	Unit 11 Part3 語彙問題2 (動詞・名詞)	同上
		8週	Unit 11 Part6	同上
	4thQ	9週	Unit 12 Part4 Unit 12 Part4 イディオム問題2	同上
		10週	Unit 12 Part7	同上
		11週	Unit13 基礎力確認テスト	同上
		12週	Unit13 基礎力確認テスト	同上
		13週	Unit14 実力テスト	同上
		14週	Unit14 実力テスト	同上
		15週	復習	同上
		16週	答案返却と解説	定着していなかったところを、定着させる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育・スポーツⅡ (M)
科目基礎情報					
科目番号	1941007	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	適宜配布				
担当教員	橋本 真, 福田 健太郎				
到達目標					
1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。 2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。 3 球技では準備運動や練習なども含めて自分たちでスポーツの楽しみ方を実践できる。 4 バドミントンでは基本的な技能を身につける。 5 グラウンドゴルフでは、その意義や必要性を理解し大崎上島でのスポーツについて学習する。 6 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用することができる。 7 アダプテッドスポーツ実習では、その意義や必要性を理解したうえで活動する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。		
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。		
評価項目3	球技のゲームや練習では、運営に主体的にかかわることができる。	球技のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができる。	球技のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができない。		
評価項目4	卓球に必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	卓球に必要な技能を習得している。	卓球に必要な技能を習得していない。		
評価項目5	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得しているだけでなく、大崎上島のスポーツについて考えることができる。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得している。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得していない。		
評価項目6	率先してCLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができない。		
評価項目7	アダプテッドスポーツの意義や必要性を理解したうえで率先して活動している。	アダプテッドスポーツの意義や必要性を理解したうえで活動している。	アダプテッドスポーツの意義や必要性を理解したうえで活動できていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は決定する。				
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。				
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。 (4) 実技テストやレポート、提出物などの授業に関する成果物が全て完了することで成績評価をする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	オリエンテーション、選択スポーツ (第1体育館)	自分に合ったスポーツを選択して活動している	
		2週	体カテスト屋内種目、身体づくり	体カテストの意義や必要性について理解している	
		3週	体カテスト屋外種目、身体づくり	体カテストの各調査項目について適切な実施方法を実行している	
		4週	バスケットボール (CLIL学習)	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している	
		5週	バスケットボール (CLIL学習)	CLIL学習の内容について適切に理解して活動している	
		6週	バスケットボール (CLIL学習)	バスケットボールの技術、ルール (知識) を理解し、実践することができる	
		7週	バスケットボール (CLIL学習)	チーム戦術をゲームに取り入れ、実践することができる	
	2ndQ	9週	バスケットボール (CLIL学習)		
		10週	バスケットボール (CLIL学習)		
		11週	選択スポーツ	自分に合ったスポーツを選択して活動している	

	12週	選択スポーツ	自分に合ったスポーツを選択して活動している
	13週	アダプテッドスポーツ実習	アダプテッドスポーツの考え方を理解して活動している
	14週	選択スポーツ	自分に合ったスポーツを選択して活動している
	15週	選択スポーツ	自分に合ったスポーツを選択して活動している
	16週		
評価割合			
	遠隔	対面	合計
総合評価割合	80	20	100
体育・スポーツⅡ	80	20	100

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育・スポーツⅡ (C・D)
科目基礎情報					
科目番号	1941008	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	適宜配布				
担当教員	橋本 真,松本 あゆみ				
到達目標					
1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。 2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。 3 球技では準備運動や練習なども含めて自分たちでスポーツの楽しみ方を実践できる。 4 硬式テニスでは基本的な技能を身につける。 5 グラウンドゴルフでは、その意義や必要性を理解し大崎上島でのスポーツについて学習する。 6 スポーツ実験実習では、保健体育や健康、スポーツに関する事象の調査や研究について、実験計画を立てて実習することができる。 7 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。		
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。		
評価項目3	ボール運動(球技)のゲームや練習では、運営に主体的にかかわることができる。	ボール運動(球技)のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができる。	ボール運動(球技)のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができない。		
評価項目4	硬式テニスに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	硬式テニスに必要な技能を習得している。	硬式テニスに必要な技能を習得していない。		
評価項目5	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得しているだけでなく、大崎上島のスポーツについて考えることができる。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得している。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得していない。		
評価項目6	スポーツに関する事象の調査や研究について、周囲と協力して実験計画を立てて実習することができる。	スポーツに関する事象の調査や研究について、実験計画を立てて実習することができる。	スポーツに関する事象の調査や研究について、実験計画を立てて実習することができない。		
評価項目7	率先してCLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。				
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。				
注意点	(1) 授業時の服装は、ジャージ等のスポーツができるものとする。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、からだづくり運動	からだづくり運動の意義や必要性について理解している	
		2週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスの基本用語やルールについて理解している	
		3週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスでラリーを続けるのに必要な技能を習得している	
		4週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスのゲーム中にスマッシュ、ボレーなど適切なプレーを選択している	
		5週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスのゲーム中にスマッシュ、ボレーなど適切なプレーを選択している	
		6週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスのゲーム中にスマッシュ、ボレーなど適切なプレーを選択している	
		7週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスのゲームを自分たちで運営できる	
		8週	硬式テニス&選択スポーツ	ペアでラリーを20回行うことができる	
	2ndQ	9週	硬式テニス&選択スポーツ	ペアでラリーを20回行うことができる	

後期		10週	クラスマッチの練習（屋内）		
		11週	クラスマッチの練習（屋外）		
		12週	バドミントン（CLIL）	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している	
		13週	バドミントン	バドミントンの基本用語やルールについて理解している	
		14週	バドミントン	ゲーム中にスマッシュ、ハイクリア、ヘアピンなど適切なプレーを選択している	
		15週	バドミントン	ゲーム中にスマッシュ、ハイクリア、ヘアピンなど適切なプレーを選択している	
		16週	まとめ		
		3rdQ	1週	グラウンドゴルフ	グラウンドゴルフの基本用語やルールについて理解している
			2週	グラウンドゴルフ	地域のスポーツについて考え、自分の生涯スポーツに生かそうとしている
			3週	グラウンドゴルフ	地域のスポーツについて考え、自分の生涯スポーツに生かそうとしている
			4週	クラスマッチ練習	
			5週	クラスマッチ練習	
			6週	体カテスト	体カテストの意義や必要性について理解している
			7週	体カテスト	体カテストの各調査項目について適切な実施方法を実行している
			8週	選択スポーツ	
		4thQ	9週	選択スポーツ	
10週			選択スポーツ		
11週			バスケットボール	ゲーム中に必要な個人技能や集団技能を習得している	
12週			バスケットボール	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している	
13週			バスケットボール	チームで準備運動、練習などを協力して考えて実行している	
14週			バスケットボール		
15週			バスケットボール		
16週					
評価割合					
		遠隔	対面	合計	
総合評価割合		75	25	100	
体育		75	25	100	

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	社会特論 (M・C)
科目基礎情報					
科目番号	0050		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	授業で配布するプリント				
担当教員	小河 浩				
到達目標					
(1)グローバル化された現代における時事問題など一般教養程度の内容が理解できて、社会活動に応用できる。 (2)科学技術の諸問題や思想などについて一般教養程度の内容が理解できて、社会活動に応用できる。 (3)企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などについて一般教養程度の内容が理解できて、社会活動に応用できる。 (4)日本の抱える社会や国際的諸問題について一般教養程度の内容が理解できて、社会活動に応用できる。 (5)現代における地域の抱える諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		グローバル化された現代における時事問題などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に応用できる。	グローバル化された現代における時事問題などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に関心が持てる。	グローバル化された現代における時事問題などに関する理解できず、社会活動に応用できない。	
評価項目2		科学技術の諸問題や思想などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に応用できる。	科学技術の諸問題や思想などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に関心が持てる。	科学技術の諸問題や思想などに関する理解できず、社会活動に応用できない。	
評価項目3		企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に応用できる。	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に関心が持てる。	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関する理解できず、社会活動に応用できない。	
評価項目4		日本の抱える社会や国際的諸問題に関するニュースの内容が理解できて、社会活動に応用できる。	日本の抱える社会や国際的諸問題に関するニュースの内容が理解できて、社会活動に関心が持てる。	日本の抱える社会や国際的諸問題に関する理解できず、社会活動に応用できない。	
評価項目5		地域の抱える諸問題について内容が理解できて、社会活動に応用できる。	地域の抱える諸問題について、基礎的な理解できて、社会活動に関心が持てる。	地域の抱える諸問題について、基礎的な内容が理解できず、社会活動に応用できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)グローバル化された現代における時事問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。 (2)科学技術の諸問題や思想などについて理解できて、社会活動に応用できる。 (3)企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などについて理解できて、社会活動に応用できる。 (4)日本の抱える社会や国際的諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。 (5)地域の抱える諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。				
授業の進め方・方法	社会特論は、これから就職活動を控え、また社会人となっていくために必要な現代社会を理解するために時事問題を、講義と演習形式で学習していくものである。グローバル化された世界情勢の動きや、行き過ぎたグローバル化や企業の問題、それに伴う格差や資源、テロの問題など、学習する内容は多岐にわたる。これらの内容を講義と共に、新聞や書籍記事などを用いて学生個々人が読解し、分析することによって理解をふかめるものである。				
注意点	(1)シラバス内容に照らし合わせて予習をしてくること。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	グローバル化された現代における科学技術、思想などの諸問題	ガイダンス 現代の科学技術の諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。	
		2週	グローバル化された現代における科学技術、思想などの諸問題	グローバル化された時代の思想について理解できて、社会活動に応用できる。	
		3週	グローバル化された現代における科学技術、思想などの諸問題	世界のトップクラスの大企業について理解できて、社会活動に応用できる。	
		4週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	多国籍自動車企業の展開について理解できて、社会活動に応用できる。	
		5週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	多国籍メディア企業の展開について理解できて、社会活動に応用できる。	
		6週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	多国籍食品企業の展開について理解できて、社会活動に応用できる。	
		7週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	石油など地球エネルギー資源の問題について理解できて、社会活動に応用できる。	
		8週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	食糧などの地球資源の問題について理解できて、社会活動に応用できる。	

後期	2ndQ	9週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	テロ問題や右傾化する世界情勢などから、反グローバル化などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		10週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	ソ連崩壊以後のロシア情勢について理解できて、社会活動に応用できる。	
		11週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	企業のM&A、労働災害などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		12週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	日本の高度経済成長から、現代における格差の諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。	
		13週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	大量定年時代を迎えた日本経済の行方について理解できて、社会活動に応用できる。	
		14週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	ホワイトカラーの国際移動などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		15週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	地域紛争や、行き過ぎたグローバル化に対する反グローバル化などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		16週	前期末試験	前期末試験	
	後期	3rdQ	1週	日本や地域の抱える諸問題	答案返却と解説 少子高齢化など日本社会の抱える諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。
			2週	日本や地域の抱える諸問題	少子高齢化など日本社会の抱える諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。
			3週	日本や地域の抱える諸問題	衰退する地方と地域社会について理解できて、社会活動に応用できる。
			4週	日本や地域の抱える諸問題	衰退する地方と地域社会について理解できて、社会活動に応用できる。
			5週	日本や地域の抱える諸問題	日本企業と労働問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。
			6週	日本や地域の抱える諸問題	日本企業と労働問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。
			7週	日本や地域の抱える諸問題	現政権下で進行中の諸問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。
			8週	日本や地域の抱える諸問題	現政権下で進行中の諸問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。
4thQ		9週	日本や地域の抱える諸問題	現政権下で進行中の諸問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		10週	日本や地域の抱える諸問題	日本の直面する地域間の格差問題について理解できて、社会活動に応用できる。	
		11週	日本や地域の抱える諸問題	経団連の政策などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		12週	日本や地域の抱える諸問題	経団連の政策などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		13週	日本や地域の抱える諸問題	日米関係などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		14週	日本や地域の抱える諸問題	日米関係などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		15週	日本や地域の抱える諸問題	日米関係などについて理解できて、社会活動に応用できる。	
		16週	学年末試験	学年末試験 答案返却と解説	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	課題取り組み	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	文学と思想	
科目基礎情報						
科目番号	1951001	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科	対象学年	5			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	適宜、プリントを配布する。					
担当教員	後藤田 和					
到達目標						
(1)小学校から高校までの教科書に採録されている代表的な近現代の文学作品を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。						
(2)小学校から高校までの教科書に採録されている代表的な近現代の文学作品を「視点」や「語り手」に着目して読むことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	小学校から高校までの教科書に採録されている代表的な近現代の文学作品を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	小学校から高校までの教科書に採録されている代表的な近現代の文学作品を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、自らの考えを深めたり広げたりすることができる。	小学校から高校までの教科書に採録されている代表的な近現代の文学作品を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができない。			
評価項目2	小学校から高校までの教科書に採録されている代表的な近現代の文学作品を「視点」や「語り手」に着目してこれまでの読みとは異なる観点から読むことができる。	小学校から高校までの教科書に採録されている代表的な近現代の文学作品を「視点」や「語り手」に着目して読むことができる。	小学校から高校までの教科書に採録されている代表的な近現代の文学作品を「視点」や「語り手」に着目して読むことができない。			
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	小学校から高校までさまざまな文学作品との「出会い」を経験してきたが、いま一度、それらの作品を「視点」や「語り手」といった観点から読み直し、新たな文学作品の読み方の「出会い」をしてほしい。これまでの自らの経験や体験を文学作品の読みを通して見つめ直し、新たなものの見方や考え方といった「思想」を発見していく意欲的な取り組みを期待したい。					
授業の進め方・方法	(1) 状況に応じてグループワークを行う。 (2) 毎回の授業ごとにコメントシートを入力する時間を取る。					
注意点	(1) プリントをファイルするものを各自準備すること。 (2) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	(1)これまでの文学の授業を振り返り、		
		2週	小説の読み方	(1)本授業での小説を読む上で、基礎的な読み方を理解できる。 (2)小説における人称の区別や「語り手」について理解できる。		
		3週	新美南吉「ごんぎつね」を読み返す	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。		
		4週	同上	同上		
		5週	太宰治「走れメロス」を読み返す	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。		
		6週	同上	同上		
		7週	芥川龍之介「羅生門」を読み返す	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。		
		8週	同上	同上		
	4thQ	9週	ヘルマンヘッセ「少年の日の思い出」を読み返す	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。		
		10週	同上	同上		
		11週	魯迅「故郷」を読み返す	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。		
		12週	同上	同上		

	13週	志賀直哉「小僧の神様」を読む	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。
	14週	同上	同上
	15週	まとめ	(1) これまでの授業を振り返り、自らのものの見方や考え方がどのように変化したのか／しなかったのかを書くことができる。
	16週		

評価割合

	レポート	授業課題	小テスト	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	社会特論 (D)
科目基礎情報					
科目番号	1951002	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	授業で配布するプリント類				
担当教員	澤田 大吾				
到達目標					
(1)グローバル化された現代における時事問題など一般教養程度の内容が理解できる。 (2)科学技術の諸問題や思想などについて一般教養程度の内容が理解できる。 (3)企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などについて一般教養程度の内容が理解できる。 (4)日本の抱える社会や国際的諸問題について一般教養程度の内容が理解できる。 (5)現代における地域の抱える諸問題について理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	グローバル化された現代における時事問題などに関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	グローバル化された現代における時事問題などに関するニュースの内容が理解できる。	グローバル化された現代における時事問題などに関する理解できていない。		
評価項目2	科学技術の諸問題や思想などに関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	科学技術の諸問題や思想などに関するニュースの内容が理解できる。	科学技術の諸問題や思想などに関する理解できていない。		
評価項目3	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関するニュースの内容が理解できる。	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関する理解できていない。		
評価項目4	日本の抱える社会や国際的諸問題に関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	日本の抱える社会や国際的諸問題に関するニュースの内容が理解できる。	日本の抱える社会や国際的諸問題に関する理解できていない。		
評価項目5	地域の抱える諸問題について内容が理解できて、内容も説明できる。	地域の抱える諸問題について、基礎的な理解ができる。	地域の抱える諸問題について、基礎的な内容が理解できていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)グローバル化された現代における時事問題などについて理解できる。 (2)科学技術の諸問題や思想などについて理解できる。 (3)企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などについて理解できる。 (4)日本の抱える社会や国際的諸問題について理解できる。 (5)地域の抱える諸問題について理解できる。				
授業の進め方・方法	社会特論は、これから就職活動を控え、また社会人となっていくために必要な現代社会を理解するために時事問題を、講義（ニュース検定）と演習形式で学習していくものである。グローバル化された世界情勢の動きや、行き過ぎたグローバル化や企業の問題、それに伴う格差や資源、テロの問題など、学習する内容は多岐にわたる。これらの内容を講義と共に、新聞や書籍記事などを用いて学生個々人が読解し、分析することによって理解をふかめるものである。				
注意点	(1)ニュース検定（毎日新聞社）を利用して補助プリントを利用して授業を展開していく。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	ガイダンス終了後、年金について説明する。	
		2週	超加速経済アフリカ	将来の日本社会はリープフロッグ現象のアフリカで見られるお話から今後への世界について理解する。	
		3週	シン二ホン	IT産業革命に乗り遅れた日本のおかれている現状	
		4週	日本国憲法について	9条について 9条以外のテーマについて	
		5週	日本の外交について (1)	日本と韓国の関係について理解する 日本とアメリカの関係について理解する	
		6週	日本の外交について (2)	今後の日本とアメリカの関係について理解する 日本とロシアの関係について理解する	
		7週	日本の外交について (3)	日本と中国の関係について理解する	
		8週	人口減少社会について (1)	地方自治の基本について理解する ふるさと納税と地方の抱える問題点	
	2ndQ	9週	人口減少社会について (2)	少子高齢化と国債残高について理解する	
		10週	日本の貿易について (1)	保護貿易と自由貿易	
		11週	日本の貿易について (2)	円高と円安について理解する 自由貿易体制 (T P Pはどうか)	
		12週	これからのエネルギー政策について	エネルギーの変遷と今後のエネルギー	

後期		13週	社会保障制度について	人口減少と社会保障について理解する
		14週	働き方改革について	働き方改革が目指すもの
		15週	まとめ 全体の補習日	まとめ
		16週	前期末試験	前期末試験
	3rdQ	1週	戦後の国際関係 (1)	WW I 以前の国際関係 (1)
		2週	戦後の国際関係 (2)	WW I 以前の国際関係 (2)
		3週	戦後の国際関係 (3)	WW I 中の国際関係
		4週	戦後の国際関係 (4)	ヒットラーの登場
		5週	戦後の国際関係 (5)	WW II の始まり
		6週	戦後の国際関係 (6)	ポストWW II
		7週	戦後の国際関係 (7)	勝者の世界分割
		8週	戦後の国際関係 (8)	冷戦と各抑止力
	4thQ	9週	戦後の国際関係 (9)	ベトナム戦争
		10週	戦後の国際関係 (10)	冷戦終結
		11週	戦後の国際関係 (11)	戦後の日本
		12週	戦後の国際関係 (12)	戦後の日本
13週		戦後の国際関係 (13)	戦後の日本	
14週		戦後の国際関係 (14)	戦後の日本	
15週		戦後の国際経済 (15)	戦後の日本	
16週		学年末試験	学年末試験 答案返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	課題	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	20	0	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	発展英語Ⅱ (M)
科目基礎情報					
科目番号	1951003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	TOEIC® L&R TEST/TOEIC® L&Rテスト文法項目別トレーニング				
担当教員	藤沢 徹也				
到達目標					
(1) 文法問題を解き、不確かなところを明らかにして、解説の該当箇所にチェック入れ、定着させる。 (2) ネイティブスピーカーの肉声による発信と受信を体験し、英語によるコミュニケーション力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	問題を見た瞬間に文法事項を理解した上で解くことができ、訳文を見て、英文を再現することができる。		問題文の意味を理解し、文法事項を理解した上で解くことができる。		問題を解くことができない。また、なぜその答えになるのか理解できない。
評価項目2	現実の発話場面に身を置き、外国人の発話の聞き取りができ、必要情報を盛り込んだメッセージが返せるようになる		現実の発話場面に身を置き外国人の発話の聞き取りがある程度でき、何とか返信ができるようになる		肉声による英文メッセージが聞き取れず、返信できない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) TOEICの問題を解きながら、基礎の定着を図るとともに、試験の形式に慣れる。 (2) 外国人講師による会話の授業を通じ、英語の発信力を磨く。 (3) 英語の勉強方法をマスターする。				
授業の進め方・方法	日本人教師による授業：英文法の授業と、外国人教師による会話の授業の二本立てである。 評価は日本人教師50%+外国人教師50%である。				
注意点	(1) 学修単位科目である意味をよく理解し、計画的な自学時間を確保すること。 (2) 授業の前半と後半で担当者が交代する。 (3) 外国人教師であるKhaked LAOUBI先生の授業は、自主教材が配付される。 (4) 出された課題は、期限を守って提出すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit 1 Part1 品詞	問題を解いて、答え合わせをすることにより理解する。	
		2週	Day 1 Part6	同上	
		3週	Unit 2 Part2 時制	同上	
		4週	Unit 2 Part7	同上	
		5週	Unit 3 Part3 受動態	同上	
		6週	Unit 3 Part6	同上	
		7週	Unit 4 Part4 不定詞・動名詞	同上	
		8週	Unit 4 Part7	同上	
	2ndQ	9週	Unit 5 Part1 分詞 Day 9	同上	
		10週	Unit 5 Part6	同上	
		11週	Unit 6 Part2 前置詞・接続詞	同上	
		12週	Unit 6 Part7	同上	
		13週	Unit 7 Part3 関係詞	同上	

		14週	Unit 7 Part7	同上
		15週	復習	同上
		16週	答案返却と解説	定着していなかったところを、定着させる。
後期	3rdQ	1週	Unit 8 Part4 Day16	同上
		2週	Unit 8 Part7	同上
		3週	Unit 9 Part1 語彙問題1 (形容詞・副詞)	同上
		4週	Unit 9 Part6	同上
		5週	Unit 10 Part2 イディオム問題1	同上
		6週	Unit 10 Part7	同上
		7週	Unit 11 Part3 語彙問題2 (動詞・名詞)	同上
		8週	Unit 11 Part6	同上
	4thQ	9週	Unit 12 Part4 Unit 12 Part4 イディオム問題2	同上
		10週	Unit 12 Part7	同上
		11週	Unit13 基礎力確認テスト	同上
		12週	Unit13 基礎力確認テスト	同上
		13週	Unit14 実力テスト	同上
		14週	Unit14 実力テスト	同上
		15週	復習	同上
		16週	答案返却と解説	定着していなかったところを、定着させる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	発展英語Ⅱ(C)(D)	
科目基礎情報						
科目番号	1951004		科目区分	一般/必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	教員の作成した教材					
担当教員	下田 旭美					
到達目標						
(1)文の構造を理解し、各語の品詞を特定できる (2)初見の英文を辞書を利用して、意味を理解できる (3)教科書付属のCDを聞いて、その内容を理解する						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1(文構造の理解)	名詞句とSVO前置詞句、副詞が理解できる		SVO前置詞句、副詞が理解できる		SVO前置詞句が理解できない	
評価項目2(辞書)	品詞を特定し、辞書を引く、複数の意味から特定できる		品詞をある程度特定し、助書を引く		品詞の特定が出来ずに辞書を引く	
評価項目3(聞き取り)	TOEICのPartIIの問題で疑問詞、主語を特定し、解答できる		同問題で疑問詞を特定し、解答できる		疑問詞、主語を特定できない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	(1)3年生まで学習した語句・文法事項の復習をし、それらの理解を深めるとともに、実際に使用できるようにする (2)既習文法事項の理解を深める (3)辞書を利用して、初見の英文の意味を理解できるようになる (4)「読む」「書く」を中心として4技能の力を伸ばす (5)辞書の使い方と、TOEIC対策の授業を中心とする (6)後期には海外旅行で使える表現を学習する。ペアワークも行う。					
授業の進め方・方法	TOEICのPartIIの問題を解答するとともに、疑問詞、主語を理解し、質問の意味が分かるようになる 後期には海外旅行で使える表現を、ペアワークを中心に行う。					
注意点	(1)今後学ば英語や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2)学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・小テスト・練習課題などを活用して主体的に学習すること。 (3)予習・復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。 (5)後期は会話が中心となるので、どんどん発表すること					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 文構造と前置詞 疑問詞を聞き取る	SVO構造を理解し、前置詞を指摘できる 疑問詞(who, what)を聞き取ることが出来る		
		2週	2. 名詞句(1) 疑問詞を聞き取る	名詞句の構造のうち、形容詞と名詞を理解する 疑問詞(when, where)を聞き取ることが出来る		
		3週	2. 名詞句(2) 疑問詞を聞き取る	冠詞と名詞を理解する 疑問詞(how)を聞き取ることが出来る		
		4週	2. 名詞句(3) 疑問詞を聞き取る	冠詞相当語句と形容詞、名詞を理解する 疑問詞(how ~)を聞き取ることが出来る		
		5週	2. 名詞句(4) 疑問詞を聞き取る	冠詞相当語句と副詞、形容詞、名詞を理解する Do you know 疑問詞を聞き取ることが出来る		
		6週	2. 名詞句(5) 疑問詞を聞き取る	これまでの総復習		
		7週	3. 動詞(1) 主語を聞き取る	自動詞と他動詞を理解できる I, Youを聞き取ることが出来る		
		8週	3. 動詞(2) 主語を聞き取る	時制を理解できる he, sheを聞き取ることが出来る		
	2ndQ	9週	3. 動詞(3) 主語を聞き取る	能動態と受動態を理解できる it, they, 代名詞を聞き取ることが出来る。		
		10週	3. 動詞(3) 主語を聞き取る	現在分詞、過去分詞の使い方を理解できる Yes-no疑問の主語を聞き取ることが出来る		
		11週	3. 動詞(4) 主語を聞き取る	現在分詞、過去分詞の使い方を理解できる 疑問詞の後の主語を聞き取ることが出来る		
		12週	4. 副詞(1) 主語を聞き取る	副詞の形と位置を理解できる 個人名から男女を区別し、主語を聞き取ることが出来る		
		13週	4. 副詞(2) 主語を聞き取る	名詞句内の副詞を特定できる 疑問詞、主語を聞き取れる		
		14週	4. 副詞(3) 主語を聞き取る	文中の副詞を特定し、意味を調べることが出来る 疑問詞、主語を聞き取れる		
		15週	期末試験			
		16週	解答と説明		解答と説明をし、学習内容を確認する	

後期	3rdQ	1週	1. 飛行機での会話	席の交換、アテンダントとの会話などができる
		2週	2. 空港での会話	イミグレーション、完全での会話ができる
		3週	3. ホテルでの会話(1)	チェックイン、ベルトの会話ができる
		4週	4. ホテルでの会話(2)	器具の故障を伝えることができる
		5週	5. レストランでの会話(1)	注文ができる
		6週	6. レストランでの会話(2)	ファストフード店で注文ができる
		7週	7. ショッピングでの会話(1)	欲しいものを伝えることができる
		8週	8. ショッピングでの会話(2)	返品などができる
	4thQ	9週	9. ショッピングでの会話(3)	値下げ交渉ができる
		10週	10. 観光地での会話	写真を撮って貰うことができる
		11週	11. 道を尋ねる	行きたい場所への交通手段を教えて貰うことができる
		12週	12. 実践発表(1)	これまで練習してきたペアで会話を行う
		13週	13. 実践発表(1)	これまで練習してきたペアで会話を行う
		14週	14. 実践発表(1)	これまで練習してきたペアで会話を行う
		15週	学年末試験	
		16週	解答と説明	解答と説明をし、学習内容を確認する

評価割合

	試験	発表	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	10	10	10	20	0	100
基礎的能力	50	10	10	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育・スポーツⅢ (M)
科目基礎情報					
科目番号	1951006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	適宜配布				
担当教員	橋本 真				
到達目標					
<p>1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。 2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。 3 硬式テニスでは基本的な技能を身につける。 4 クリエイティブスポーツ実習では自主的に自分たちでスポーツを楽しむことができる。 5 健康スポーツカルチャー実習では、健康やスポーツにかかわるさまざまな分野について理解する。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。		
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。		
評価項目3	硬式テニスに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	硬式テニスに必要な技能を習得している。	硬式テニスに必要な技能を習得していない。		
評価項目4	主体的に率先して授業の準備を計画し、状況を観察しながら実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行できない。		
評価項目5	健康やスポーツにかかわる様々な分野について、周囲と一緒に積極的に学習できる。	健康やスポーツにかかわる様々な分野について、積極的に学習できる。	健康やスポーツにかかわる様々な分野について、積極的に学習できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。				
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。				
注意点	(1) 授業時の服装は、ジャージ等の運動ができるものとする。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。←減点の対象 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、からだづくり運動	からだづくり運動の意義や必要性について理解している	
		2週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスにおいて基本的なルール、用語について理解している	
		3週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスでラリーを続けるのに必要な技能を習得している	
		4週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスでラリーを続けるのに必要な技能を習得している	
		5週	硬式テニス&選択スポーツ	ペアでラリーが20回できるようになる	
		6週	体力テスト	体力テストの意義や必要性について理解している	
		7週	体力テスト	体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している	
		8週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスのゲーム中にスマッシュ、ボレーなど適切なプレーを選択している	
	2ndQ	9週	硬式テニス&選択スポーツ	硬式テニスのゲームを自分たちで運営できる。	
		10週	硬式テニス&選択スポーツ		
		11週	硬式テニス&選択スポーツ		
		12週	健康スポーツカルチャー実習	スポーツにかかわる様々な分野について学習できる。	
		13週	健康スポーツカルチャー実習		
		14週	健康スポーツカルチャー実習		
		15週	健康スポーツカルチャー実習		

		16週		
後期	3rdQ	1週	クリエイティブスポーツ実習（屋外）	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している
		2週	クリエイティブスポーツ実習（屋外）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		3週	クリエイティブスポーツ実習（屋外）	スポーツを自分たちで楽しむために必要な技能を習得している
		4週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		5週	クラスマッチの練習（屋内）	
		6週	クラスマッチの練習（屋外）	
		7週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		8週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
	4thQ	9週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している
		10週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		11週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		12週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		13週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		14週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		15週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		16週		

評価割合

	出席点（日ごろの体調管理）	技能点（授業の運営や体育実技や関心・意欲態度）	知識・理解（計画書の提出やレポート課題）	合計
総合評価割合	30	50	20	100
体育	30	50	20	100

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育・スポーツⅢ (C・D)
科目基礎情報					
科目番号	1951007	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	適宜配布				
担当教員	橋本 真, 福田 健太郎				
到達目標					
1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。 2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。 3 クリエイティブスポーツ実習では自主的に自分たちでスポーツを楽しむことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。		
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。		
評価項目3	主体的に率先して授業の準備を計画し、状況を観察しながら実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2) (1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。				
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。				
注意点	(1) 授業時の服装は、ジャージ等の運動ができるものとする。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。 (4) 実技テストやレポート、提出物などの授業に関する成果物が全て完了することで成績評価をする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		
		2週	クリエイティブスポーツ実習 (屋外種目)	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している	
		3週	クリエイティブスポーツ実習 (屋外種目)	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している	
		4週	クリエイティブスポーツ実習 (屋外種目)		
		5週	クリエイティブスポーツ実習 (屋外種目)		
		6週	クリエイティブスポーツ実習 (屋外種目)		
		7週	クリエイティブスポーツ実習 (屋外種目)		
	4thQ	8週	クリエイティブスポーツ実習 (屋内種目)	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している	
		9週	クリエイティブスポーツ実習 (屋内種目)	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している	
		10週	クリエイティブスポーツ実習 (屋内種目)		
		11週	クリエイティブスポーツ実習 (屋内種目)		
		12週	クリエイティブスポーツ実習 (屋内種目)		
		13週	クリエイティブスポーツ実習 (屋内種目)		
		14週	クリエイティブスポーツ実習 (屋内種目)		
		15週	クリエイティブスポーツ実習 (屋内種目)		
		16週			
評価割合					
	出席点 (日ごろの体調管理)	技能点 (授業の運営や体育実技や関心・意欲態度)	知識・理解 (計画書の提出やレポート課題)	合計	
総合評価割合	30	50	20	100	
体育・スポーツⅡ	30	50	20	100	